

不動産又ハ船舶ノ價格 千分ノ三

第十七條 登録税ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徴收スルコトヲ得

第十九條 左ニ掲クルモノハ登録税ヲ課セス

- 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
- 二、三 省略

四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録  
(以外各號省略)

第十九條ノ二

信託ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録税ヲ課セス

- 一 委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録
- 二 委託者ノミカ信託財産ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於ケル財産權取得ノ登記又ハ登録

附 則 (昭和十三年三月法律第四十六號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ財産權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録税ヲ課セラルモノニ付テハ之ヲ適用セス

公稱馬力算定方法

船舶職員法ハ昭和四年法律第四十六號ヲ以テ改正セラレ機關ヲ有スル船舶ニ乗組マシムベキ機關部職員ニ付テハ其ノ機關ノ公稱馬力ニ依リテ定メラルルコトナリ其ノ公稱馬力ハ船舶所有者ニ於テ船舶職員法施行細則第十一條ニ規定スル算式ニ依リテ之ヲ算定スベキモノデアラカラ之カ算定上ニ付解釋ノ必要アリト認ムベキ諸點ヲ説明シ以テ算定者ノ参考ニ供シタイト思フ

- 一 機關ノ公稱馬力ハ將來交付セラレベキ船舶検査證書ノ公稱馬力欄ニ記入セラルモノデアラガ之ガ記入ノ時期ハ船舶検査證書ノ書換ヲ行フ機會即チ定期検査等ヲ受クル場合デアツテ其ノ際検査官吏ニ依リ船主ノ算定シタル公稱馬力ヲ更ニ試算シタル上之ヲ船舶検査證

公稱馬力算定方法

三 受託者ノ更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財産權取得ノ登記又ハ登録

前項第二號ノ規定ハ委託者ノ相續人ニ信託財産ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ當該相續人ノ財産權取得ノ登記又ハ登録ヲ以テ相續ニ因ル財産權取得ノ登記又ハ登録ト看做シ登録税ヲ課ス

第十九條ノ三 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録税ヲ課セス

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年三月法律第六號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録税ヲ課セラルモノニ付テハ之ヲ適用セス

書面ニ記載セラルルノデアアル故ニ機關ノ公稱馬力ノ記載ヲ受クルノミノ目的ニテ態々船舶検査證書ノ書替ヲ申請スルニハ及バナイモノデアアル

二 機關ノ公稱馬力ヲ算定シタルトキハ其ノ算定書ヲ必ズ船内ニ備ヘ置クベキデアアルガ其ノ算定書ニ付テハ別段一定シタル形式ナク單ニ計算ノ基礎トシタル細目ヲ明ニ列舉シ本船機關ノ公稱馬力ハ斯クノ如クニ算定シタリト臨検吏員ニ示シ得ル程度ノモノヲ以テ足ルノデアアル

三 機關ノ公稱馬力算定上必要ト爲ス細目ハ汽機ニ對シハ汽壓制限、低壓汽笛ノ數、徑及行長、汽罐ノ受熱面積通風ノ種類等又發動機ニ對シテハ氣筒ノ徑及其ノ數デアツテ執レモ船舶ニ於テ機關士ノ容易ニ測定シ得ルモノデアアルガ其ノ解釋ニ付キテハ次ニ述ブル通りデアアル

(イ) 汽壓制限

船舶検査證書ニ記載スルモノヲ云フ

(ロ) 低壓汽笛ノ數

汽機一臺ニシテ低壓汽笛二箇ヲ有スルトキ其ノ數ヲ二箇ト算スルハ元ヨリ明瞭デアアルガ今左右兩舷機ヲ備ヘ



各機一箇ノ低壓汽笛ヲ有スル場合ニ於テハ亦二箇ト算スベキデアアル尙算式上ヨリ容易ニ知り得ベキコトデアアルガ汽機二臺ニ對シ各一臺宛ノ馬力ヲ算出シ之ヲ加フルモノデアナイ

(ハ) 汽笛ノ徑  
製造當時ノ原徑ヲ云フ原徑不明ナルトキハ實測シタル徑ヲ云ヒ又徑ヲ變更スル爲内筒ヲ新換シタルモノニ對シテハ之ヲ更ニ原徑トスベキハ云フマデモナイ

(ニ) 行 長  
曲拐ノ長サ(曲拐軸及曲拐栓ノ兩中心間ノ距離)ノ二倍ヲ云フ一般ニ馬力ノ計算ニ行長ヲ關係セシムルトキ之ガ單位ヲ米又ハ呎ヲ以テスルモノデアアルガ算式ニテハ之ト異リ耗又ハ吋トシタルヲ以テ算定スルニ當リ此ノ點ハ注意スベキデアアル

(ホ) 總受熱面積  
推進機關用蒸氣ヲ發生シ得ベキ汽罐ノ總受熱面積ヲ云フ故ニ例ヘバ主汽罐五箇ヲ有スル船舶ニ於テ航海又ハ其ノ他ノ都合上交互ニ三箇ノミヲ使用スルトシテモ勿論五箇ノ受熱面積ヲ以テ算スベキハ云フ迄モナク又常ニ補助汽罐ニ使用スル小型汽罐ト雖主汽罐同様ノ汽壓

制限ヲ有シ且汽管ノ配置ガ主汽罐ニ連絡スルモノハ勿論之ヲ算入スルモノデアアル  
受熱面積ノ單位ハ平方米(平方呎)デアアルカハ耗(吋)ニテ測リタルモノハ之ヲ米(呎)ニ換算シテ計算ヲ爲スベキハ當然デアアル受熱面積ノ實測及計算ニ關シテハ次ノ定メニ依リタイト思フ

一、筒形汽罐  
筒形汽罐ノ總受熱面積トハ焰管、後管板、燃燒室板及火爐ノ各受熱面積ノ總和ヲ云フ

(イ) 焰管ノ受熱面積ハ左式ニ依ル  
 $A_1 = N \times L \times d \times \pi$

$A_1$  ハ 焰管ノ受熱面積

$d$  ハ 焰管ノ外徑

$L$  ハ 焰管ノ長 (前後兩管板間ノ長サヲ云フ)

$N$  ハ 焰管ノ數

ヨハ圓周率(三・一四一六)

(ロ) 後管板ノ受熱面積ハ左式ニ依ル

$$A_2 = a + N \times a_1$$

$A_2$  ハ 後管板ノ受熱面積

$a$  ハ 後管板ノ全面積

$$a_1 \text{ ハ 焰管取付孔ノ面積 } \left( \frac{d^2 \times \pi}{4} \right)$$

$N$  及  $a$  ハ 前ニ同ジ

(ハ) 燃燒室板ノ受熱面積ハ  
火床ヲ有スル場合ニハ火床線以上ノ各板ノ面積ノ和ヲ云フ

火床ヲ有セザル場合ニハ各板ノ面積ノ和ヲ云フ

(ニ) 火爐ノ受熱面積ハ左式ニ依ル

$$A_f = N \times L \times C$$

$A_f$  ハ 左表ニ依ル

火 爐 種 類	A
デイトン式	1 吋
モリソン サスベンション式	1 吋
リーズ、フォージ バルブ式	1 吋
フヲクス式	1 吋

$A_f$  ハ 火爐ノ受熱面積

$N$  ハ 火爐ノ數

$L$  ハ 火爐ノ長

但シ皺形火爐ニテハ一箇ノ皺ヲ長サニ向ケ皺ニ沿ヒテ測リ其ノ長サニ皺ノ數ヲ乗ジタルモノトス

又ハ次ノ皺形火爐ニテハ左式ニ依ルモ差支ハナイ

$$L_f = L + A \times n$$

$L_f$  ハ 皺ノ數



Cハ左表ニ依ル

$C = dL \times \frac{\pi}{2}$	火床線が火爐ノ中心線ノ位置ニアルモノ
$C = dL \times \frac{\pi}{2} + 2b$	火床線が火爐ノ中心線ノ位置ヨリbダケ下ニアルモノハ簡單ノ方法トシテ之ニ依リテ差支ナイ
$C = dL \times \pi$	火床ヲ有セザルモノ

dfハ火爐ノ徑ニシテ皺形火爐(パイプ式ヲ除ク)ニテハゲースネック部以外ニ於ケル最大外徑ト最小内徑トノ平均徑ヲ云フ  
其他ノ火爐ニテハ最小外徑ヲ云フ

航路ノ都合上往航ニ石炭ヲ復航ニ燃油ヲ焚クガ如キモノハ火床ヲ有スルモノト見做ス

二、水管式汽罐

水管式汽罐ノ總受熱面積トハ總水管ノ受熱面積ヲ云フ即チ

$$A_t = N \times L \times d \times \pi$$

A<sub>t</sub>ハ總受熱面積

dハ水管ノ外徑

Lハ水管ノ長 但シ管ガ曲形ナルモノハ長サニ向ケ曲リニ沿ヒテ測ルモノトス

Nハ水管ノ數

左表ハ管ノ長サ一呎ニ對シ平方呎ニ於ケル受熱面積ヲ集メタルモノナレバ表ヨリ管徑ニ對スル受熱面積ヲ求メ長サ及ビ數ヲ乘ズレバ總受熱面積ヲ知ルコトガ出來ル

管ノ外徑 (吋)	長サ一呎ニ於ケル受熱面積 (平方呎)	管ノ外徑 (吋)	長サ一呎ニ於ケル受熱面積 (平方呎)	管ノ外徑 (吋)	長サ一呎ニ於ケル受熱面積 (平方呎)
1	0.2618	2½	0.5563	3¾	0.8835
1½	0.2945	2¾	0.5890	3½	0.9163
1¾	0.3272	2⅞	0.6217	3⅝	0.9490
1⅞	0.3600	2⅘	0.6545	3⅜	0.9817
1⅝	0.3926	2⅘	0.6872	3¾	1.0044
1⅝	0.4254	2¾	0.7200	4	1.0472
1¾	0.4580	2¾	0.7540	4½	1.1126
1⅞	0.4745	3	0.7853	4½	1.1781
1⅞	0.4909	3⅛	0.8181	4¾	1.2362
1⅞	0.5072	3¼	0.8508	5	1.3680
2	0.5236	3½			

以上ハ實測ノ方法ヲ示シタルモノデアルガ多クノ船舶中ニハ偶業務ノ都合上休罐シ得ザルモノモアラウ之等ニ對シテ受熱面積ノ實測ハ多少ナリトモ不便ヲ感ズルコトデアルカラ若シ船舶又ハ製造工場等ニ之ガ記録ノ保存スルモノアラバ其ノ數字ニ信賴シテ算定スルヲ便

公稱馬力算定方法

ナリトスベシ又何處ニモ其ノ記録ヲ存セザルトキハ船長保管ノ検査手帳ヲ管海官廳ニ持參シ係官ヨリ手帳ニ記載セル其ノ數字ヲ聞クコトモ亦一方法ナリト思フ  
四 算定上數ノ平方及立方根ハ小數點以下三位迄トス又算式ヨリ得タル數ガ100未満ノモノハ小數點以下ヲ100



以上1000未満ノモノハ一位以下ヲ1000以上八十位以下ヲ各切捨テ以テ機關ノ公稱馬力ト爲ス例ヘバ 99.25ト算出シタルトキハ 99ト爲シ 165ナラバ 160ト爲シ 1326ハ 1300ト爲スガ如シ

五 第一號表及第二號表ハ計算ヲ簡便ナラシムル一助トシテ添付シタルモノデアアルガ第一號表ハ徑、行長及汽往復汽機

$$W = \sqrt[3]{P \times \left( \frac{N \times D^2 \times \sqrt{S}}{A} + \frac{H}{B} \right)}$$

Wハ公稱馬力

Pハ汽壓制限 每平方糎珣(每平方吋封度)ニテ

Nハ低壓汽管ノ數

Dハ低壓汽管ノ徑

Sハ行長

Hハ汽罐ノ總受熱面積 平方米(平方呎)ニテ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル、但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フベシ

汽罐通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・二二七(三二)
強壓通風ナルトキ	七〇四〇〇(九〇)	一・〇三五(二七)

例 二聯成汽機一箇アリ、汽壓制限ニ5封度低壓汽管ノ數一箇其ノ徑13吋行長13吋汽罐ノ總受熱面積100平方呎自然通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \sqrt[3]{115 \times \left( \frac{1 \times (21.8)^2 \times \sqrt{13}}{90} \times \frac{440}{32} \right)}$$

第一號表ヨリ  $\sqrt[3]{115} = 4.862$

$$(21.8)^2 = 446.265$$

$$\sqrt[3]{13} = 2.351$$

$$\therefore W = 4.862 \times \left( \frac{1 \times 446.265 \times 2.351}{90} + 13.75 \right)$$

$$= 4.862 \times 25.407$$

$$= 123.528$$

$$= 120$$

一位以下ヲ切捨テ

例 三聯成汽罐二箇ヲ備フル汽船アリ汽機ノ低壓汽管ハ各一箇ニシテ其ノ徑56吋行長48吋汽壓制限200封度汽罐ノ總受熱面積9108平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \sqrt[3]{200 \times \left( \frac{2 \times (56)^2 \times \sqrt{48}}{90} + \frac{9108}{27} \right)}$$

第一號表ヨリ  $\sqrt[3]{200} = 5.848$

$$\sqrt[3]{48} = 3.634$$

$$(56)^2 = 3136$$

公稱馬力算定方法



$$\begin{aligned} \therefore W &= 5.848 \times \left( \frac{2 \times 3136 \times 3.634}{90} + \frac{9108}{27} \right) \\ &= 5.848 \times (253.249 + 337.333) \\ &= 5.848 \times 590.582 \\ &= 3453 \end{aligned}$$

十位以下ヲ切捨テ  
= 3400

二「タービン」汽機

$$W = \frac{H}{A \times \left(1 + \frac{B}{P}\right)}$$

W、H、Pハ前號ニ同ジ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル、但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フベシ

汽罐ノ通風種類	A	B
自然通風ナルトキ	〇・二二三〇(二三四)	一・九七(二八)
強壓通風ナルトキ	〇・二〇四四(二二二)	一・九七(二八)

例「タービン」汽機二箇ヲ備フル船舶アリ汽壓制限 200 封度、汽罐ノ總受熱面積 9508 平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{9508}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{200}\right)}$$

= 3791 十位以下ヲ切捨テ

= 3700

例 二箇ノ三聯成汽機及一箇ノ低壓タービン汽機ヲ連絡スル汽機アリ汽壓制限 200 封度總受熱面積 16861 平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

タービン汽機ノ算式ニ依ル規定ナルヲ以テ

$$W = \frac{16861}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{200}\right)}$$

= 6722

十位以下ヲ切捨テ

= 6700

例 三相交流ノ電動機二箇ヲ有スル電氣推進船アリ、發電機ノ原動機關ハスタルタービン機ナリ汽壓制限 230 封度汽罐ノ總受熱面積 6478 平方呎強壓通風ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

推進機關トシテ電動機ヲ備フル船舶ノ公稱馬力ハ發電機ノ原動機關ノ算式ニ依ル規定ナレバ

$$W = \frac{6478}{2.2 \times \left(1 + \frac{28}{230}\right)}$$

= 2624

十位以下ヲ切捨テ

= 2600

三「ヂーゼル」式發動機

$$W = \frac{N \times D^2 \times \sqrt{D}}{B} + A$$

公稱馬力算定方法



Wハ公稱馬力

Nハ氣筒ノ數

Dハ氣筒ノ徑

耗(吋)ニテ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル、但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フベシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	二九〇〇〇(一五・二九)
二「サイクル」單働發動機	六(二・〇四一)	一六一〇〇(八・四九)
四「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	一四九〇〇(七・八六)
二「サイクル」複働發動機	六(二・〇四一)	八三〇〇(四・三八)
二「サイクル」向合吸鋳發動機	六(二・〇四一)	九三〇〇(四・九〇)

豫燃室ヲ有スル「ヂーゼル」發動機ニ在リテハ算式ニ依リ得タルモノニ百分ノ八十ヲ乘ズベシ

例 「ズルザー」型四筒ニ「サイクル」單働「ヂーゼル」式發動機二箇アリ氣筒ノ徑 $\phi$ 二〇耗豫燃室ヲ有スルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{2 \times 4 \times (310)^2 \times \sqrt[3]{310 + 6}}{16100}$$

$$(310)^2 = 96100$$

$$\sqrt[3]{310} = 6.767$$

第一號表ヨリ

$$W = \frac{8 \times 96100 \times (6.767 + 6)}{16100}$$

= 609.6

豫燃室ヲ有スル故

$$W = 609.6 \times 0.8 = 487.68$$

一位以下ヲ切捨テ

∴ W = 480

又第二號表ヨリ徑310耗ハ76.2馬力ナルヲ知り

$$76.2 \times 4 \times 2 = 609.6$$

$$609.6 \times 0.8 = 487.68$$

一位以下ヲ切捨テ

∴ W = 480

例 二「サイクル」向合吸鋳式六筒「ヂーゼル」發動機アリ氣筒ノ徑 $\phi$ 二吋ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{6 \times (22)^2 \times \sqrt[3]{\frac{22}{2} + 2.041}}{4.9}$$

第一號表ヨリ (22)<sup>2</sup> = 484

$$\sqrt[3]{\frac{22}{2}} = 2.802$$

$$W = \frac{6 \times 484 \times (2.802 + 2.041)}{4.9}$$

= 2370

一位以下ヲ切捨テ

= 2300

四「ヂーゼル」式ニ非ザル發動機

公稱馬力算定方法



$$W = \frac{N \times D^2 \times (\sqrt[3]{\frac{D}{D-A}})}{B}$$

W、N、Dハ前號ニ同ジ

A、Bハ定數ニシテ左表ニ依ル、但シ英式單位ナルトキハ括弧内ノ數字ヲ用フベシ

發動機ノ種類	A	B
四「サイクル」單働發動機	1(0.34)	30000(15.82)
二「サイクル」單働發動機	1(0.34)	16700(8.80)

例 單筒二「サイクル」單働石油發動機アリ氣筒ノ徑ニ4吋ナルトキ機關ノ公稱馬力ヲ求ム

$$W = \frac{(14.5)^2 \times (\sqrt[3]{\frac{14.5}{14.5-0.34}})}{8.8}$$

第一號表ヨリ (14.5)<sup>2</sup> = 210.25

$$\sqrt[3]{14.5} = 2.438$$

$$\therefore W = \frac{210.25 \times 2.098}{8.8} = 50.12 \quad \text{小數點以下ヲ切捨テ}$$

W = 50

又第二號表ヨリ求ム

$$\frac{14}{2} - 1 = 50.12 \quad \text{馬力ナレバ}$$

$$\therefore W = 50.12 \quad \text{小數點以下ヲ切捨テ}$$

第一號表

數	平	方	立方根	數	平	方	立方根	數	平	方	立方根	數	平	方	立方根
6	36.000	1.817	938	87.890	2.108	1234	162.562	2.336	1614	260.015	2.526				
6 1/8	37.515	1.829	912	90.250	2.117	1278	165.765	2.343	1614	264.062	2.532				
6 1/4	39.062	1.843	958	92.640	2.127	13	169.000	2.351	1638	268.140	2.539				
6 3/8	40.640	1.854	934	95.062	2.136	1318	172.105	2.358	1612	272.250	2.545				
6 1/2	43.250	1.866	978	97.515	2.145	1314	175.562	2.366	1638	276.390	2.552				
6 5/8	43.890	1.878	10	100.000	2.154	1338	178.890	2.373	1634	280.562	2.558				
6 3/4	45.562	1.889	1018	102.515	2.163	1312	182.250	2.381	1678	284.765	2.564				
6 7/8	47.265	1.901	1014	105.062	2.172	1358	185.640	2.388	17	289.000	2.571				
7	49.000	1.912	1038	107.640	2.181	1334	189.062	2.395	1718	293.265	2.577				
7 1/8	50.765	1.924	1012	110.250	2.189	1378	192.515	2.402	1714	297.562	2.583				
7 1/4	52.562	1.935	1058	112.890	2.198	14	196.000	2.410	1738	301.890	2.589				
7 3/8	54.390	1.946	1084	115.562	2.207	1418	199.515	2.417	1712	306.250	2.596				
7 1/2	56.252	1.957	1078	118.265	2.215	1414	203.062	2.424	1758	310.640	2.602				
7 3/4	58.140	1.968	11	121.000	2.223	1438	206.640	2.431	1734	315.062	2.608				
7 7/8	60.062	1.978	1118	123.765	2.232	1412	210.250	2.438	1778	319.515	2.614				
8	62.015	1.989	1114	126.562	2.240	1458	213.890	2.445	18	324.000	2.620				
8 1/8	64.000	2.000	1138	129.390	2.248	1434	217.562	2.452	1818	328.515	2.626				
8 1/4	66.015	2.010	1112	132.250	2.257	1478	221.265	2.459	1814	333.962	2.632				
8 3/8	68.062	2.020	1158	135.140	2.265	15	225.000	2.466	1838	337.640	2.638				
8 1/2	70.140	2.030	1134	138.082	2.273	1518	228.765	2.473	1812	342.250	2.644				
8 3/4	72.250	2.040	1178	141.015	2.281	1514	232.562	2.479	1838	346.890	2.650				
8 7/8	74.390	2.050	12	144.000	2.289	1538	236.390	2.486	1834	351.562	2.656				
9 1/8	76.562	2.060	1218	147.015	2.297	1512	240.250	2.493	1878	356.265	2.662				
9 1/4	78.765	2.070	1214	150.062	2.305	1538	244.140	2.500	19	361.000	2.668				
9 3/8	81.000	2.080	1238	153.140	2.313	1534	248.062	2.506	1918	365.765	2.674				
9 1/2	83.265	2.089	1212	156.250	2.320	1578	252.015	2.513	1914	370.562	2.680				
9 3/4	85.562	2.099	1258	159.390	2.328	16	256.000	2.519	1938	375.390	2.685				



191 $\frac{1}{2}$	380,250	2,691	271 $\frac{1}{2}$	756,250	3,018	43	1849,000	3,503	581 $\frac{1}{2}$	3422,250	3,681
193 $\frac{1}{8}$	385,140	2,697	28	784,000	3,036	431 $\frac{1}{2}$	1892,250	3,516	59	3481,000	3,692
193 $\frac{1}{4}$	390,062	2,703	281 $\frac{1}{2}$	812,250	3,054	44	1936,000	3,530	591 $\frac{1}{2}$	3450,250	3,903
197 $\frac{1}{8}$	395,015	2,709	29	841,000	3,072	441 $\frac{1}{2}$	1980,250	3,543	60	3600,000	3,914
20	400,000	2,714	291 $\frac{1}{2}$	870,250	3,089	45	2025,000	3,556	601 $\frac{1}{2}$	3660,250	3,625
201 $\frac{1}{8}$	405,015	2,720	30	900,000	3,107	451 $\frac{1}{2}$	2070,250	3,570	61	3721,000	3,936
201 $\frac{1}{4}$	410,062	2,725	301 $\frac{1}{2}$	930,250	3,124	46	2116,000	3,583	611 $\frac{1}{2}$	3782,250	3,947
203 $\frac{1}{8}$	415,140	2,730	31	961,000	3,141	461 $\frac{1}{2}$	2192,250	3,595	62	3844,000	3,957
201 $\frac{1}{2}$	420,250	2,736	311 $\frac{1}{2}$	992,250	3,158	47	2209,000	3,608	621 $\frac{1}{2}$	3906,250	3,968
203 $\frac{1}{4}$	425,390	2,742	32	1024,000	3,174	471 $\frac{1}{2}$	2256,250	3,621	63	3969,000	3,979
203 $\frac{1}{2}$	430,562	2,748	321 $\frac{1}{2}$	1056,250	3,191	48	2304,000	3,634	631 $\frac{1}{2}$	4032,250	3,989
203 $\frac{3}{4}$	435,765	2,753	33	1089,000	3,207	481 $\frac{1}{2}$	2352,250	3,646	64	4096,000	4,000
207 $\frac{1}{8}$	441,000	2,758	331 $\frac{1}{2}$	1122,250	3,223	49	2401,000	3,659	641 $\frac{1}{2}$	4060,250	4,010
21	446,265	2,764	34	1156,000	3,239	491 $\frac{1}{2}$	2450,250	3,671	65	4225,000	4,020
211 $\frac{1}{8}$	451,562	2,769	341 $\frac{1}{2}$	1190,250	3,255	50	2500,000	3,684	651 $\frac{1}{2}$	4290,250	4,036
213 $\frac{1}{8}$	456,890	2,775	35	1226,000	3,271	501 $\frac{1}{2}$	2550,250	3,696	66	4356,000	4,051
214 $\frac{1}{2}$	462,250	2,780	351 $\frac{1}{2}$	1260,250	3,286	51	2601,000	3,708	661 $\frac{1}{2}$	4422,250	4,061
215 $\frac{1}{8}$	467,640	2,286	36	1299,000	3,301	511 $\frac{1}{2}$	2652,250	3,721	67	4487,000	4,071
213 $\frac{1}{4}$	473,062	2,791	361 $\frac{1}{2}$	1332,250	3,317	52	2704,000	3,732	671 $\frac{1}{2}$	4556,250	4,081
217 $\frac{1}{8}$	478,515	2,797	37	1369,000	3,332	521 $\frac{1}{2}$	2756,250	3,744	68	4624,000	4,091
22	484,000	2,802	371 $\frac{1}{2}$	1406,250	3,347	53	2899,000	3,756	681 $\frac{1}{2}$	4692,250	4,100
221 $\frac{1}{2}$	506,250	2,823	38	1444,000	3,361	531 $\frac{1}{2}$	2916,000	3,779	691 $\frac{1}{2}$	4830,250	4,111
23	529,000	2,843	381 $\frac{1}{2}$	1482,250	3,376	54	2907,250	3,791	70	4900,000	4,121
231 $\frac{1}{2}$	552,250	2,864	39	1521,000	3,391	541 $\frac{1}{2}$	3025,000	3,802	701 $\frac{1}{2}$	4970,250	4,131
24	576,000	2,884	391 $\frac{1}{2}$	1560,250	3,405	55	3080,250	3,814	71	5041,000	4,140
241 $\frac{1}{2}$	600,250	2,904	40	1600,000	3,419	551 $\frac{1}{2}$	3205,000	3,825	711 $\frac{1}{2}$	5112,250	4,150
25	625,000	2,924	401 $\frac{1}{2}$	1604,250	3,434	56	3136,000	3,837	72	5184,000	4,160
251 $\frac{1}{2}$	650,250	2,943	41	1681,000	3,448	57	3192,250	3,848	721 $\frac{1}{2}$	5256,250	4,169
26	676,000	2,962	411 $\frac{1}{2}$	1722,250	3,462	571 $\frac{1}{2}$	3249,000	3,859	73	5329,000	4,179
261 $\frac{1}{2}$	702,250	2,981	42	1764,000	3,473	58	3306,250	3,870	731 $\frac{1}{2}$	5402,250	4,188
27	729,000	3,000	421 $\frac{1}{2}$	1806,250	3,489		3364,000				

74	5476,000	4,198	104	10816,000	4,702	135	18225,000	5,129	166	27556,000	5,495
741 $\frac{1}{2}$	5550,250	4,207	105	11025,000	4,717	136	18496,000	5,142	167	27869,000	5,506
75	5625,000	4,217	106	11236,000	4,732	137	18769,000	5,155	168	28224,000	5,517
76	5770,000	4,235	107	11449,000	4,747	138	19044,000	5,167	169	28561,000	5,528
77	5929,000	4,254	108	11664,000	4,762	139	19321,000	5,180	170	28900,000	5,539
78	6084,000	4,272	109	11881,000	4,776	140	19600,000	5,192	171	29241,000	5,550
79	6241,000	4,290	110	12100,000	4,791	141	19881,000	5,204	172	29584,000	5,561
80	6400,000	4,308	111	12321,000	4,805	142	20164,000	5,217	173	29929,000	5,572
81	6561,000	4,326	112	12544,000	4,820	143	20449,000	5,229	174	30276,000	5,582
82	6724,000	4,344	113	12769,000	4,834	144	20736,000	5,241	175	30625,000	5,593
83	6889,000	4,363	114	12996,000	4,848	145	21025,000	5,253	176	30976,000	5,604
84	7065,000	4,379	115	13225,000	4,862	146	21316,000	5,265	177	31329,000	5,615
85	7225,000	4,396	116	13456,000	4,876	147	21609,000	5,277	178	31684,000	5,625
86	7396,000	4,414	117	13689,000	4,890	148	21904,000	5,289	179	32041,000	5,635
87	7569,000	4,431	118	13924,000	4,904	149	22101,000	5,301	180	32400,000	5,640
88	7744,000	4,447	119	14161,000	4,918	150	22500,000	5,313	181	32761,000	5,656
89	7921,000	4,464	120	14400,000	4,932	151	22801,000	5,325	182	33124,000	5,667
90	8110,000	4,481	121	14641,000	4,946	152	23104,000	5,336	183	33489,000	5,677
91	8281,000	4,497	122	14884,000	4,959	153	23049,000	5,348	184	33856,000	5,687
92	8494,000	4,514	123	15129,000	4,973	154	23716,000	5,360	185	34425,000	5,698
93	8649,000	4,530	124	15376,000	4,986	155	24025,000	5,371	186	34596,000	5,708
94	8836,000	4,546	125	15625,000	5,000	156	24335,000	5,383	187	34969,000	5,718
95	9025,000	4,562	126	15876,000	5,013	157	24649,000	5,394	188	35344,000	5,728
96	9216,000	4,573	127	16129,000	5,026	158	24964,000	5,406	189	35721,000	5,738
97	9409,000	4,594	128	16384,000	5,039	159	25281,000	5,417	190	36100,000	5,748
98	9604,000	4,610	129	16641,000	5,052	160	25600,000	5,428	191	36481,000	5,758
99	9801,000	4,626	130	16900,000	5,065	161	25921,000	5,440	192	36864,000	5,768
100	10000,000	4,641	131	17161,000	5,078	162	26244,000	5,451	193	37249,000	5,778
101	10201,000	4,657	132	17424,000	5,091	163	26569,000	5,462	194	37636,000	5,788
102	10404,000	4,672	133	17689,000	5,104	164	26896,000	5,473	195	38025,000	5,798
103	10609,000	4,687	134	17956,000	5,117	165	27225,000	5,484	196	38416,000	5,808



197	38809.000	5.818	228	51984.000	6.109	259	67081.000	6.374	410	168100.000	7.426
198	39204.000	5.828	229	52441.000	6.118	260	67600.000	6.382	415	172225.000	7.459
199	39601.000	5.838	230	52900.000	6.126	265	70225.000	6.423	420	176400.000	7.488
200	40000.000	5.848	231	53361.000	6.135	270	72900.000	6.465	425	180625.000	7.518
201	40401.000	5.857	232	53824.000	6.144	275	75625.000	6.502	430	184900.000	7.547
202	40804.000	5.867	233	54289.000	6.153	280	78400.000	6.542	435	189225.000	7.576
203	41209.000	5.877	234	54756.000	6.162	285	81225.000	6.580	440	193600.000	7.605
204	41616.000	5.886	235	55225.000	6.171	290	84100.000	6.619	445	198025.000	7.634
205	42025.000	5.896	236	55696.000	6.179	295	87025.000	6.656	450	202500.000	7.664
206	42436.000	5.905	237	56169.000	6.188	300	90000.000	6.694	455	207025.000	7.691
207	42849.000	5.915	238	56644.000	6.197	305	93025.000	6.731	460	211600.000	7.719
208	43264.000	5.924	239	57121.000	6.205	310	96100.000	6.767	465	216225.000	7.747
209	43681.000	5.934	240	57600.000	6.214	315	99225.000	6.804	470	220900.000	7.774
210	44100.000	5.943	241	58081.000	6.222	320	102400.000	6.839	475	225625.000	7.802
211	44521.000	5.953	242	58564.000	6.231	325	105625.000	6.875	480	230400.000	7.829
212	44944.000	5.962	243	59049.000	6.240	330	108900.000	6.910	485	235220.000	7.856
213	45369.000	5.972	244	59536.000	6.248	335	112225.000	6.945	490	240100.000	7.883
214	45796.000	5.981	245	60025.000	6.257	340	115600.000	6.979	495	245025.000	7.910
215	46225.000	5.990	246	60516.000	6.265	345	119025.000	7.013	500	250000.000	7.937
216	46656.000	6.000	247	61009.000	6.274	350	122500.000	7.047	505	255025.000	7.963
217	47089.000	6.009	248	61504.000	6.282	355	126025.000	7.080	510	260100.000	7.989
218	47524.000	5.018	249	62001.000	6.291	360	129600.000	7.113	515	265225.000	8.015
219	47961.000	6.027	250	62500.000	6.299	365	133225.000	7.146	520	270400.000	8.041
220	48400.000	6.035	251	63001.000	6.307	370	136900.000	7.179	525	275625.000	8.067
221	48841.000	6.045	252	63504.000	6.301	375	140625.000	7.211	530	280900.000	8.092
222	49284.000	6.055	253	64009.000	6.324	380	144400.000	7.243	535	286225.000	8.118
223	49729.000	6.064	254	64516.000	6.332	385	148225.000	7.274	540	291600.000	8.143
224	50176.000	6.073	255	65025.000	6.341	390	152100.000	7.306	545	297025.000	8.168
225	50625.000	6.082	256	65536.000	6.349	395	156025.000	7.337	550	302500.000	8.193
226	51076.000	6.091	257	66049.000	6.357	400	160000.000	7.368	555	308025.000	8.217
227	51529.000	6.100	258	66564.000	6.366	405	164025.000	7.398	560	313600.000	8.242

565	319225.000	8.267	625	390625.000	8.549	685	469225.000	8.815	745	553025.000	9.065
570	323900.000	8.291	630	396900.000	8.572	690	476100.000	8.836	750	562500.000	9.085
575	330625.000	8.315	635	403225.000	8.595	695	483025.000	8.857	755	570025.000	9.105
580	336400.000	8.339	640	409600.000	8.617	700	490000.000	8.879	760	577600.000	9.125
585	342225.000	8.363	645	416025.000	8.640	705	497025.000	8.900	765	585225.000	9.145
590	348100.000	8.387	650	422509.000	8.682	710	504100.000	8.921	770	592900.000	9.165
595	354025.000	8.410	655	429025.000	8.684	715	511225.000	8.942	765	600625.000	9.185
600	360000.000	8.434	660	435600.000	8.706	720	518400.000	8.962	780	608400.000	9.205
605	366025.000	8.457	665	442225.000	8.728	725	525625.000	8.983	785	616225.000	9.224
610	372100.000	8.480	670	448090.000	8.750	730	532900.000	9.004	790	624100.000	9.244
615	378225.000	8.504	675	455625.000	8.772	735	540225.000	9.024	795	632025.000	9.263
620	384400.000	8.527	680	462400.000	8.793	740	547600.000	9.045	800	640000.000	9.283

第二號表

「ヂーゼル」式以外ノ單働發動機						「ヂーゼル」式單働發動機					
英	公稱馬力		氣筒の徑 (吋)	公稱馬力		英	公稱馬力		氣筒の徑 (吋)	公稱馬力	
	二 キナル	四 キナル		二 キナル	四 キナル		二 キナル	四 キナル		二 キナル	四 キナル
4	2.26	1.26	4 1/8	23.83	13.25	200	11.61	6.46	7 7/8	29.43	16.34
4 1/8	2.44	1.35	4 1/4	24.51	13.63	205	12.32	6.85	8	30.46	16.91
4 1/4	2.63	1.46	4 3/8	25.19	14.01	210	13.05	7.26	8 1/8	31.49	17.49
4 1/2	2.81	1.56	4 1/2	25.89	14.40	215	13.81	7.68	8 1/4	32.55	18.07
4 3/4	3.01	1.67	4 3/4	26.60	14.80	220	14.59	8.12	8 1/2	33.63	18.67
5 1/8	3.22	1.79	5 1/8	27.32	15.20	225	15.40	8.57	5 1/2	34.72	19.28

公稱馬力算定方法



34 7/8	3.43	1.91	3/8	28.05	15.60	230	16.23	9.03	5/8	35.83	19.90	260	51.98	28.86
5	3.66	2.03	1/4	28.80	16.02	235	17.09	9.51	3/4	36.98	20.53	270	56.43	31.32
1/8	3.88	2.16	5/8	29.56	16.44	240	17.98	10.01	7/8	38.13	21.17	275	58.72	32.60
1/4	4.13	2.29	3/4	30.32	16.86	245	18.89	10.51	1/8	39.31	21.83	280	61.07	33.90
1/2	4.37	2.43	7/8	31.10	17.30	250	19.83	11.03	9	40.50	22.49	290	65.91	36.59
3/8	4.63	2.57	1/2	31.89	17.74	255	20.79	11.57	1/8	41.72	23.16	295	68.40	37.97
1/2	4.89	2.72	1/8	32.69	18.18	260	21.78	12.12	1/4	42.05	23.84	300	70.96	39.39
5/8	5.17	2.87	1/4	33.50	18.63	265	22.80	12.69	3/8	44.20	24.54	310	76.20	42.30
3/4	5.45	3.09	3/8	34.33	19.09	270	23.84	13.27	1/1	45.47	25.25	320	81.65	45.33
7/8	5.74	3.19	1/2	35.15	19.55	275	24.91	13.86	5/8	46.76	25.96	330	87.32	48.47
6	6.04	3.36	5/8	36.00	20.02	280	26.01	14.48	3/4	48.07	26.69	340	93.19	51.73
1/8	6.34	3.53	3/4	36.87	20.51	285	27.13	15.10	7/8	49.41	27.43	350	99.27	55.11
1/4	6.67	3.71	7/8	37.73	21.01	290	28.29	15.75	1/8	50.76	28.18	360	105.55	58.60
3/8	6.99	3.88	1/2	38.62	21.48	295	29.47	16.40	1/4	52.13	28.94	370	112.05	62.21
1/2	7.32	4.07	1/8	39.50	21.97	300	30.68	17.08	3/8	53.52	29.72	380	118.77	65.94
5/8	7.67	4.26	1/4	40.41	22.48	305	31.92	17.77	1/2	54.93	30.50	390	125.70	69.78
3/4	8.02	4.46	3/8	41.32	22.98	310	33.18	18.47	5/8	56.36	31.29	400	132.84	73.75
7/8	8.38	4.66	1/2	42.26	23.51	315	34.48	19.19	3/4	57.82	32.10	420	147.78	82.04
7	8.75	4.86	5/8	43.20	24.03	320	35.80	19.93	7/8	59.28	32.91	450	161.84	95.40
1/8	9.13	5.08	1/4	44.15	24.55	325	37.15	20.68	1/1	60.77	33.74	500	216.41	120.14
1/4	9.52	5.29	3/4	45.10	25.09	330	38.53	21.45	1/4	63.81	35.43	550	266.66	148.04
3/8	9.92	5.52	7/8	46.10	25.64	335	39.95	22.23	1/2	66.95	37.17	600	322.74	197.18
1/2	10.33	5.74	1/2	47.09	26.19	340	41.38	23.03	3/4	70.15	38.95	650	384.76	213.61
5/8	10.75	5.98	1/4	48.08	26.74	345	42.85	23.85	1/2	73.44	40.77	680	424.86	235.87
3/4	11.17	6.21	3/8	49.10	27.31	350	44.35	24.69	1/4	76.81	42.65	700	452.83	251.40
7/8	11.62	6.46	1/2	50.12	27.88	355	45.88	25.54	3/4	80.25	44.56	800	607.52	337.28
8	12.07	6.71	5/8	51.16	28.46	360	47.43	26.40	1/2	83.80	46.53			
1/8	12.52	6.96	3/4	52.21	29.04	365	49.03	27.29	1/4	87.42	48.54			
1/4	12.99	7.22	7/8	53.27	29.63	370	50.65	28.19	1/8	91.13	50.60			
3/8	13.47	7.49	1/2	54.35	30.23	375	52.30	29.11	3/4	93.92	52.70			
1/2	13.95	7.76	1/4	55.44	30.84	380	53.98	30.04	1/2	98.78	54.85			

5/8	14.45	8.04	1/4	56.52	31.44	385	55.68	30.99	1/4	102.75	57.05			
3/4	14.96	8.32	3/8	57.64	32.06	390	57.43	31.97	1/4	106.79	59.29			
7/8	15.48	8.61	1/2	58.77	32.09	395	59.21	32.95	1/2	110.91	61.58			
9	16.01	8.90	5/8	59.92	33.33	400	61.01	33.96	3/4	115.13	63.93			
1/8	16.54	9.20	3/4	61.05	33.96	405	62.84	34.98	1/2	119.44	66.32			
1/4	17.10	9.51	7/8	62.23	34.61	410	64.70	36.01	1/4	123.81	68.74			
3/8	17.65	9.82	1/2	63.38	35.26	415	66.61	37.08	1/4	128.30	71.24			
1/2	18.22	10.13	1/8	64.59	35.92	420	68.53	38.14	3/4	132.85	73.76			
5/8	18.81	10.46	1/4	65.77	36.58	425	70.49	39.24	1/2	137.49	76.34			
3/4	19.40	10.79	3/8	67.00	37.27	430	72.48	40.35	1/4	142.23	78.97			
7/8	20.00	11.12	1/2	68.21	37.94	435	74.51	41.47	1/2	147.05	81.65			
10	20.61	11.46	5/8	69.47	38.64	440	76.57	42.62	3/4	151.97	84.38			
1/8	21.23	11.81	3/4	70.71	39.33	445	78.66	43.78	1/2	156.99	87.17			
1/4	21.87	12.16	7/8	71.96	40.03	450	80.79	44.97	1/4					
3/8	22.51	12.52	1/2	73.26	40.75				1/2					
1/2	23.16	12.88	1/4						3/4					

朝鮮船舶職員令

(大正三年四月) 朝鮮總督府令第十號

遞信大臣トアルハ朝鮮總督、地方長官トアルハ道知事

トス

第二條 遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ハ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

第三條 臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ朝鮮總督ニ於テ本令ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

附 則

第一條 朝鮮ニ船籍港ヲ有スル日本船舶ノ職員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノ及船舶職員法第九條ノ三ノ規定ヲ除クノ外船舶職員法ニ依ル但シ同法中船舶安全法トアルハ朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、

朝鮮船舶職員令



本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際海技免狀ヲ受有セスシテ現ニ船舶職員ノ職務ヲ執ル二十歳以上ノ者ニハ試験ヲ用キスシテ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ限リ効力ヲ有スル相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ船舶職員トシテ就職中ノ者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ本令施行後引續キ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限リ仍從前ノ例ニ依リ就職スルコトヲ得

附 則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(昭和九年三月一日ヨリ施行ス)

船舶職員法(法律第六十八號)以下省略

朝鮮船舶職員令施行規則

(昭和五年四月) 朝鮮總督府令第三十八號

第一條 朝鮮船舶職員令ノ施行ニ關シテハ本令ニ定ムルモ

ノ外昭和五年遞信省令第一號船舶職員法施行細則ニ依ル但シ同令第四條及第九條第四項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員法施行細則中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、遞信省トアルハ朝鮮總督府遞信局長、最寄遞信局長又ハ遞信局長トアルハ朝鮮總督府遞信局長、内地又ハ臺灣トアルハ朝鮮、船舶職員法トアルハ朝鮮船舶職員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員法、海員懲戒法トアルハ朝鮮海員懲戒令ニ於ルコトヲ定メタル海員懲戒法、明治二十九年法律第六十八號船舶職員法トアルハ大正三年制令第十號朝鮮船舶職員令、船舶職員令、船舶安全法施行規則トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則、船舶安全法施行規則第三十三條トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則第五條、官報トアルハ朝鮮總督府官報トス

第二條 朝鮮船舶職員令第三條ノ規定ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 船舶職員法施行細則第九條第一項乃至第三項ノ規定ハ日本船舶カ内地、臺灣、樺太、關東州若ハ南洋群島ノ各港間又ハ此等ノ港ト朝鮮若ハ外國ノ港トノ間ヲ航行

スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年制令第二號附則第二項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ就職スル者ハ遲滞ナク第五號書式ノ申請書二通ニ就職ノ期日及現ニ就職中ナル事實ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ引續就職者タル證明ヲ受クヘシ

前項ノ引續就職者下船シタルトキハ遲滞ナク下船ノ日ヲ明ニシ最寄管海官廳ニ其ノ旨届出ツヘシ

昭和五年制令第二號附則第二項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ就職中ノ者一時下船スルモ其ノ翌日ヨリ起算シ三十日以

内ニ同一船舶ノ同一ノ職ニ復シタルトキハ之ヲ引續就職者ト看做ス

前項ノ規定ニ依リ復職シタル者ハ其ノ都度第五號書式ノ申請書二通ニ引續就職者タル證明書、下附ノ期日ヲ證スル船員手帖其ノ他ノ證憑ヲ添附シ最寄官海官廳ニ提出シ復職ノ證明ヲ受クヘシ

效力ニ制限ヲ加ヘタル海技免狀ニシテ本令施行前ニ授與シタルモノハ第五號表ニ依リ之ニ相當スル新海技免狀ト同一ノ效力ヲ有ス

左表上欄ニ掲クル海技免狀ヲ有スル者ハ昭和七年五月十日迄ニ其ノ海技免狀ヲ各下欄ノ海技免狀ニ書換ノ申請ヲ爲スコトヲ得

效力ヲ沿海航路定限ト爲ス總噸數五十噸未滿ノ帆船ニ限リタル丙種運轉士免狀	沿岸丙種運轉士免狀
效力ヲ沿海航路若ハ平水航路ヲ航路定限ト爲ス總噸數三十噸未滿ノ汽船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀	沿岸乙種二等運轉士免狀
效力ヲ漁船ニ限リタル乙種二等運轉士免狀	



附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ航行期間内ニ在ル船舶ニ乗組マシムルヘ  
キ船舶職員ニ關シテハ該船舶方次回ノ定期検査ヲ受クルニ  
至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

朝鮮船舶職員令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和五  
年遞信省令第一號船舶職員法施行細則第一條第一號表ノ湖  
川港三等機關士免狀及近海二等機關士免狀ハ同表ノ改正ニ  
拘ラス仍從前ノ例ニ依リ之ヲ行使スルコトヲ得  
前項ノ近海二等機關士免狀ハ近海汽船二等機關士免狀ノ上  
級免狀トス

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス  
朝鮮船舶安全令第七條第一項ノ規定ニ依リ船舶検査ニ關シ  
從前ノ規定ニ依ル船舶ニ付テハ同令第八條第一項ノ規定ニ  
依リ検査ヲ受クルニ至ル迄之ニ乗組マシムヘキ船舶職員ニ  
關シ仍從前ノ例ニ依ル  
船舶職員法施行細則(遞信省令第一號)以下省略

船舶職員ノ代用海技免狀  
行使ノ特例ニ關スル件

(大正十四年十二月)  
朝鮮總督府令第三百十二號

改正 昭和十年二月  
朝鮮總督府令第三十八號

大正九年朝鮮總督府令第十四號別表第一號表又ハ第三號表  
ニ依リ船舶ニ其ノ職員トシテ乗組ミ本令施行ノ際現ニ就職  
中ノ者ハ同一ノ船舶ニ於テ同一ノ職ヲ執ル期間内ニ限り大  
正十四年朝鮮總督府令第五十八號ノ規定ニ拘ラス同別表ニ  
依リ引續キ就職スルコトヲ得本令施行後一時下船シ其ノ翌  
日ヨリ起算シ三十日以内ニ同一船舶ニ於テ同一ノ職ニ復ス  
ル者亦同シ  
前項ノ規定ニ依リ船舶職員トシテ引續キ就職セムトスル者  
ハ大正十四年十二月三十一日迄ニ又復職セントスル者ハ其  
ノ都度左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ニ通ニ就退職ノ期  
日ヲ證スル船舶員手帖其ノ他ノ證憑(復職セムトスル者ニ在  
リテハ就職届出ノ證明書ヲモ合セ)ヲ添附シ管海官廳ニ届

朝鮮船舶職員令ヲ外國船  
舶ニ準用ノ件

(大正四年十月)  
朝鮮總督府令第一百號

朝鮮船舶職員令ハ内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ船籍港ヲ  
有スル日本船舶ニシテ朝鮮ノ沿岸若ハ湖川港内ノミヲ航行  
シ又ハ朝鮮ヲ起點トシテ朝鮮外ノ地ニ航行スルモノ及湖川  
港内ノミヲ航行スル外國船ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶職員試驗規則

(昭和五年四月)  
朝鮮總督府令第三十九號

第一條 朝鮮船舶職員試驗ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ  
外昭和五年遞信省令第六號船舶職員試驗規程ニ依ル但シ  
同令第六條第一項、第七條乃至第九條及第二十條第三項  
ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

船舶職員ノ代用海技免狀行使ノ特例ニ關スル件・朝鮮船  
舶職員令ヲ外國船舶ニ準用ノ件・朝鮮船舶職員試驗規則

出テ其ノ旨證明ヲ受クヘシ

一 船舶番號、船種及船名

二 總噸數

三 航行區域

四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

五 職 名

六 海技免狀ノ種類及番號

七 就退職年月日(就職届出ニハ退職年  
月日ノ記載ヲ要ス)

八 届出ノ事由

第一項ノ規定ニ依リ就職又ハ復職シタル者下船シタルトキ  
ハ遲滞ナク管海官廳ニ其ノ旨届出ツヘシ  
管海官廳ニ於テ航路ノ狀況其ノ他正當ノ事由ニ依リ第二項  
ニ定ムル期日迄ニ届出ヲ爲スコト能ハサリシモノト認ムル  
場合ニ限り期日後ト雖届出ヲ受理スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



船舶職員試験規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、朝鮮トアルハ内地、市區町村長トアルハ府尹邑面長、明治三十八年三月遞信省令第二十號船舶職員法施行細則トアルハ大正三年朝鮮總督府令第七十九號朝鮮船舶職員令施行規則トシ別表學術試驗科目表中船員法、船舶職員法、海員懲戒法、船舶法、船舶安全法トアルハ各朝鮮船員令、朝鮮船舶職員令、朝鮮海員懲戒令、朝鮮船舶令、朝鮮船舶安全令トス

船舶職員試験規程第二條、第四條及第二十八條乃至第三十一條中管海官廳又ハ所轄管海官廳トアルハ朝鮮總督府遞信局長トス

第一條ノ二 朝鮮總督ハ内地、臺灣、樺太、關東州、南洋群島若ハ外國ノ港又ハ此等ノ各港間ヲ航行スル船舶ニ乗組ミタル履歴ハ船舶職員試験規程別表ニ定ムル受驗履歴表ニ照ラシ之ヲ相當ノ履歴トシテ認定スルコトヲ得

第一條ノ三 朝鮮總督ハ内地、臺灣若ハ關東州ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乗組ミタル履歴ハ船舶職員試験規程別表ニ定ムル受驗履歴表ニ照ラシ之ヲ相當ノ履歴トシテ認定スルコトヲ得

第二條 臺灣總督ノ授與シタル海技免狀又ハ朝鮮總督ノ適

規定第二十一條ノ規定ニ拘ラス發動機船ニ等機關士試驗及ニ等機關士試驗ヲ除クノ外本令施行前ノ試驗規則ニ定ムル學術試驗科目表ニ依リ之ヲ行フ

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船ニ付テハ從前ノ規定ニ定ムル航洋船舶又ハ大航洋船舶ニ乗組ミタル履歴ハ各之ヲ本令ニ規定スル航洋船舶又ハ大航洋船舶乘組ミタル履歴ト看做ス

近海ニ等機關士免狀ヲ受有スル者ハ從前ノ規定ニ定ムル乘船履歴ヲ以テ仍一ニ等機關士試驗ヲ受クルコトヲ得從前ノ規定ニ依ル近海ニ等機關士試驗ノ筆記試驗ニ合格シ口述試驗ニ合格セザリシ者ニ付テハ受驗者ノ選擇ニ依リ近海汽船ニ等機關士試驗又ハ近海發動機船ニ等機關士ノ筆記試驗ニ合格シタルモノト看做ス

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ施行ス

漁船ニ付テハ從前ノ規定ニ定ムル大航洋船舶ニ乗組ミタル履歴ハ之ヲ本令ニ規定スル大航洋船舶ニ乗組ミタル履歴ト看做ス

船舶職員試験規程(遞信省令第六號)以下省略

支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者ノ船舶職員試験受驗資格ニ關スル件(朝鮮)

五七七

當ト認ムル外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歴ハ朝鮮總督ノ授與シタル相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第三條 臺灣總督又ハ外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル所ニ依リ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

第四條 船舶職員試験規程第十條ノ規定ニ該當スル者及臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル者ニ對シテハ別ニ告示スル所ニ依リ筆記試驗ヲ免除ス

附 則

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前受驗資格ニ適合シタル履歴ハ本令施行後二年ヲ限リ船舶職員試験規程第四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ本令ニ依リ相當試驗ノ受驗履歴ト看做ス

機關長又ハ機關士ノ試驗ヲ受ケントスル者ニシテ本令施行前滅失、沈没其ノ他ノ事由ニ因リ機關ノ公稱馬力ヲ算定スルコト能ハサルニ至リタル船舶ニ乗組ミタリシ者ノ乘船履歴ハ本令施行前ノ試驗規則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依リ相當試驗ノ乘船履歴ト認ムルコトヲ得相當試驗ナキモノニ付テハ管海官廳ノ認定スル所ニ依ル

本令施行後昭和六年六月三十日迄學術試驗ハ船舶職員試験

### 支那事變ニ際シ軍ニ召集

セラレタル者ノ船舶職員

試験受驗資格ニ關スル件

(昭和十三年七月)  
朝鮮總督府令第四百十六號

第一條 海軍豫備員ニシテ支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレ

海軍艦船艇ニ乗組ミタル者ノ勤務履歴ハ朝鮮船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程ニ定ムル受驗履歴表中勤務ノ種類ニ付左ニ掲クル職務ヲ執リタルモノト看做ス

- 一 海軍豫備中尉 一等運轉士
- 二 海軍豫備少尉 二等運轉士
- 三 海軍豫備機關中尉 一等機關士
- 四 海軍豫備機關少尉 二等機關士

第二條 支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者カ支那ノ河川ヲ航行スル船舶ニ乗組ミタル期間ニ付テハ朝鮮船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程



第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 船舶職員試驗ヲ定期ニ行フ場所及期日ニ關スル件

(大正十四年五月) 朝鮮總督府告示第百二十號

船舶職員定期試驗ハ大正十四年六月ヨリ左ノ官廳及期日ニ於テ之ヲ執行ス  
大正三年朝鮮總督府告示第百九十二號ハ大正十四年六月ヨリ之ヲ廢止ス

官 廳	期 日
朝鮮總督府遞信局	四月、
仁川海軍出張所	十月、
朝鮮總督府遞信局	五月、
釜山海軍出張所	十一月、
	各月十日
	當日休暇日
	ナルトキハ
	順次之ヲ延
	期ス
	ヨリ

### 船舶職員法施行ニ關スル件

(昭和八年五月) 臺灣總督府令第六十一號

第一條 船舶職員法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和五年遞信省令第一號船舶職員法施行細則ニ依ル但シ同細則第十五條ノ規定ニ依リ授與スヘキ海技免狀ハ別記第一號書式ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞 信 大 臣	臺灣總督
最 寄 遞 信 局 長	臺灣總督府交通局長
遞 信 局 長	臺灣總督府
遞 信 省 長	臺灣總督府
本 籍 又 ハ 本 居	本籍又ハ本居
戶籍ノ謄本又ハ抄本	戶籍ノ謄本又ハ抄本但シ本島人ニ在リテハ戶口調査簿抄本
裁 判 所	臺灣總督府法院
報 所	臺灣總督府報

附 則

第三條 本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 明治三十八年府令第七十八號臺灣汽船職員規則施行細則及明治三十三年府令第四百四號公稱馬力算定方法ハ之ヲ廢止ス

第五條 本令施行前臺灣汽船職員規則施行細則ニ依リ爲シタル申請、届出又ハ認可ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第六條 外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニ於テハ領事官又ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ當分ノ内船舶職員ニ代ヘ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乘組マシムルコトヲ得

第七條 昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令第二十一條ニ依リ船舶職員トシテ執務スル者ハ遲滞ナク別記第二號書式ノ申請書二通ニ執職年月日及現ニ執職中ナル事實ヲ證明スル書類ヲ添附シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ引續執職者タル證明ヲ受クヘシ

第八條 前條ノ執職者下船シタルトキハ遲滞ナク下船ノ年月日ヲ最寄管海官廳ニ届出ツヘシ

第九條 昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令船舶職員試驗ヲ定期ニ行フ場所及期日ニ關スル件(朝鮮) 船舶職員法施行ニ關スル件(臺灣)

第二十二條ニ依リ授與スヘキ期限付海技免狀ハ當該船舶ノ航路、總噸數又ハ機關ノ公稱馬力ニ相當スルモノトス

第十條 昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令第二十二條ニ依リ海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ第七條ノ證明ヲ受ケタル管海官廳ヲ經由シ別記第三號書式ノ申請ヲ臺灣總督府ニ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ戶籍謄本(本島人ニ在リテハ戶口調査簿全部抄本)、船舶職員法第六條第一項第一號、第二號及第六號ニ該當セサルコトノ證明書(申請ノ日ヨリ過リ六十日以内ニ作)及第七條ニ依ル管海官廳ノ證明書寫ヲ添附スヘシ

第十一條 前條ノ申請者ハ本令施行ノ日迄ニ年齢二十年ニ達シ且六月以上引續キ當該船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執リタルコトヲ要ス  
大正十五年府令第三十二號船舶運送營業取締規則ニ依リ航海士又ハ機關士免許證ヲ受有スル者ニ付テハ前項ノ期間ハ之ヲ一月以上トス

第十二條 臺灣總督府ニ於テ第十條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登錄シ別記第四號書式ノ期限付海技免狀ヲ授與ス







管海官廳宛

申請者 氏  
現住所

名印

第三號書式

海技免狀原簿登録申請書

- 一 登録ヲ申請セントスル海技免狀ノ種類
  - 二 氏名 (振假名ヲ附スヘシ)
  - 三 本籍又ハ本居
  - 四 出生ノ年月日
  - 五 第七條ノ證明ヲ受ケタル管海官廳名
- 右海技免狀原簿ニ登録ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行ニ關スル件第十條ニ依リ及申請候也
- 年 月 日

臺灣總督宛

申請者 氏  
現住所

名印

第四號書式

花紋

特第

道府縣州廳(外國人ニ在リテハ國籍)

氏名

年 月 日 登錄 年 月 日生

(免狀種類)免狀

本免狀ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス

昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令第二十二條ニ依リ之ヲ授與ス

年 月 日

臺灣總督(爵) 氏 名印



### 船舶職員試験ニ關スル件

(昭和八年五月)  
臺灣總督府令第六十二號

第一條 船舶職員ノ試験ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除

クノ外昭和五年逓信省令第六號船舶職員試験規程ニ依ル

第二條 前條ノ逓信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ

事項トス

逓信大臣 臺灣總督

戶籍謄本 (本島人ニ在リテハ戶口調査簿全部抄本)

市區町村長 市區町村長  
本島人ニ在リテハ本居地ヲ管轄スル郡守、警察署長、警察分署長又ハ支廳長

(所轄) 逓信局長 臺灣總督府交通局總長

附則

第三條 本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海軍諸法臺灣

施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 明治三十四年府令第五十八號臺灣汽船職員試驗規程並明治三十五年府令第二十九號臺灣汽船職員試驗規程

中官吏公吏證明書ノ件ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第五條 機關長又ハ機關士ノ試験ヲ受ケントスル者ニシテ本令施行前滅失、沈没其ノ他ノ事由ニ因リ機關ノ公稱馬力ヲ算定スルコト能ハサル船舶ニ乗組ミタルモノノ乗船履歷ハ別表受驗履歷表ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本令ニ依ル相當試験ノ乗船履歷ト認ムルコトヲ得該履歷表ニ依ルコト能ハサル場合ニ於テハ管海官廳ノ認定スル所ニ依ル  
第六條 本令施行ノ際現ニ存スル常時講習會ニ付テハ主催者ヨリ本令施行後一週間内ニ船舶職員試驗規程第二十八條ノ認可ヲ申請スヘシ

(別表)

受驗履歷表

試驗ノ種類	乘組	乘船期間	受有免狀ノ種類	勤務ノ種類
發動機船三等機關士試驗	發動機船	一年六月以上	發動機船三等機關士免狀	機關運轉長
發動機船二等機關士試驗	二、二十噸以上ノ航洋發動機船	二年六月以上	發動機船二等機關士免狀	機關運轉長
二等機關士試驗	三、二百噸以上ノ航洋汽船	一年以上	三等機關士免狀	機關運轉長
發動機船一等機關士試驗	四、三百噸以上ノ航洋發動機船	一年以上	發動機船一等機關士免狀	機關運轉長
一等機關士試驗	三、五百噸以上ノ航洋汽船	一年以上	二等機關士免狀	機關運轉長
發動機船機關長試驗	二、一千噸以上ノ航洋發動機船	一年以上	發動機船等機關士免狀	一等機關士
機關長試驗	一、一千噸以上ノ航洋汽船	一年以上	一等機關士免狀	一等機關士

船舶職員試験ニ關スル件(臺灣)



### 支那事變ニ際シ軍ニ召集

### セラレタル者ノ船舶職員

### 試験受験資格ニ關スル件

(昭和十三年八月)  
臺灣總督府令第九十九號

- 第一條 海軍豫備員ニシテ支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレ  
海軍艦船艇ニ乗組ミタル者ノ勤務履歴ハ昭和八年府令第  
六十二號ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和五年遞信省令第  
六號船舶職員試験規定ニ定ムル受験履歴表中勤務ノ種類  
ニ付左ニ掲クル職務ヲ執リタルモノト看做ス
- 一 海軍豫備中尉 一等運轉士
  - 二 海軍豫備少尉 二等運轉士
  - 三 海軍豫備機關中尉 一等機關士
  - 四 海軍豫備少尉 二等機關士
- 第二條 支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者カ中華民國  
ノ河川ヲ航行スル船舶ニ乗組ミタル期間ニ付テハ前條ノ

船舶職員試験規程第六條第二項ノ規定ヲ準用ス  
附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 臺灣船舶職員法取扱心得

(昭和八年五月)  
訓令第三十四號

第一條 船舶職員法施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第七  
條ニ依リ臺灣總督府交通局總長ニ於テ船舶職員ヲ減シ又  
ハ之ニ代ヘテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシムルコト  
ヲ得ル船舶トハ海難救助船、曳船其ノ他旅客若ハ貨物ノ  
運送以外ノ用途ニ専用スルモノ又ハ淺濶船、水上滑走船  
其ノ他船體若ハ機關ノ構造カ普通ノ船舶ニ比シ著シク異  
ナルモノヲ謂フ

第二條 細則第八條ニ依ル申請ヲ認可セントスルトキハ左  
ノ各號ニ依ルヘシ

- 一 平水航路ヲ航路定限ト爲ス船舶ニ在リテハ船舶職員  
法(以下單ニ法律ト稱ス)第一號表ニ定ムル海技免狀

ヨリモ下級ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツ  
ル程度

二 平水航路ヲ航路定限ト爲ス發動機船ニシテ同一人ニ  
依リ操舵及機關運轉ヲ爲シ得ル構造ヲ有スルモノニ在  
リテハ機關長ノ乗組ヲ省略スル程度

三 近海航路第一區又ハ沿海航路ヲ航路定限ト爲ス船舶  
ニ在リテハ法律第一號表ニ定ムル海技免狀ヨリモ下級  
ノ免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充テ且運轉士及  
機關士各一名ヲ減スル程度

四 近海航路第二區ヲ航路定限ト爲ス海難救助船ニ在リ  
テハ近海航路第一區ニ相當スル船舶職員ヲ乗組マシム  
ル程度

五 公稱馬力千馬力以上ノ曳船ノ機關部職員ニ付テハ第  
一號及第三號前段ノ規定ヲ適用セサルコト

六 認可期間ハ一年以内ニ於テ適當ニ之ヲ定ムルコト

臺灣總督府交通局總長前項ノ申請ヲ認可シタルトキハ別  
記第一號書式ノ認可書ヲ交付スヘシ

第三條 管海官廳船舶検査法施行細則第五十四條第一號ノ  
二ノ規定ニ依リ航路ノ延長ヲ認可シタル場合ニ於テハ其  
ノ船舶ノ船長ニ限り法律第一號表ニ定ムル遠洋航路ニ該  
支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者ノ船舶職員試験  
受験資格ニ關スル件(臺灣)・臺灣船舶職員法取扱心得

當スル海技免狀受有者ヲ乗組マシムヘシ但シ認可ヲ受ケ  
タル區域カ船舶検査法施行細則第五十四條第一號ノ二ニ  
掲クル區域ノ一部ニシテ右海技免狀受有者ヲ乗組マシム  
ル必要ナシト認ムルモノニ付テハ意見ヲ具シ臺灣總督府  
交通局ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 細則第九條第二項ニ依ル届出アリタル場合同條第  
一項第一號乃至第三號ニ該當スルモノナルトキハ海技免  
狀受有者ヲ雇入レ難キ事由ノ有無ヲ調査スヘシ此ノ場合  
ニ於テ必要アリト認ムルトキハ該免狀ニ相當スル外國政  
府ノ免狀ヲ受有スル者其ノ他相當ノ海上履歴ヲ有スル者  
ヲ乗組マシムヘシ又同項第七號ニ該當スルモノナルトキ  
ハ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサル事實及期間ヲ調査シ若シ船  
舶所在ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ適當ナル看  
守人ヲ乗組マシムヘシ

第五條 細則第十四條第一項ニ依ル登録申請書ノ提出アリ  
タルトキハ試験合格原簿等ニ照シ申請書ノ記載事項ヲ調  
査シ登録納付書ニ貼附シタル印紙ヲ消印シ登録申請書  
ニ「照合済」及「登録税何圓納付済」ノ印ヲ捺シ當該吏  
員之ニ認印スヘシ

第六條 登録ニ關スル申請書又ハ届書ハ疑義ヲ生セサル様



字劃ヲ明瞭ニ記載セシメ行政區劃ノ變更又ハ地番號ノ改訂ニ依リ登錄ノ訂正ヲ要スル場合ニ在リテハ之ニ關スル戶籍吏(本島人ニ在リテハ戶籍官吏)ノ書面ヲ添附セシムヘシ

第七條 戶籍及身分書記載事項中本籍ハ外國人ニ付テハ國籍ノミヲ記載スルヲ以テ足ル

第八條 船舶職員法施行ニ關スル件第六條ニ依リ認可ヲ與フヘキ場合ニ於テ相當ノ技能ヲ有スル者トハ年齡滿二十年以上ニシテ左ノ履歷ヲ有シ且最近一年以內ニ於テ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事シタルモノヲ謂フ  
船長 一年以上汽船ニ乗組ミ其ノ運航ニ從事シタルコト

機關長 一年以上汽船ニ乗組ミ機關ノ運轉ニ從事シタルコト

前項ノ認可ヲ與フル場合ニ於テハ認可書ニ執職ニ不適當ナリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘキ旨ヲ與書スヘシ

第一項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滯ナク其ノ旨臺灣總督府交通局ニ報告スヘシ  
第一項ニ定ムル認可ノ標準ヲ加重又ハ輕減スヘキ必要アル場合ハ意見ヲ具シ申請書ヲ臺灣總督府交通局ニ送付ノ上指揮ヲ受クヘシ

第九條 本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

附 則

第十條 船舶職員法施行ニ關スル件第七條ニ依ル書類ヲ提出シ證明ヲ申請スル者アリタル場合添附ノ證憑ニ依リ屆書ノ記載事項正確ニシテ規定ニ適合スルモノト認ムルトキハ申請書ノ一通ニ「船舶職員法施行ニ關スル件第七條ニ依ル執職者タルコトヲ證明ス」ト與書シ管廳印押捺ノ上之ヲ添附證憑ト共ニ申請者ニ還付シ一通ハ證明年月日ヲ附記シ臺灣總督府交通局ニ送付スヘシ

第十一條 船舶職員法施行ニ關スル件第八條ニ依ル下船ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ都度遲滯ナク別記第二號書式ニ依リ臺灣總督府交通局ニ報告スヘシ

(別記)

第一號書式

船舶職員輕減認可書

船舶ノ種類及名稱	總噸數	機關ノ種類	公稱馬力	船舶ノ構造	所有者	認可期間	航行ノ目的	航行區域	乘組マシムヘキ船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類

船舶職員法施行細則第七條ニ依リ右ノ通船舶職員ノ輕減ヲ認可ス

(本書ハ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ無効トス)

年 月 日

臺灣總督府交通局總長

氏

名







### 船舶職員試験ヲ定期ニ行フ場所及期日ノ件

(昭和八年五月)  
臺灣總督府告示第六十一號

官廳	場	所	開始期日
臺灣總督府交通局	高雄市	高雄海事出張所	四月十日
	基隆市	基隆海事出張所	十月十日

備考

- 一 體格検査ハ試験ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限り試験期日ノ第一日ニ之ヲ行フ
- 二 學術試験ノ日時ハ筆記試験ニ在リテハ試験ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試験ニ在リテハ之ヲ當該受験者ニ通知ス
- 三 試験ノ開始期日カ休暇日ニ相當スルトキハ順次之ヲ延期ス

### 船舶職員試験規定第十條ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得ル者、其ノ試験ノ種類等ニ關スル件

(昭和八年五月)  
臺灣總督府告示第六十三號

船舶職員試験規程第十條ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得ル者其ノ試験ノ種類及同規程第二十條第三項ニ依リ筆記試験ヲ免除スヘキ場合ニ關シテハ昭和五年遞信省告示第千二百八十五號ニ依ル

### 船舶職員試験規定第十一條第一項ニ依ル機關工場ニ關スル件

(昭和八年五月)  
臺灣總督府告示第六十四號

船舶職員試験規程第十一條第一項ニ依ル機關工場ニ關シテハ昭和五年遞信省告示第千二百八十六號ニ依ル

### 關東州船舶職員令

(昭和十一年九月)  
勅令第三百一十一號

第一條 關東州ニ於ケル船舶ノ職員ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除ク外船舶職員法ニ依ル但シ同法中日本船舶トアルハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶、船舶安全法トアルハ關東州船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、刑法トアルハ關東州裁判事務取扱令、遞信省告示第千二百八十六號ニ依ル

船舶職員試験ヲ定期ニ行フ場所及期日ノ件(臺灣)・船舶職員試験規定第十條ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得ル者、其ノ試験ノ種類等ニ關スル件(臺灣)・關東州船舶職員令

信大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使トス

第二條 遞信大臣ノ授與シタル海技免狀ハ本令ニ依リ大使ノ授與シタルモノト看做ス

第三條 臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ニシテ大使ニ於テ本令ニ依リ授與シタルモノト同等ト認メタルモノハ之ヲ本令ニ依リ大使ノ授與シタルモノト看做ス

第四條 大使ハ關東州船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セサル船舶ニ於テ船舶職員ニ該當スル職務ヲ執ル者ノ資格ニ關シ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則  
本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム(昭和十一年九月十日關東局令第五十三號ヲ以テ同日ヨリ施行ス)



### 關東州船舶職員令施行規則

(昭和十一年九月)  
關東局令第五十四號

改正 昭和十二年四月  
關東局令第三十九號

**第一條** 關東州船舶職員令ノ施行ニ關シテハ本令ニ定ムルモノモ除クノ外遞信省令船舶職員法施行細則(第九條第四項及第二十八條ノ規定ヲ除ク)ニ依ル但シ同令中遞信大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、遞信省トアルハ關東局、最寄遞信局長又ハ遞信局長トアルハ關東海務局長、内地又ハ臺灣トアルハ關東州、船舶職員法トアルハ關東州船舶職員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員法海員懲戒法トアルハ關東州海員懲戒令、海員懲戒法第四十五條第三項トアルハ關東州海員懲戒令ニ於テ依ルコトヲ定メタル海員懲戒法第四十五條第三項、明治二十九年法律條六十八號船舶職員法トアルハ昭和十一年勅令第三百一十一號關東州船舶職員令、船舶安全法施行規則トアル

- 一 等機關士 十圓
- 二 等機關士 六圓
- 三 等機關士 三圓
- 二 登錄事項ノ變更 每一件 五十錢

附 則

本令ハ關東州船舶職員令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
關東州船舶職員規則ハ之ヲ廢止ス  
關東州船舶安全令第七條ノ規定ニ依リ船舶検査ニ關シ從前ノ規定ニ依ル船舶ニ付テハ同令第八條第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ受クルニ至ル迄之ニ乗組マシムベキ船舶職員ニ關シ仍從前ノ例ニ依ル

### 關東州船舶職員令ヲ外國船舶ニ準用ノ件

(昭和十一年九月)  
關東局令第五十五號

關東州船舶職員令ハ主トシテ關東州ノ沿岸又ハ港灣内ヲ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス  
關東州船舶職員令施行規則・關東州船舶職員令ヲ外國船舶ニ準用ノ件・關東州船舶職員試驗規則

ハ關東州船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則、官報トアルハ關東局官報トス  
**第二條** 關東州船舶職員令第三條ノ規程ニ該當スル海技免狀ハ別ニ之ヲ告示ス  
**第三條** 船舶職員法施行細則第九條第一項乃至條三項ノ規定ハ日本船舶カ内地、臺灣、樺太、朝鮮若ハ南洋群島ノ各港間又ハ此等ノ港ト關東州若ハ外國ノ港トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス

**第四條** 海技免狀原簿ニ登錄ヲ受ケントスル者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 新規登錄
  - 甲 種 船 長 十五圓
  - 甲種一等運轉士 十圓
  - 甲種二等運轉士 六圓
  - 乙 種 船 長 十圓
  - 乙種一等運轉士 四圓
  - 乙種二等運轉士 三圓
  - 丙 種 船 長 六圓
  - 丙種運轉士 二圓
  - 機 關 長 十五圓

### 關東州船舶職員試驗規則

(昭和十一年九月)  
關東局令第五十六號

本令ハ公布ノ日(昭和十一年九月十日)ヨリ之ヲ施行ス

**第一條** 關東州船舶職員試驗ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外遞信省令船舶試驗規程(第六條第二項、第七條乃至第九條及第二十條第三項ノ規定ヲ除ク)ニ依ル但シ同令中遞信大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使(所轄)遞信局長トアルハ關東海務局長、船舶職員法トアルハ關東州船舶職員令ニ依ルコトヲ定メタル船舶職員法、別表學術試驗科目表中船員法、船舶職員法、海員懲戒法船舶法、船舶安全法トアルハ各關東州船舶令、關東州船舶職員令、關東州海員懲戒令、關東州船籍令、關東州船舶安全令トス

**第二條** 大使ハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島若ハ外國ノ港又ハ之等ノ各港間ヲ航行スル船舶ニ乗組ミタル履歷ハ船舶職員試驗規程別表ニ定ムル受験履歷表ニ照ラシ



之ヲ相當ノ履歷トシテ認定スルコトヲ得

第三條 大使ハ内地、朝鮮若ハ臺灣ニ船籍港ヲ定ムル船舶又ハ外國船舶ニ乗組ミタル履歷ハ船舶職員試験規程列表ニ定ムル受驗履歷表ニ照ラシ之ヲ相當ノ履歷トシテ認定スルコトヲ得

第四條 朝鮮總督若ハ臺灣總督ノ授與シタル海技免狀又ハ大使ノ適當ト認ムル外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ大使ノ授與シタル相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第五條 朝鮮總督、臺灣總督又ハ外國政府ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル者ハ大使ノ認定スル所ニ依リ相當試験ヲ受クルコトヲ得

第六條 船舶職員試験規程第十條ニ該當スル者及朝鮮總督又ハ臺灣總督ノ授與シタル海技免狀ヲ有スル者ニ對シテハ別ニ告示スル所ニ依リ筆記試験ヲ免除ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者ノ關東州船舶職員試験受驗資格ニ關スル件

(昭和十三年八月 關東局令第七十號)

支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者ノ關東州船舶職員試験受驗資格ニ關シテハ昭和十三年遞信省令第五十二號ニ依ル但シ同令中船舶職員試験規程トアルハ關東州船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 關東州船舶職員令取扱心得ノ件

(昭和十一年九月 關東局訓令第三十七號)

海務局

關東州船舶職員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員令ノ取扱ニ關シテハ遞信省公達船舶職員法取扱心得ニ準據スヘシ

### 關東州船舶職員試験規則 取扱心得ノ件

(昭和十一年九月 關東局訓令第三十八號)

海務局

關東州船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程ノ取扱ニ關シテハ遞信省公達船舶職員試験規程取扱心得ニ準據スヘシ

支那事變ニ際シ軍ニ召集セラレタル者ノ關東州船舶職員試験受驗資格ニ關スル件(關東州)・關東州船舶職員令取扱心得ノ件・關東州船舶職員試験規則取扱心得ノ件・船舶職員試験ヲ行フ場所及期日ニ關スル件(關東州)

### 船舶職員試験ヲ行フ場所及期日ニ關スル件

(昭和十一年九月 關東局告示第九十四號)

船舶職員試験ニ關スル件左ノ通定メ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 試験施行ノ場所 關東海務局
- 二 試験開始期日 毎年三月十日及九月十日(休日又ハ休暇日ニ相當スルトキハ順次之ヲ延期ス)
- 三 體格検査ハ試験ノ場所ニ別段ノ揭示ヲ爲ササル限り試験期日ノ第一日及第二日ニ之ヲ行フ
- 四 學術試験ノ日時ハ筆記試験ニ在リテハ試験ノ場所ニ之ヲ揭示シ口述試験ニ在リテハ之ヲ當該受驗者ニ通知ス







第六章 水先法

水先法

(明治三十二年三月法律第六十三號)

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス  
水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條 水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス  
一 帝國臣民ナルコト

二 主務大臣ノ定ムル試験規定ニ依リ試験ニ合格シタルコト

三 水先人名簿ニ登録セラレタルコト

第三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

一 滿二十三年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者

二 剝奪公權者

三 家資分散者及破産者

四 瘋癲白痴者及身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ

水先法

不適當ナル者

五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第四條 水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス  
一 公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ

二 水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第五條 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帯スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ

第六條 水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乗込ミタルトキハ晝間ニ在リテハ水先旗ヲ掲揚シ夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條 水先人ヲ要招セントスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ



第八條 水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應ス

ヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條 二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ嚮導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條 水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條 水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條 水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導ス

一 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

二 過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條 前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條 水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶

ルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ嚮導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條 水先人水路ヲ嚮導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條 水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條 水先人ハ水先修業生一名ニ限り水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條 水先區水先旗ノ様式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及纜裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設ケルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者

二 第八條第二項、第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授受シタル者

四 水先免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五 詐偽ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者

六 水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者

七 水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲシテ水路ヲ嚮導セシメ又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者

八 水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者



ル者

第二十四條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條、第六條、第十條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト誤認シ易キ信號ヲ爲シタル者

三 水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者

四 第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ齎裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者

五 水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ船舶ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

六 水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ齎裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者

第二十五條 船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ

水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲、水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス

第二十七條 此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附 則

第二十八條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢正ス

第三十條 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換ス

前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限り之ヲ代用スルコトヲ得

舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス

水先法施行細則

(明治三十二年七月) 遞信省令第三十三號

改正 昭和十三年四月 遞信省令第三十五號

第一章 登録及免狀

第一條 水先人試驗ニ合格シタル者ハ試驗ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ水先區ノ名稱、本籍地、出生ノ年月日及合格ノ年月日ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ

第二條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登録シ第一號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

- 一 水先區ノ名稱
- 二 氏 名
- 三 本籍地
- 四 出生ノ年月日

第三十一條 此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年第三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

第三十二條 第十九條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

一 明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行前ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ

二 前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ

第三十三條 此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ



五 試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱  
六 合格ノ年月日

第三條 前條第二號及第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

變更ノ登録ヲ申請スル者ハ登録事項ノ變更ヲ證スル戸籍ノ謄本又ハ抄本ヲ申請書ニ添附スヘシ

第四條 逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ水先人ニ交付ス  
水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第五條 水先人左ノ各號ニ該當スルトキハ其事實アリタル日又ハ其事實ヲ知りタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ  
一 日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ  
二 滿六十年ニ達シタルトキ  
三 水先法第三條第二號乃至第五號ノ事項ニ該當シタルトキ

四 水先人試験規程ノ規定ニ依リ試験無効トナリタルトキ

五 廢業シタルトキ

水先人失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ現ニ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ  
抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ水先免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ逓信省ニ返還スヘシ但水先法第三條第五號ノ事項ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル場合ハ此限ニアラス

第六條 逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ抹消ノ登録ヲ爲ス

逓信省ハ左ノ場合ニ於テハ抹消ノ登録ヲ爲ス  
一 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間内ニ之ヲ爲ササルトキ  
二 詐偽ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

三 海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ  
四 水先免狀ノ水先區カ新ニ授與スル水先免狀ノ水先區ニ包含セララルニ至リタルトキ

逓信省ハ前項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當該免

狀ノ受有者又ハ保管者ニ之ヲ通知ス  
前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ

第六條ノ二 逓信省ニ於テ水先人水先法第三條第四號ノ事項ニ該當スルヤ否ヤヲ決定スル必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其體格検査ヲ執行ス

第七條 水先人ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ申請スヘシ  
逓信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ水先人ニ通知ス  
前二項ノ規定ハ水先免狀ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ逓信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ  
水先免狀ノ再交付ヲ申請スル者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ

第九條 逓信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更

水先法施行細則

ニ水先免狀ヲ水先人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ逓信省ニ返還スヘシ但水先免狀滅失シタル場合ハ此限ニアラス

第十條 第一條、第三條又ハ第八條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録税又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ之ヲ申請書ニ添附スヘシ  
前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第十一條 第三條第一項、第五條第一項、第二項、第七條第一項又ハ第八條第一項ニ依リ申請書ヲ逓信省ニ差出スニハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第十二條 水先人公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滞ナク本人又ハ水先免狀ノ保管者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ前條ノ管海官廳ニ提出スヘシ  
一 公權停止ノ理由  
二 公權停止ノ期間



三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱  
前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ公權停止ノ期間内管海官廳之ヲ保管シ期間滿了後之ヲ水先人ニ還付ス

第二章 水 先 區

第十三條 水先區ハ左ノ十三區トス

- 一 東京灣水先區 千葉縣洲ノ崎ヨリ神奈川縣城ヶ島西端ヲ經テ諸磯崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 東京港水先區 品川燈臺ヲ中心トシテ三海里ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧ヲ以テ境界トス
- 三 和泉灘水先區 和歌山縣由倉崎ヨリ兵庫縣生石鼻ニ引キタル線及兵庫縣江崎ヨリ明石川口ノ西岸ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 四 内海水先區 和歌山縣田倉崎ヨリ兵庫縣生石鼻ニ引キタル線兵庫縣潮崎ヨリ徳島縣大磯崎ニ引キタル線愛媛佐田岬ヨリ高島ヲ經テ大分縣關崎ニ引キタル線及山口縣網代崎ヨリ福岡縣妙見崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 五 下關水先區 福岡縣部崎ヨリ四十五度ニ引キタル線及福岡縣妙見崎ヨリ山口縣網代崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

- 六 長崎港水先區 長崎縣福田崎ヨリ伊王島北端ニ引キタル線及沖ノ島南端ヨリ香燒島南端ヲ經テ深堀ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 七 島原海灣水先區 長崎縣國崎ヨリ熊本縣牡蠣瀬崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トシ三角港ヲ包含セシム
- 八 函館港水先區 北海道大鼻岬ヨリ葛登支岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 九 室蘭港水先區 北海道エンルム崎ヨリ大黒島ヲ經テホテイシ崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 十 小樽港水先區 北海道平磯岬ヨリヤシバ岬ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 十一 名古屋港水先區 三重縣木曾川口突堤南端ヨリ百三十五度ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 十二 四日市港水先區 三重縣楠崎ヨリ九十度三海里半ノ點ヨリ楠崎及揖斐川突堤南端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 十三 伏木水先區 魚津燈臺ヨリ富山縣阿尾ノ鼻ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 第十三條ノ二 二以上ノ水先區ノ水先免狀ヲ有スル者ハ其中ノ一水先區ヲ、前條第一號ノ水先區ノ水先免狀ヲ有

第二十條 水先旗汚染又ハ毀損シテ水先旗タルコトヲ認メ難キニ至リタルトキハ水先人ハ新ニ之ヲ調製スヘシ

第二十一條 削除

第五章 水先船ノ免狀及艤裝

第二十二條 水先船ハ左ノ條件ヲ具備スヘシ

- 一 船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト
- 二 船側及大帆ノ上部ニ於テ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十三條 水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十四條 水先人水先船免狀ヲ受有セントスルトキハ水先船ノ種類、名稱、綱具ノ裝置、長、幅、深及積量ヲ記載シタル申請書ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

水先船水先人ノ所有ニ屬セサルトキハ其所有者ハ前項ノ申請書ニ連署スヘシ

第二十五條 管海官廳ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ水先船ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ第二號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十六條 水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ新舊

スル者ハ同條第一號又ハ第二號ノ水先區ノ中ノ一水先區ヲ、同條第四號ノ水先區ノ水先免狀ヲ有スル者ハ同條第三號乃至第五號ノ水先區ノ中ノ一水先區ヲ選ヒテ所屬水先區ト爲シ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ其所屬水先區ヲ變更セントスルトキ亦同シ

水先人前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第三章 水先案内料

第十四條 水先案内料ハ別表ニ依ル

第十五條 削除

第十六條 水先人別表ニ掲クル各航路ノ一部ヲ嚮導シタルトキハ其水先案内料ハ全部ニ對スル水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第十七條 水先人水路嚮導中海難其他不可抗力ニ依リ別表ニ掲クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル距離ノ割合ニ應スヘキモノトス

第四章 水 先 旗

第十八條 水先旗ハ第一號様式ニ依ル

第十九條 水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ橋頭、旗竿又ハ帆ノ上部其他見易キ所ニ之ヲ掲揚スヘシ

水先法施行細則



事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

管海官廳ニ於テ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先船免狀ヲ水先人ニ交付ス

第二十八條 第二十四條、第二十六條又ハ第二十七條ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ

第十條ノ規定ハ前項ノ手数料ヲ納付スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其使用ヲ停止シテ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

水先人 項ノ命令ニ違反シテ水先船ヲ使用シ又ハ其修理若クハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其效力ヲ失フ

第三十條 水先船使用スヘカラサルニ至リタルトキ又ハ其使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

所之ヲ保管シ公權停止若クハ免狀行使ノ停止期間満了ノ後之ヲ還付ス

第三十四條 第八條第一項、第九條及第十一條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 水先法令書ハ遞信省ノ印ヲ捺シタルモノニアラサレハ其效ヲ有セス

第七章 水路嚮導ノ證明

第三十六條 水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ提出スヘシ

一 船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水

二 水路ヲ嚮導シタル區域

三 水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時

四 水先案内料ノ額

船長ハ前項ノ書面ニ前項ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ若シ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ

水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ手續ヲ爲シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於

水先法施行細則

第三十條ノ二 本章ニ於テ管海官廳ト稱スルハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六章 水先法令書

第三十一條 水先法令書ハ遞信省ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

第三十二條 水先法令ニ改正アリタルトキハ遞信省ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

第三十三條 水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ

水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

第三十三條ノ二 第五條ニ依リ抹消ノ登錄ヲ申請スルトキ又ハ第六條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタルトキハ水先免狀ト共ニ水先法令書ヲ返還スヘシ

第十二條ニ依リ水先免狀ヲ管海官廳ニ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言ヒ渡サレ該免狀ヲ海員審判所ニ差出ストキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ水先法令書ハ管海官廳又ハ海員審判

テ運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其事由ヲ前項ノ書面ニ附記スヘシ

第三十七條 水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業ヲ伴ヒ乗船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項

第一號乃至第三號ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ提出スヘシ

船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第三十八條 水先人ハ水先修業生ノ請求ニ依リ其修業ニ關スル證明書ヲ交付スヘシ

第八章 水先人組合

第三十九條 水先人組合ハ當該水先區ノ所屬水先人ヲ以テ組合員トス

第四十條 遞信大臣ニ於テ水先人組合ヲ設クヘキコトヲ命シタルトキハ當該水先區ノ水先人ヲ指名シ創立委員ヲ命ス

第四十一條 創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ附スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ



添へ會日及會場ヲ通知スヘシ

組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人ハ代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

第四十二條 會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス若クハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

第四十三條 組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク其成案ヲ遞信大臣ニ差出シ其認可ヲ申請スヘシ

第四十四條 第四十一條ノ場合ニ於テ意見數說ニ分レ定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ遞信大臣ノ裁決ヲ申請スヘシ

第四十五條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合長其他組合ノ役員ニ關スルコト
- 三 組合員ノ營業ニ關スルコト
- 四 組合ノ風紀秩序ニ關スルコト
- 五 組合ノ會計ニ關スルコト
- 六 組合ノ會議ニ關スルコト
- 七 水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八 其他組合ノ處理ニ關シ必要ナルコト

第四十六條 水先人組合ニ組合長一名ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長又ハ其他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其他組合ノ役員ハ組合員ノ選舉ニ依リ上任シ其任期ハ三年以内トス

組合長組合副長ノ内一人ハ組合員以外ノ者ヲ選舉スルコトヲ得

第四十七條 組合長ハ本則及組合規約ニ依リ其職務ニ屬セシメタル事務ヲ行フ

組合副長又ハ其他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ其事故ニ依リ職務ヲ行フ能ハサル場合ニハ之ヲ代理ス

第四十八條 遞信大臣組合規約ヲ認可シタルトキハ其旨ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ組合長其他組合ノ役員選舉ヲ行ヒ其上任確定シタルトキハ遲滞ナク其氏名ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ

第四十九條 組合長ハ上任後遲滞ナク組合ノ事務所ヲ定ムヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日以内ニ其所在地ヲ

遞信省ニ届出ツヘシ事務所ノ所在地ヲ變更シタルトキ亦同シ

第五十條 組合規約ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ其成案及變更ヲ要スル事由ヲ具シ遞信大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

第四十一條乃至第四十四條ノ規定ハ組合規約ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十一條 組合長其他組合ノ役員交迭シタルトキハ新任者ノ氏名及交迭ノ事由ヲ具シ之ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ前項ノ届出ハ組合長ヨリ之ヲ爲スヘシ但組合長ノ交迭シタル場合ニ在リテハ新舊組合長ノ連署ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五十一條ノ二 水先人組合他ノ水先人組合ト其業務ニ關シ協定ヲ爲シ又ハ之ヲ變更若ハ廢止シタルトキハ各組合ノ組合長連署ヲ以テ遞信大臣ニ之ヲ届出ツヘシ

第五十二條 組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ遞信省ニ報告スヘシ

第五十三條 第四十九條第二項、第五十條第一項、第五十一條第一項、第五十一條ノ二及第五十二條ノ申請、届出

水先法施行細則

又ハ報告ヲ爲スニハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第五十四條 遞信大臣ハ組合規約ノ改正ヲ命シ水路ノ嚮導ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其事項ヲ審議スル爲メ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨視セシムルコトヲ得

第五十四條ノ二 遞信大臣水先區ノ所屬水先人ノ員數ヲ定ムル爲必要アリト認ムルトキハ第五十一條ノ二ノ協定ノ變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ新ニ協定ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十五條 水先人第四十五條第三號又ハ第四號ニ依リ組合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官廳ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十六條 前條第二項ノ申告ヲ爲ス場合ニハ申告者ハ成ルヘク證據及事實參考トナルヘキ事物ヲ提出スヘシ

第九章 雜 則

第五十七條 水先人其業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滞ナク管海官廳ハ警察官署ニ其始末ヲ届出ツヘシ



第五十八條 船長ハ其使用シタル水先人水先法第十九條第

一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其始末ヲ申告スヘシ

第五十九條 水先人其業務ヲ開始セントスルトキハ當該水先區内應招ニ便宜ノ場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ其事實アリタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ遞信省ニ届出ツヘシ

水先人組合ノ成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所トナスヘシ

第五十九條ノ二 削除

第五十三條ノ三 水先人其業務以外ノ業務ニ從事セントスルトキ又ハ二月以上其業務ヲ休止セントスルトキハ其事由ヲ具シテ其事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ノ許可ヲ受クヘシ

第六十條 水先人水先區ニ於テ左ノ事項アルコトヲ認メタルトキハ直ニ其狀況ヲ遞信省ニ報告スヘシ

- 一 航路 航路標識ニ異變アルコト
- 二 航路ノ妨害トナルヘキモノ存在スルコト
- 三 其他航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十一條 水先人ハ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ遞信大臣ノ指定スル所ニ依リ第三十六條第一項各號ニ掲クル事項ヲ届出ツヘシ

第五條第一項各號ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者ニ在リテハ其際前同報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登錄申請書ト共ニ差出スヘシ第五條第二項ニ該當シ抹消ノ登錄ヲ申請スル者亦同シ

第六條第三項ニ依リ抹消登錄ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前項ノ書面ヲ差出スヘシ

第六十一條ノ二 第五十九條、第六十條及第六十一條ノ届出又ハ報告ヲ爲シ若クハ書面ヲ差出スニハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スヘシ

第四十九條及第五十九條ノ届出又ハ第六十條ノ報告ハ港務部ノ所在地ニ在リテハ當該港務部ニモ之ヲ爲スヘシ

第十章 罰 則

第六十二條 第三條、第四條第二項、第五條、第六條第四項、第七條第一項及第三項、第八條第一項、第九條第二項、第十二條第一項、第十三條ノ二第一項、第十九條、第二十條、第二十六條、第二十七條第一項、第三十條、

二 氏名

三 本籍地

四 出生ノ年月日

第六十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ水先人名簿ニ登錄ヲ移シ水先免狀及水先法令書ヲ申請人ニ授與ス

申請人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ前條ノ管海官廳ヲ經由シ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還シ且其住所ヲ届出ツヘシ

第六十六條 水先法第三十一條ノ場合ニ於テハ第三十六條ノ規定ヲ適用セス

第六十七條 本則施行前ヨリ引續キ水先人タル者ハ本則施行ノ翌年一月第六十一條ノ手續ヲ爲スト同時ニ其前年ノ初日ヨリ本則施行ノ前日ニ至ル間及本則施行前ヨリ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ第三十六條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ニ同條第二項ノ書面ニ相當スルモノヲ添ヘ之ヲ遞信省ニ差出スヘシ

第六十二條ノ罰則ハ前項ニ違反シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條、第三十三條ノ二第一項乃至第三項、第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第四十一條第一項、第四十三條、第四十四條、第四十八條第二項、第四十九條乃至第五十二條、第五十五條第二項、第五十七條乃至第五十九條第一項、第二項、第五十九條ノ三乃至第六十一條又ハ第六十一條ノ二第二項ニ違反シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第六十三條 本則ハ水先法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六十四條 水先法第三十條第一項ニ依リ同法ニ依リテ授與スル水先免狀ト交換スヘキ舊水先免狀ヲ有スル者ハ同法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ其住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由シ舊免狀ノ寫ヲ添ヘ書面ヲ遞信省ニ差出シテ免狀ノ交換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ記載シ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戶籍吏、外國人ニ在リテハ第一號乃至第四號ノ事項ニ付キ本國領事ノ證明ヲ受ケタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

コト

水先法施行細則



附 則 大正三年十月  
遞信省令第三十三號附則

本令ハ大正三年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ本令施行ノ  
日ヨリ十四日以内ニ第十三條ノ二ノ届出ヲ爲スヘシ  
本令施行前既ニ水先人ノ業務ヲ開始シタル者ニ在リテハ本  
令施行ノ日ヨリ十四日以内ニ第五十九條ノ届出ヲ爲スヘシ  
附 則 大正八年十二月  
遞信省令第九十八號附則  
本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行前ヨリ其施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ  
於テハ其水先案内料ハ従前ノ例ニ依ル

附 則 昭和十三年四月  
遞信省令第三十五號附則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際水先人カ現ニ所屬スル水先區ハ第十三條ノ二  
第一項ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該水先人ノ所屬水先區トス  
本令施行前授與シタル隅田川水先區水先免狀ハ東京港水先  
區水先免狀ト伏木港水先區水先免狀ハ伏木水先區水先免狀  
ト同一ノ效力ヲ有スルモノト看做ス

第一號書式

第 號	氏 名
明治 年 月 日 登錄	出生ノ年月日
(菊章)	
(水先區ノ名稱)水先區水先免狀	
明治三十二年法律第六十三號水先法ニ依リ之ヲ	
授與ス	
明治 年 月 日	
遞信大臣爵 氏	名 印

(備考)

水先免狀ハ豎八寸横一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

水先法施行細則











### 水先人試験規程

(明治三十二年七月 遞信省令第三十四號)

改正 昭和五年四月 遞信省令第三十六號

第一條 水先人試験ハ遞信大臣ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

遞信大臣ハ試験期日三十日前迄ニ試験ヲ行フ管海官廳ノ名稱、試験期日、水先區ノ名稱及採用員數ヲ告示ス

第二條 水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三條 左ニ掲クル履歷ノ一ヲ有スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

一 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試験ヲ受ケンストル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

二 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケントス

第五條 履歷ハ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

一 商船ニ乗組ミタル履歷、船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書

二 海軍艦船其他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歷、當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書

三 水先修業生タリシ履歷、當該水先人及船長ノ證明書

四 試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歷航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第六條 身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一條乃至第三號ノ事項ニ付テハ戶籍吏、第四號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長ノ證明ヲ受クヘシ

一 氏名

二 本籍地

三 出生ノ年月日

四 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

第七條 水先人試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 學術試験ハ試験官吏ノ見込ニ依リ筆記試験又ハ口試ニ行フ

第九條 水先人試験規程第三條、第二十一條前段、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條 水先人試験ノ成績ハ試験ニ於テ受験人カ船長トシテ執務シタル履歷及當該水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ヲ参照シテ之ヲ定ム

附 則 本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

水先人試験規程 六二三

ル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

三、二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

東京灣水先區、和泉灘水先區、内海水先區又ハ下關水先區ノ水先人試験ニ付テハ前項各號ノ航洋船ノ總噸數ヲ三千噸以上トス

東京區水先區、長崎港水先區、函館港水先區、室蘭港水先區、小樽港水先區、名古屋港水先區、四日市港水先區又ハ伏木水先區ノ水先試験ニ付テハ第一項ノ水先修業生實務練習期間ヲ同項第一號ノ場合ニ於テハ三月以上同項第三號ノ場合ニ於テハ一月半以上トス

第三條ノ二 新ニ指定セラレタル水先區ノ最初人試験ヲ受クル者ノ履歷ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラス遞信大臣ノ告示スル所ニ依ルコトヲ得

第四條 水先人試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日七日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ其履歷書及身分書ヲ添へ受験申請書ヲ試験ヲ行フ管海官廳ニ差出スヘシ

進試験トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一 英語

二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣錨地及危險物ノ說明

三 船舶ノ嚮導及運航方法

四 羅針違差ノ檢定方法

五 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

第九條 受験申請人ハ手数料トシテ體格検査ニ付テハ一圓

學術試験ニ付テハ水先區一區毎ニ左ノ金額ヲ納付スヘシ

内海水先區水先人試験 十五圓

其他ノ水先區水先人試験 十圓

第十條 船舶職員試験規程第三條、第二十一條前段、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條ノ二 水先人試験ノ成績ハ試験ニ於テ受験人カ船長トシテ執務シタル履歷及當該水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ヲ参照シテ之ヲ定ム

附 則 本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

水先人試験規程 六二三



従前ノ規定ニ依ル受験資格ニ適合スル履歴ヲ有スル者ハ本令施行後二年間ヲ限り本令ニ依ル受験資格ヲ有スルモノト看做ス

### 水先人試験ノ受験履歴ニ關スル件

(昭和三年二月 逓信省令第十二號)

一年以上總噸數千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且本令施行ノ際現ニ伏木港ニ於テ船舶ノ水先嚮導ニ從事スル者ハ最初ノ伏木港水先區水先人試験ニ限り水先人試験規程第三條ノ二ニ掲クル履歴ノ有無ニ拘ラス受験スルコトヲ得

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 朝鮮水先令

(大正四年九月 朝鮮總督府令第五號)

改正 昭和五年四月 朝鮮總督府令第三號  
朝鮮水先令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス  
朝鮮ニ於ケル水先人ニ關シテハ水先法第二十條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中海員懲戒法トアルハ朝鮮海員懲戒令、主務大臣トアルハ朝鮮總督、海員審判所トアルハ朝鮮總督府海員審判所トス

附 則  
本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム (大正四年朝鮮總督府令第十月一日) 第百號ヲ以テ大正四年十月一日ヨリ施行

本令施行ノ際現ニ船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニハ試験ヲ用キスシテ特定ノ水先區ニ限り効力ヲ有スル水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

附 則 (昭和五年 制令第三號)  
本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

### 朝鮮水先令施行規則

(大正四年十月一日 朝鮮總督府令第百二號)

改正 昭和五年五月 朝鮮總督府令第四十七號

#### 第一章 登録及免狀

第一條 水先人試験ニ合格シタル者ハ試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ水先人名簿ニ登録ヲ申請スヘシ

第二條 削除

第三條 朝鮮總督府遞信局ニ於テ第一條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ水先人名簿ニ登録シ第三號書式ノ水先免狀ヲ申請人ニ授與ス

- 一 水先區ノ名稱
- 二 氏 名
- 三 本 籍
- 四 出生ノ年月日
- 五 水先人試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱

水先人試験ノ受験履歴ニ關スル件・朝鮮水先令・朝鮮水先令施行規則

#### 六 合格ノ年月日

第四條 前條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ有スル者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ十日内ニ第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ  
前項ノ申請書ニハ登録事項ノ變更ニ關スル戸籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添附スヘシ

第五條 朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ必要ノ場合ニハ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第六條 水先免狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知りタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ

- 一 日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ
- 二 滿六十年ニ達シタルトキ
- 三 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキ
- 四 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ



- 五 瘋癲白痴又ハ身體不具若ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ト爲リタルトキ
  - 六 朝鮮總督府海員審判所ニ於テ免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレタルトキ
  - 七 朝鮮水先人試験規則ノ規定ニ依リ合格無効ト爲リタルトキ
  - 八 廢業シタルトキ
- 水先免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 抹消ノ登錄ヲ申請スル者ハ第一項第六號ニ該當スル場合ヲ除クノ外水先免狀ヲ申請書ニ添ヘテ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出タヘシ
- 第七條** 朝鮮總督府遞信局ハ左ノ各號ノ場合ニ於テ抹消ノ登錄ヲ爲ス
- 一 前條ノ申請ヲ正當ト認メタルトキ
  - 二 抹消ノ登錄ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ

- 三 詐欺ノ所爲ヲ以テ水先免狀ヲ受ケタルコトヲ知リタルトキ
  - 四 朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀ヲ無効ト爲シタルトキ
- 朝鮮總督府遞信局第一項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス
- 前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ
- 第八條** 朝鮮總督府遞信局ニ於テ水先法第三條第四號ノ事項ニ關シ必要アリト認ムルトキハ水先人體格檢査ヲ執行ス
- 第九條** 水先免狀ヲ有スル者登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滞ナク第四號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ登錄又ハ水先免狀ノ訂正ヲ申請スヘシ
- 前項ノ錯誤又ハ遺漏第三條第一項第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルトキハ前項ノ書面ニ戶籍ノ謄本若ハ抄本ヲ添付スヘシ

朝鮮總督府遞信局ニ於テ登錄又ハ水先免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者ニ通知ス

**第十條** 朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條第一項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ登錄ヲ訂正シ又ハ水先免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

**第十一條** 水先免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ第五號書式ノ書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シテ再交付ヲ申請スヘシ

**第十二條** 朝鮮總督府遞信局ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ水先免狀ヲ申請人ニ交付ス

水先人前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ返還スヘシ但シ水先免狀滅失シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第十三條** 行政區劃ノ變更アリタルトキハ水先免狀ヲ有スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出シ水先免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ得

第四條第二項及第五條ノ規定ハ前項ノ申請アリタル場合

朝鮮水先令施行規則

ニ之ヲ準用ス

**第十四條** 水先免狀ヲ有スル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其ノ裁判確定後遲滞ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ水先免狀ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

- 一 罪名、刑名及裁判確定ノ年月日
- 二 刑ノ執行ヲ受クヘキ期間又ハ其ノ執行猶豫期間
- 三 判決ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル水先免狀ハ朝鮮總督府遞信局ニテ保管シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後之ヲ還付ス

第二章 水 先 區

**第十五條** 水先區ハ左ノ七區トス

- 一 鴨綠江水先區
- 平安北道鐵山半島南端ヨリ椴島ヲ經テ大和島ニ引キタル線及大和島ヨリ眞方位西北西ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 大同江水先區

平安南道貴林串ヨリ德島、西島及椒島ヲ經テ黃海道沈邦



崎ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

三 仁川港水先區

京畿道仁川猫角ヨリ永宗島、龍遊島、德積島、蔚島及鞍島ヲ經テ忠清南道乃坵端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

四 群山港水先區

忠清南道冬柏亭串ヨリ群山第一號挂燈浮標、飛鷹島及無衣人島ヲ經テ全羅北道嶼串ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

五 木浦港水先區

全羅南道南溪洞ヨリ大老鹿島、飛禽島、加士島及珍島ノ南端ヲ經テ海南角ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

六 釜山港水先區

慶尙南道蠟頭末ヨリ五六島及絶影島南端ヲ經テ鱒魚末ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

七 元山港水先區

咸鏡南道虎島半島南角ヨリ高島ヲ經テ江原道鴨龍端ニ引キタル線ヲ以テ境界トス

第十六條

二區以上ノ水先免狀ヲ有スル者ハ專屬水先區トシテ其ノ内ノ一區ヲ選定シ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツ

第三章 水先案内料

第十七條 水先案内料ハ總噸數千噸又ハ千噸未滿ニシテ喫

水十呎又ハ十呎未滿ノ船舶ニ付テハ別表ニ定ムル所ニ依リ總噸數千噸若ハ千噸未滿(鴨綠江水先區、群山港水先區ハ總噸數五百噸未滿)又ハ喫水一呎若ハ一呎未滿ヲ増ス毎ニ其ノ百分ノ六ヲ加フ

第十八條 前條ニ於テ喫水ト稱スルハ各水先區ニ付水先人水路ヲ嚮導スル爲船舶ニ乗組ミタル時ニハ其ノ嚮導ヲ終ル迄ノ間ニ於テ船首又ハ船尾ノ有シタル最深ノ喫水ヲ謂フ

第十九條 水先人別表ニ掲クル各航路ノ一部嚮導シタルトキハ其ノ水先案内料ハ全部ニ對スル水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

第二十條 水先人水路嚮導中海難其ノ他不可抗力ニ因リ別表ニ掲クル各航路ノ全部ヲ嚮導スルコト能ハサルトキハ水先案内料ハ嚮導シタル里程ノ割合ニ據ルヘキモノトス

第四章 水先旗及水先信號

第二十一條 水先旗ハ別記様式ニ依ル

第二十二條 水先旗ハ水先法第六條ノ場合ニ於テハ橋頭、旗竿又ハ帆ノ上部其ノ其ノ他見易キ所ニ之ヲ掲揚スヘシ

第二十三條 水先人ハ汚染又ハ毀損ノ爲水先旗タルコトヲ

認メ難キ水先旗ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十四條

水先法第七條ノ水先信號ハ晝間ニ在リテハ第一號若ハ第二號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シ夜間ニ在リテハ第三號若ハ第四號ヲ用キ又ハ之ヲ併用シテ爲スヘシ

一 前橋ニ船首旗又ハ國旗ヲ掲揚スルコト

二 萬國普通信號書ニ掲クル水先信號ヲ表示スルコト

三 十五分間毎ニ青色焰光ヲ發射スルコト

四 須臾ノ間隙ヲ以テ凡ソ一分間亮明ノ白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ表示スルコト

第五章 水先船ノ免狀及纜裝

第二十五條

水先船ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 船體ノ外部ハ黑色ト爲スコト

二 船側及大帆ノ上部ニ水先船タルコトヲ明瞭ニ表示スルコト

第二十六條

水先人水先船ヲ使用スルトキハ水先船免狀ヲ受有スヘシ

第二十七條

水先人水先船免狀ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ニ提出スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱
- 二 網具ノ裝置

朝鮮水先令施行規則

三 積量

四 長、幅、深

五 所有者ノ住所及氏名若ハ名稱

水先人ト船舶所有者ト異ナル場合ニ於テハ前項申請書ニ所有者ノ連署ヲ要ス

第二十八條 管海官廳ニ於テ前條第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ヲ検査セシメ適當ト認ムルトキハ第六號書式ノ水先船免狀ヲ授與ス

第二十九條 水先船免狀ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知

リタル日ヨリ十日内ニ新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ水先船免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 水先船免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シテ再

交付ヲ申請スヘシ

第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 管海官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ水先船ニ臨檢セシメ現狀完全ナラスト認ムルトキハ其ノ使用ヲ



停止シ必要ナル修理又ハ設備ヲ命スルコトヲ得  
水先人前項ノ命令ニ違反シテ水先船ニ使用シ又ハ其ノ修理若ハ設備ヲ爲ササルトキハ水先船免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

**第三十二條** 前條第二項ニ依リ水先船免狀ノ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ水先船ノ使用スヘカラサルニ至リタルトキ若ハ其ノ使用ヲ廢シタルトキハ水先人ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ事由ヲ具シ水先船免狀ヲ管海官廳ニ返還スヘシ

第六章 水先法令書

**第三十三條** 水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ヨリ之ヲ水先人ニ交付ス

**第三十四條** 水先法令ニ改正アリタルトキハ朝鮮總督府遞信局ハ改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類又ハ改刷シタル水先法令書ヲ水先人ニ交付ス

**第三十五條** 水先人改正ニ係ル條項ノミヲ記載シタル書類ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ水先法令書ニ綴込ムヘシ  
水先人改刷シタル水先法令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ舊法令書ヲ返還スヘシ

**第三十六條** 第六條又ハ第七條第四項ニ依リ水先免狀ヲ返

ヲ水先人ニ交付スヘシ其ノ文字ヲ削除、訂正又ハ挿入シタルトキハ之ニ認印スヘシ水先人水先法第十三條但書ノ規定ニ依リ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ嚮導シタルトキハ各船ノ船長ニ對シ第一項ノ書面ヲ交付シ各船ノ船長ハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ運航ノ自由ヲ得ヌ又ハ水先人ヲ得ル能ハサリシ船舶ノ船長ハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

**第四十條** 水先法第十六條ニ依リ水先人水先修業生ヲ伴ヒ乗船シタルトキハ水先人ハ水先修業生ヲシテ前條第一項第一號乃至第三條ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印セシメ之ヲ船長ニ交付スヘシ船長ハ前條第二項及第三項ニ準シ前項ノ書面ニ記入及署名捺印シテ之ヲ水先人ニ交付シ水先人ハ之ヲ水先修業生ニ交付スヘシ

第八章 水先人組合

**第四十二條** 水先人組合ハ當該水先區ノ水先人ヲ以テ組合員トス二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者ハ專屬水先區ノ組合員トス

**第四十三條** 朝鮮總督府水先人組合ヲ設ケシメムトスルト

朝鮮水先令施行規則

還スルトキハ水先令書ヲ添附スヘシ  
第十四條第一項ニ依リ水先免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

水先人朝鮮總督府海員審判所ニ於テ水先免狀行使ノ停止ヲ言渡サレ該免狀ヲ提出スルトキハ水先法令書ヲ添附スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第十四條第二項ノ規定ヲ準用ス  
**第三十七條** 第十一條及第十二條ノ規定ハ水先法令書滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

**第三十八條** 水先法令書ハ朝鮮總督府遞信局ノ印ヲ押捺シタルモノニ非サレハ其ノ效力ヲ有セス

第七章 水路嚮導ノ證明

**第三十九條** 水先人水路ノ嚮導ヲ終リタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ得ヘキ様調製シタル書面ニ署名捺印シテ之ヲ船長ニ交付スヘシ

- 一 船舶ノ名稱、國籍、所有者、積量及喫水
  - 二 水路ヲ嚮導シタル區域
  - 三 水路ノ嚮導ヲ始メ及之ヲ終リタル日時
  - 四 水先案内料ノ額
- 船長ハ前項ノ書面ニ其ノ事項ヲ記入シ且署名捺印シテ之

キハ當該水先區ノ水先人ノ内ヨリ創立委員ヲ命ス  
**第四十四條** 創立委員ハ組合規約ヲ起草シテ之ヲ當該水先區ノ水先人ノ會議ニ付スヘシ

創立委員ハ會日ヨリ二週間前ニ各水先人ニ組合規約案ヲ添ヘ會日時會場ヲ通知スヘシ組合規約ハ當該水先區ノ水先人總員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

水先人代理人ヲ以テ意見ヲ表示スルコトヲ得

**第四十五條** 會議ノ通知ヲ受ケタル水先人會議ニ出席セス又ハ代理人ヲ出席セシメサルトキハ規約ノ成案ニ同意シタルモノト看做ス

**第四十六條** 組合規約ヲ議決シタルトキハ創立委員ハ遲滞ナク其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可ヲ申請スヘシ

**第四十七條** 第四十四條第三項ノ場合ニ於テ意見數說ニ分別定數ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ創立委員ハ各意見ヲ具シ朝鮮總督ノ裁決ヲ申請スヘシ

**第四十八條** 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合長其ノ他組合ノ役員ニ關スルコト
- 三 組合員ノ營業ニ關スルコト



四 組合ノ風紀秩序ニ關スルコト

五 組合ノ會計ニ關スルコト

六 組合ノ會議ニ關スルコト

七 水先修業生ノ資格等ニ關スルコト

八 前各號ノ外組合ノ處理ニ關シ必要アルコト

**第四十九條** 水先人組合ニハ組合長一人ヲ置クヘシ

水先人組合ニ組合副長其ノ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

組合長其ノ他組合ノ役員ハ組合員之ヲ互選シ其ノ任期ハ

三年内トス

組合長、組合副長ノ内一人ハ特別ノ事由アル場合ニ限り

朝鮮總督府遞信局長官ノ認可ヲ受ケ組合員ニ非サル者ヲ

選任スルコトヲ得

**第五十條** 組合長ハ本令及組合規約ニ依リ其ノ職務ニ屬ス

ル事務ヲ行フ組合副長其ノ他ノ役員ハ組合長ヲ補佐シ組

合長事故アルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ職務

ヲ代理ス

**第五十一條** 朝鮮總督組合規約ヲ認可シタルトキハ其ノ旨

ヲ創立委員ニ通達ス

創立委員ハ前項ノ通達ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ組合長

其ノ他組合ノ役員ノ選舉ヲ行ヒ其ノ就任確定シタルトキ

ハ遲滞ナク其ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ  
創立委員ノ職務ハ前項ノ報告ヲ以テ終了トス

**第五十二條** 組合長ハ就任後遲滞ナク組合ノ事務所ヲ定ム

ヘシ

組合長ハ事務所ヲ定メタル日ヨリ三日内ニ其ノ所在地ヲ

朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦

同シ

**第五十三條** 組合規約ヲ變更セムトスルトキハ組合長ハ變

更ヲ要スル事由ヲ具シ其ノ成案ヲ朝鮮總督ニ提出シ認可

ヲ申請スヘシ

第四十四條、第四十五條及第四十七條ノ規定ハ組合規約

ヲ變更セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

**第五十四條** 組合長其ノ他組合ノ役員交迭シタルトキハ組

合長ハ其ノ事由ヲ具シ新任者ノ氏名ヲ朝鮮總督ニ届出ツ

ヘシ但シ組合長交迭ノ場合ニ在リテハ新組合長ノ連署ヲ

要ス

**第五十五條** 組合長ハ毎年一月前一年間ニ於ケル組合員ノ

營業ニ關スル狀況及組合ノ會計ニ關スル事項ヲ朝鮮總督

府遞信局ニ報告スヘシ

**第五十六條** 朝鮮總督ハ組合規約ノ改正ヲ命シ、水路嚮導

四 第二十七條第一項ニ依リ水先船免狀ノ交付ヲ申請ス

ルトキ

五 第二十九條第一項ニ依リ水先船免狀ノ書換ヲ申請ス

ルトキ

六 第三十條第一項ニ依リ水先船免狀ノ再交付ヲ申請ス

ルトキ

七 第三十七條ニ依リ水先法令書ノ再交付ヲ申請スルト

キ

前項第一號乃至第三號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲シ又ハ

第五號及第六號ノ申請ヲ同時ニ爲ストキハ免狀毎ニ一件

ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル

第四條ニ依リ變更ノ登錄申請ヲ爲シ水先免狀ノ書換交付

ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申

請ヲ爲ストキハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス

**第六十條** 第一條、第四條第一項、第九條第一項、第十一

條、第十三條第一項、第二十七條第一項、第二十九條第

一項、第三十條第一項、第三十七條ノ申請ヲ爲ス者ハ登

録稅又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シタル納付書

ヲ申請書ニ添付スヘシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セス

ニ關スル事項ヲ組合ニ諮問シ必要ト認ムルトキハ其ノ事

項ヲ審議スル爲メ組合會議ヲ開クヘキコトヲ命シ又ハ當該

官吏ヲシテ組合ノ會議ニ臨席セシムルコトアルヘシ

**第五十七條** 水先人第四十八條第三號又ハ第四號ニ依リ組

合規約ニ記載シタル事項ニ違反シタルトキハ朝鮮總督府

海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フ

水先人前項ノ所爲アリタルトキハ組合長ハ管海官廳ニ其

ノ旨ヲ申告スヘシ

**第五十八條** 前條第二項ノ申告ニハ證憑及事實參考ト爲ル

ヘキ資料ヲ提出スヘシ

第九章 手数料

**第五十九條** 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手

數料ヲ納付スヘシ

一 第九條第一項ニ依リ水先免狀ノ訂正ヲ申請スル場合

ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏カ免狀ヲ受有スル者ノ

過失ニ出テタルトキ

二 第十一條ニ依リ水先免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ

三 第十三條第一項ニ依リ水先免狀ノ書換ヲ申請スルト

キ

朝鮮水先令施行規則



第六十一條 水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ海難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク管海官廳又ハ警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六十二條 船長ハ其ノ使用シタル水先人水先法第十九條第一項ノ各號ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關日誌ノ寫ヲ添ヘ前條ノ官廳又ハ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

第六十三條 水先人其ノ業務ヲ開始セントスルトキハ當該水先区内ノ應招ニ便宜ナル場所ニ事務所ヲ定メ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人事務所ヲ變更シタルトキハ十日内ニ之ヲ朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

水先人組合成立シタルトキハ組合ノ事務所ヲ以テ各組合員ノ事務所ト爲スヘシ

第六十四條 二區以上ノ水先區水先免狀ヲ受有スル者其ノ專屬水先區ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク朝鮮總督府遞信局ニ届出ツヘシ

第六十五條 水先人其ノ業務以外ノ業務ニ從事セムトスルトキ又ハ結末期ヲ除キ二月以上其ノ業務ヲ休止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ朝鮮總督府遞信局長官ノ許可ヲ

ヲ提出シ又ハ水先免狀、水先法令書ヲ返還スルニハ管海官廳ヲ經由スヘシ

第七十條 第五十二條及第六十三條ノ届出又ハ第六十六條ノ報告ハ警察官署ノ所在地ニ在リテハ當該官署ニモ之ヲ爲スヘシ

第十一章 罰 則

第七十一條 第四條第一項、第六條第一項、第二項、第九條第一項、第十一條、第十四條第一項、第十六條、第十二條、第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十九條第一項、第三十條第一項、第三十五條第一項、第三十七條、第三十九條乃至第四十一條、第四十六條、第四十七條、第五十一條第二項、第五十二條乃至第五十五條、第五十七條第二項、第六十一條乃至第六十三條第一項、第二項、第六十四條乃至第六十七條、第七十條ニ違反シタル者第八條ノ體格検査ノ執行ヲ拒ミタル者第五十六條ノ命令ニ從ハス若ハ當該官吏ノ臨席ヲ拒ミタル者又ハ本令ノ規定ニ依リ水先免狀、水先船免狀、水先法令書ヲ返還若ハ添附スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

朝鮮水先令施行規則

受クヘシ

第六十六條 水先人水先區ニ於テ左ノ各號ノ事項ヲ認メタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ朝鮮總督府遞信局ニ報告スヘシ

- 一 航路、航路標識ニ異變アルコト
- 二 航路ノ妨害ト爲ルヘキモノノ存在スルコト
- 三 前二號ノ外航行上危險ノ虞アル事實アルコト

第六十七條 水先人ハ毎年一月前一年間ニ於テ水路ヲ嚮導シタル船舶ニ關シ第三十九條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ朝鮮總督府遞信局ニ提出スヘシ

第六條第一項各號ノ一又ハ第二項ニ該當シ抹消ノ登録ヲ申請スル者ニ在リテハ其ノ際前回報告以後ニ於ケル前項ノ書面ヲ該抹消登録申請書ト共ニ提出スヘシ

第七條第三項ニ依リ抹消登録ノ通知ヲ受ケタル者ハ水先免狀ト共ニ前回報告以後ニ於ケル第一項ノ書面ヲ提出スヘシ

前三項ノ書面ニハ第三十九條第二項ノ書面ヲ添附スヘシ

第六十八條 本令ニ於テ管海官廳ト稱スルハ水先人組合ノ事務所又ハ水先人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ謂フ

第六十九條 本令ノ規定ニ依リ申請、届出、報告若ハ書面

附 則

本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮水先令附則第二項ニ依リ水先免狀ヲ受有セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ申請スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二條ノ規定ヲ準用ス

附 則 (昭和五年) 朝鮮總督府令第四十七號

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス



海事法令集

第一號樣式

水先人名簿登錄申請書

- 一 水先區ノ名稱
- 二 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
- 三 本籍
- 四 出生ノ年月日
- 五 水先人試験ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
- 六 合格ノ年月日

右水先人名簿ニ登錄ノ上水先免狀授與相成度朝鮮水先令施行規則第一條ニ依リ登錄稅相添此段申請候也

年 月 日

申請人 氏 名印  
現住所

朝鮮總督府遞信局宛

第二號書式 削除

第三號書式

第 號	道府縣	氏 名
年 月 日 登錄	出生ノ年月日	名
何水先區水先免狀		
朝鮮水先令ニ依リ之ヲ授與ス		
年 月 日		
朝鮮總督府爵	氏 名印	

備考

水先免狀ハ竪八寸横一尺一寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

朝鮮水先令施行規則



第四號書式

水先人名簿變更登錄(訂正)申請書

- 一 水先免狀ノ番號
  - 二 水先區ノ名稱
  - 三 登錄ノ年月日
  - 四 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ) 新(朱書)
  - 五 本籍 新(朱書)
  - 六 出生ノ年月日 新(朱書)
- 右年月日(變更、訂正ノ事由)ニ依リ前記朱書ノ通變更ニ付變更登錄(訂正)相成度戶籍謄本(抄本)竝登錄稅(手数料)相添此段申請候也
- 年 月 日

朝鮮總督府遞信局宛

申請人 住所

氏

名 印

第五號書式

水先免狀再交付申請書

- 一 水先免狀ノ番號
  - 二 水先區ノ名稱
  - 三 登錄ノ年月日
  - 四 氏名(片假名ニテ傍訓ヲ附スヘシ)
  - 五 本籍
  - 六 出生ノ年月日
- 右年月日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由)ニ付再交付相成度手数料相添此段申請候也
- 年 月 日

朝鮮總督府遞信局宛

申請人 住所

氏

名 印



水先船免狀		
種類名稱	裝網具ノ置	積量
長	幅	深
水先人(氏名)ノ申請ニ依リ此ノ免狀ヲ授與ス		
年 月 日		
管海官廳印		

備考  
水先船免狀ハ豎一尺一寸横八寸トス

別表

水先區	航路	汽船水先案内料
東水道水先區境界線ヨリ多獅島錨地迄		三五円
又ハ多獅島錨地ヨリ東水道水先區境界線迄		
東水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄		七五
又ハ龍岩浦錨地ヨリ東水道水先區境界線迄		
東水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄		一〇〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ東水道水先區境界線迄		
東水道水先區境界線ヨリ安東縣錨地迄		一一〇
又ハ安東縣錨地ヨリ東水道水先區境界線迄		
多獅島錨地ヨリ龍岩浦錨地迄		五〇
又ハ龍岩浦錨地ヨリ多獅島錨地迄		
多獅島錨地ヨリ三道浪頭錨地迄		七〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ多獅島錨地迄		
多獅島錨地ヨリ安東縣錨地迄		八五
又ハ安東縣錨地ヨリ多獅島錨地迄		
龍岩浦錨地ヨリ三道浪頭錨地迄		三〇
又ハ三道浪頭錨地ヨリ龍岩浦錨地迄		
龍岩浦錨地ヨリ安東縣錨地迄		四〇
又ハ安東縣錨地ヨリ龍岩浦錨地迄		
三道浪頭錨地ヨリ安東縣錨地迄		二〇
又ハ安東縣錨地ヨリ三道浪頭錨地迄		
西水道水先區境界線ヨリ大東溝錨地(薪島ヲ含ム以下同シ)迄		三五
又ハ大東溝錨地ヨリ西水道水先區境界線迄		
西水道水先區境界線ヨリ龍岩浦錨地迄		六五
又ハ龍岩浦錨地ヨリ西水道水先區境界線迄		
西水道水先區境界線ヨリ三道浪頭錨地迄		八五
又ハ三道浪頭錨地ヨリ西水道水先區境界線迄		

朝鮮水先令施行規則

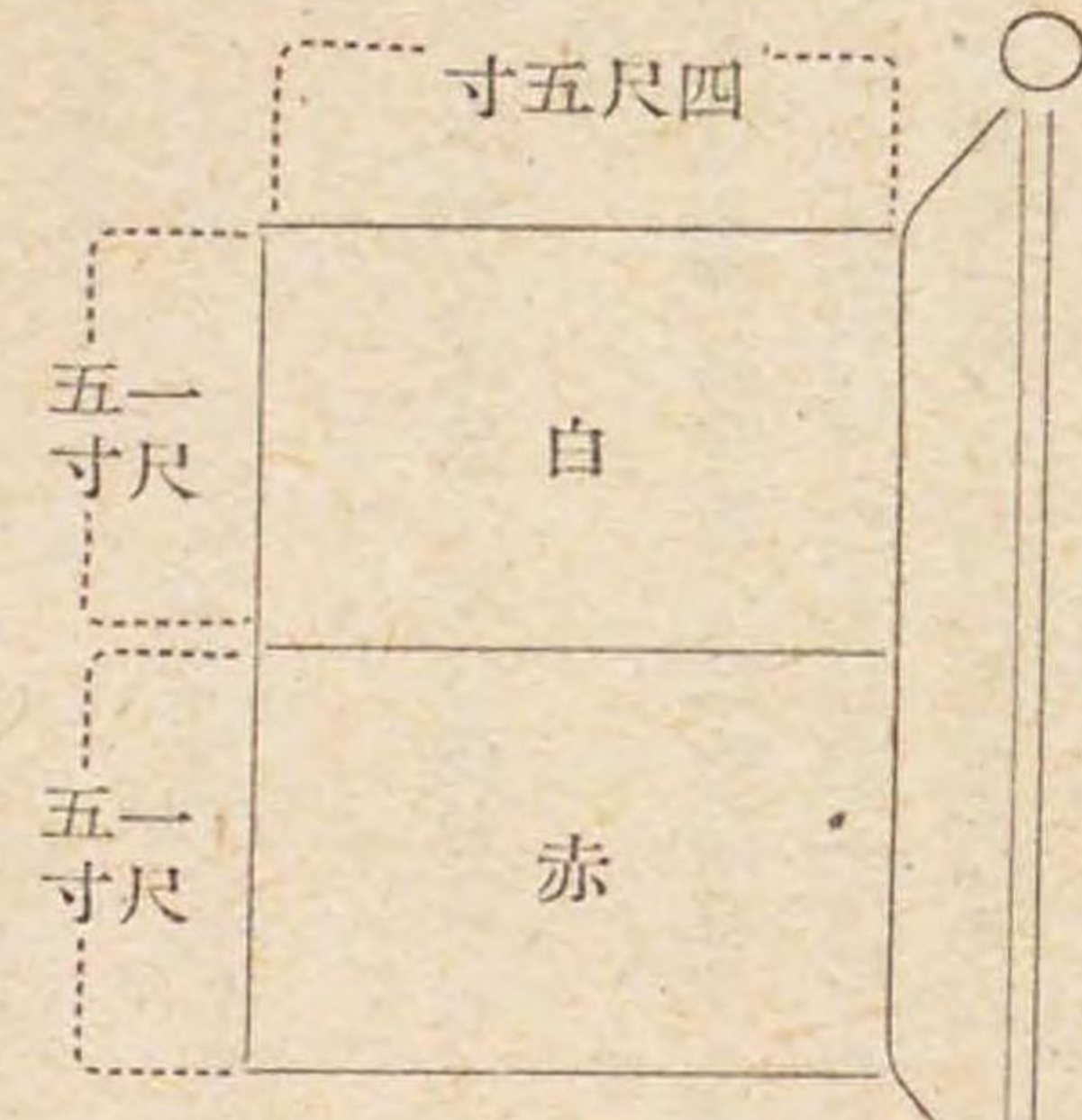


大	同	江	仁川港	群山港	木浦港	釜山港
西水道水先區境界線ヨリ安東縣錫地迄 又ハ安東縣錫地ヨリ西水道水先區境界線迄 一〇〇	大東溝錫地ヨリ龍岩浦錫地迄 又ハ龍岩浦錫地ヨリ大東溝錫地迄 三五	大東溝錫地ヨリ三道浪頭錫地迄 又ハ三道浪頭錫地ヨリ大東溝錫地迄 五五	大東溝錫地ヨリ安東縣錫地迄 又ハ安東縣錫地ヨリ大東溝錫地迄 七〇	水先區境界線ヨリ鎮南浦錫地迄 又ハ鎮南浦錫地ヨリ水先區境界線迄 五五	水先區境界線ヨリ兼二浦錫地迄 又ハ兼二浦錫地ヨリ水先區境界線迄 八五	鎮南浦錫地ヨリ兼二浦錫地迄 又ハ兼二浦錫地ヨリ鎮南浦錫地迄 四〇
水先區境界線ヨリ保山錫地迄 又ハ保山錫地ヨリ水先區境界線迄 一〇〇	鎮南浦錫地ヨリ保山錫地迄 又ハ保山錫地ヨリ鎮南浦錫地迄 六〇	水先區境界線ヨリ鎮南浦錫地迄 又ハ鎮南浦錫地ヨリ水先區境界線迄 七〇	水先區境界線ヨリ港内錫地迄 又ハ港内錫地ヨリ水先區境界線迄 四〇	北水道水先區境界線若ハ南水道水先區境界線ヨリ港内錫地迄 又ハ港内錫地ヨリ北水道水先區境界線若ハ南水道水先區境界線迄 五五	東水道水先區境界線ヨリ港内錫地迄 又ハ港内錫地ヨリ東水道水先區境界線迄 七〇	釜山港東口水先區境界線ヨリ釜山港東口水先區境界線迄 又ハ釜山港西口水先區境界線ヨリ釜山港西口水先區境界線迄 三〇
釜山港西口水先區境界線ヨリ西口水先區境界線迄 又ハ釜山港西口水先區境界線迄 一五						

元山港 水先區境界線ヨリ港内錫地迄  
又ハ港内錫地ヨリ水先區境界線迄 三五

備考  
一、帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテ機關ヲ使用スルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ  
二、鴨綠江水先區ニ於ケル帆船ノ水路嚮導ニハ曳船ヲ使用ス但シ本表水先案内料ニハ曳船賃ヲ含マズ

別記様式



朝鮮水先令施行規則



### 朝鮮水先人試験規則

(大正四年十月)  
朝鮮總督府令第三百三號

改正  
昭和五年五月  
朝鮮總督府令第四十八號

第一條 水先人試験ハ朝鮮總督ノ定ムル場所及期日ニ於テ之ヲ行フ

試験ヲ行フ管海官廳、試験期日、水先區ノ名稱及水先人ノ員數ハ試験期日三十日前ニ之ヲ告示ス

第二條 試験ヲ受クルヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

- 一 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且六月以上試験ヲ受ケムトスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト
- 二 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト
- 三 二年以上總噸數七百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト

職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シ且三月以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

第三條 水先人試験ヲ受ケムトスル者ハ試験期日七日前迄ニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書類ヲ提出スヘシ

- 一 第一號書式ノ申請書
- 二 戶籍謄本
- 三 水先法第三條第二號、第三號及第四條第一號ニ該當セサルコトノ證明書
- 四 海技免狀又ハ水先免狀ヲ受有スル者ハ其ノ寫
- 五 商船學校、水産講習所又ハ水産試験所ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ハ其ノ寫

第四條 受験申請人ハ左ニ掲ケル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ履歷ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歷ハ船長ノ就職、退職ノ認又ハ之ニ準スヘキ證明書
- 二 海軍艦船又ハ官公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歷ハ當

該官公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官公吏ノ證明書

三 水先修業生タリシ履歷ハ當該水先人及船長ノ證明書

四 試験ヲ受ケムトスル水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ハ航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

第五條 受験申請人ハ體格檢査ニ付テハ五十錢、學術試験ニ付テハ水先區一區毎ニ七圓ノ手数料ヲ納付スヘシ

第六條 試験ハ體格檢査及學術試験トス體格檢査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 學術試験ハ試験官吏ノ見込ニ依リ筆記試験又ハ口述試験トシ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ説明
- 二 船舶ノ嚮導及運航方法
- 三 羅針違差ノ檢定方法
- 四 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人本分ノ職務ニ關スル法規
- 五 英語

筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 削除

朝鮮水先人施行規則

第九條 朝鮮船舶職員試験規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶職員試験規程第三條、第二十一條(體格檢査ニ關スル規定ニ限ル)第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十條 學術試験ノ成績ハ試験官吏ニ於テ受験人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル履歷ヲモ參酌シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ朝鮮水先令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十四年十月)

本令ハ大正十四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和五年五月)

本令ハ昭和五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

受験申請書

何水先區水先人試験相受度就テハ履歷書受験資格ニ關スル證明書及戶籍ノ謄本相添此段申請候也

年 月 日

申請人

氏

名 印

現住所

管海官廳宛



# 水先法施行ニ關スル件

(昭和八年二月)  
臺灣總督府令第十八號

第一條 水先法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除ク  
ノ外明治三十二年遞信省令第三十三號水先法施行細則ニ  
依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ  
事項トス

本籍地	本籍又ハ本居地
遞信省	臺灣總督府
戶籍吏	戶籍吏但シ本島人ニ在リテハ戶籍官吏
海員審判所	臺灣總督府海員審判所
水先人ノ事務所所在地ヲ管轄スル管海官廳	管海官廳
事務所所在地ヲ管轄スル管海官廳	管海官廳
組合ノ事務所ヲ管轄スル管海官廳	管海官廳

裁判所	臺灣總督府法院
遞信大臣	臺灣總督
第一號表	別表
其ノ事務所所在地ヲ管轄スル遞信局長	臺灣總督府交通局長

第三條 水先區ハ左ノ二區トス

- 一 基隆港水先區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ基隆島ノ北東端ヲ經テ無尾溝鼻ニ引キタル線ヲ以テ境界トス
- 二 高雄港水先區 高雄燈臺ヲ中心トシテ海里ノ半徑ニテ引キタル圓弧ヲ以テ境界トス

第四條 水先法施行細則第六十二條ノ規定ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

第五條 本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 明治四十五年府令第五十號基隆港水先規則及昭和四年府令第四十三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第七條 明治四十五年府令第五十號基隆港水先規則又ハ昭和四年府令第四十三號ニ依ル甲號様式ノ水先免狀ヲ受有

シ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ際船舶ノ水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニ對シテハ申請ニ依リ學術試驗ヲ用ヒシテ舊水先免狀記載ノ水先區ニ該當スル水先區ノ水先免狀ヲ授與ス

前項ノ申請ヲ爲サントスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ第一號ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長、第二號乃至第四號ノ事項ニ付テハ戶籍吏ノ證明書及舊免狀ノ寫ヲ添ヘ管海官廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ差出スヘシ

一 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

二 氏名

三 本籍地

四 出生ノ年月日

申請人ハ體格検査手数料トシテ金壹圓ヲ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

第八條 管海官廳ハ前項ノ申請人ニ對シ豫メ期日及場所ヲ通知シテ船舶職員試驗規程第二十一條前段ノ規定ニ準シ體格検査ヲ執行ス

前項ノ體格検査ニ合格シタル者ノ登録及水先免狀授與ノ

水先法施行ニ關スル件(臺灣)

手續ニ付テハ水先法施行細則第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ水先免狀ヲ授與セラレタル者ハ之ト引換ニ舊免狀ヲ管海官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ返還スヘシ

前項ノ水先免狀ヲ受クル迄ハ舊免狀ヲ水先免狀ニ代用スルコトヲ得

第九條 昭和四年府令第四十三號附則第二項ニ依ル水先免狀ヲ受有シ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ際水路嚮導ノ業務ニ從事スル者ニ對シテハ申請ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ管海官廳ノ定ムル所ニ從ヒ水先人試驗ヲ行フ

前項ノ試驗ニ付テハ昭和八年府令第十九號臺灣水先人試驗規程ヲ準用ス

第一項ノ水先免狀ヲ受有スル者ハ本令施行後遲滞ナク該免狀ヲ管海官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ返還スヘシ



(別表)

水先區	航路		汽船水先案内料
	航	路	
基隆港	水先區境界線ヨリ基隆内港錨地マテ		三五
	基隆内港錨地ヨリ基隆内港錨地マテ		三五 <sub>四</sub>
高雄港	水先區境界線ヨリ高雄内港錨地マテ		三五
	高雄内港錨地ヨリ高雄内港錨地マテ		二五

備考

帆船水先案内料ハ當該航路ニ於ケル汽船水先案内料ニ其ノ百分ノ八十ヲ加ヘタル額トス但シ機關ヲ有スル帆船ニ在リテハ機關ヲ使用シタルトキハ帆船水先案内料ノ範圍内ニ於テ船長ト協定スヘシ

### 臺灣水先人試験規程

(昭和八年二月) 臺灣總督府令第十九號

**第一條** 臺灣總督ハ試験期日三十日前迄ニ水先人試験ヲ行フ管海官廳ノ名稱、試験期日、試験場、水先區ノ名稱及合格員數ヲ告示ス

**第二條** 水先法第三條又ハ第四條ニ該當スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得ス

**第三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル履歴ヲ有スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

- 一 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且三月以上試験ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト
- 二 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且其ノ間ニ於テ二十回以上試験ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタルコト
- 三 二年以上總噸數二千噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ其ノ間ニ於テ十回以上試験ヲ受ケントスル水

臺灣水先人試験規程

先區ノ航海ニ從事シ且ツ一月半以上同水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト

**第四條** 水先人試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日七日前(休暇日ヲ算入セス)迄ニ履歴書及身分ニ關スル證明書ヲ添ヘ受験申請書ヲ試験ヲ行フ管海官廳ニ差出スヘシ

**第五條** 履歴ハ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歴、船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
- 二 海軍艦船其ノ他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歴、當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書
- 三 水先修業生タリシ履歴、當該水先人及船長ノ證明書
- 四 試験ヲ受ケントスル水先區ノ航船ニ從事シタル履歴航海日誌又ハ船舶所有者ノ證明書

**第六條** 身分ニ關スル證明書ニハ左ノ事項ヲ記載シ第一號乃至第三號ノ事項ニ付テハ戶籍吏(本島人ニ在リテハ戶籍官吏)、第四項ノ事項ニ付テハ本籍市區町村長(本島人ニ在リテハ本居地ヲ管轄スル郡守、市尹又支廳長)ノ證明ヲ受クヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍地又ハ本居地



三 出生ノ年月日

四 水先法第三條第二號及第三號ノ事項ニ該當セサルコト

第七條 水先人試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 學術試験ハ筆記試験及口述試験トシ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ

一 英語

二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣、錨地及危險物ノ説明

三 船舶ノ嚮導及運航方法

四 羅針違差ノ檢定方法

五 船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

試験官必要ナシト認メタルトキハ筆記試験又ハ口述試験ノ全部若ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

筆記試験及口述試験ヲ併セ行フ場合ニハ筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 受験申請人ハ手数料トシテ體格試験ニ付テハ金壹圓、學術試験ニ付テハ金十圓ヲ收入印紙ヲ以テ納付ス

ヘシ

第十條 船舶職員試験規程第三條、第二十一條前段、第二十二條乃至第二十四條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ水先人試験ニ之ヲ準用ス

第十一條 學術試験ノ成績ハ試験官ニ於テ受験人カ當該水先區ノ航海ニ從事シタル經歷ノ多少ヲモ參考シテ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年府令第四十三號附則第二項ニ依リ水先免狀ヲ受有シタル者ハ第三條ノ規定ニ拘ラス水先人試験ヲ受クルコトヲ得

### 關東州水先規則

(昭和四年七月 關東廳令第二十一號)

改正 昭和十一年 關東廳令第六十一號

第一條 水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニ非サル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條 水先區ハ左ノ三區トス

旅順港水先區 旅順港取締規則第一條ニ規定スル水域

大連港水先區 大連港規則第一條ニ規定スル水域

普蘭店港水先區 普蘭店港規則第一條ニ規定スル水域

第三條 各水先區ニ於ケル水先人ノ定數左ノ如シ

旅順港水先區 二人以内

大連港水先區 八人以内

普蘭店港水先區 二人以内

第四條 水先免狀ハ帝國臣民ニシテ水先人試験ニ合格シタル者ニ之ヲ下付ス

關東州水先規則

水先免狀ハ別記様式ニ依ル

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

一 年齢二十三年未滿ノ者及六十年以上ノ者

二 懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者

三 破産者

四 身體ノ機能障害ニ依リ水先業務ヲ營ムニ適セサル者

五 水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第六條 水先人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ヲ經テ遲滯ナク水先免狀ヲ返納スヘシ

水先人其ノ手續ヲ爲スコトヲ得サルトキハ水先免狀ヲ保管スル者ニ於テ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一 前條各號ノ一ニ該當シタルトキ

二 國籍ヲ失ヒタルトキ

三 廢業シタルトキ

四 失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキ

關東海務局長ハ水先人前項各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ直ニ水先免狀ノ返納ヲ命スヘシ

第七條 削除



**第八條** 水先免狀記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ水先免狀ヲ汚損シ若ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ヲ經テ遲滞ナク水先免狀ノ書換又ハ再下付ノ申請ヲ爲スヘシ但シ改氏名又ハ生年月日ノ訂正ノ場合ハ戶籍謄本ヲ添附スヘシ

前項ノ申請ヲ爲セントスル者ハ手数料一圓ヲ納付スヘシ  
**第九條** 水先免狀ヲ下付シタル者及返納シタル者又ハ返納ヲ命シタル者ノ氏名ハ關東局々報ヲ以テ之ヲ公告ス水先免狀ノ記載事項ヲ變更シタルトキハ其ノ人名及事由ヲ關東局々報ヲ以テ公告ス

**第十條** 水先人試験ハ關東海務局長之ヲ行フ試験ノ場所及日時水先區ノ名稱並ニ採用員數ハ試験期日三十日前迄ニ之ヲ公示ス

**第十一條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ水先人試験ヲ受クルコトヲ得

- 一 總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長トシテ二年以上遠洋近海又ハ沿海區域ノ航海ニ從事シ且三月以上免許ヲ受ケントスル水先區ニ於テ水先業務ヲ練習シタル者
- 二 總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長トシテ二年以上遠洋近海又ハ沿海區域ノ航海ニ從事シ且其ノ間ニ於テ二十

ノ證明書

(三) 水先區ノ航海ニ從事シタル經歷 船舶所有者ノ證明書又ハ航海日誌ノ寫

**第十四條** 身分證明書ニハ左ノ事項ヲ記載シ本籍地市町村長ノ證明ヲ受クヘシ

- 一 氏名
- 二 本籍地
- 三 生年月日

四 第五條第二號及第三號ニ該當セサルコト

**第十五條** 水先人試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス

學術試験ハ筆記試験及口述試験トシ左ノ事項ニ付之ヲ行フ但シ大使ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ筆記試験又ハ口述試験ノ一部又ハ全部ヲ省略スルコトアルヘシ

- 一 英語
- 二 航路標識、潮流、地勢、水路、港灣錨地及危險物ノ說明
- 三 船舶ノ嚮導及運航方法
- 四 羅針進差ノ檢定方法

關東州水先規則

回以上免許ヲ受ケントスル水先區ノ航海ニ從事シタル者

三 旅順港水先區ニ在リテハ前二號ノ外二年以上上海軍艦艇長タリシ者ニシテ滿洲國駐劄特命全權大使ニ於テ適當ト認ムル者

**第十二條** 水先人試験ヲ受ケントスル者ハ試験期日十四日前迄ニ願書ニ免許ヲ受ケントスル水先區ヲ指定シ戶籍謄本、履歷書及身分證明書ヲ添ヘ關東海務局長ニ提出スヘシ

前項ノ試験ヲ受ケントスル者ハ手数料二十圓ヲ納付スヘシ

**第十三條** 履歷書ニハ學歷、經歷及現在ノ職業ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

- 一 學歷 最終ノ學校ノ卒業證明書又ハ卒業證書寫
- 二 經歷

(イ) 商船ニ乗組ミタル經歷 船員手帳又ハ之ニ準スヘキ證明書

(ロ) 官公署ノ所屬船舶ニ乗組ミタル經歷 當該官公署ノ證明書又ハ辭令書寫

(ハ) 水先練習ヲ爲シタル經歷 指導水先人及當該船長

五 船舶ノ衝突豫防、水路港灣ノ取締其ノ他水先人ノ職務ニ關スル法規

筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

**第十六條** 水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀ヲ携帶スヘシ

水先人ハ關係官公吏ノ命令又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求アリタルトキハ直ニ水先免狀ヲ提示スヘシ

**第十七條** 同一水先區ノ水先人ハ水先人組合ヲ組織シ組合事務所ヲ設クヘシ

組合事務所ノ位置、組合約約及業務規程ハ關東海務局長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

組合約約中ニハ組合員ノ營業及組合ノ風紀秩序ニ關スル規定ヲ設クヘシ

業務規程中ニハ水路嚮導料金ニ關スル規定ヲ設クヘシ

關東海務局長必要アリト認ムルトキハ組合約約及業務規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

**第十八條** 水先人組合ハ組合長一人ヲ置キ其ノ氏名ヲ關東海務局長ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

組合長ハ組合ヲ代表シ組合約約及業務規程ノ實行ヲ監督



シ組合員ニシテ之ヲ遵守セサル者アリタルトキハ遲滞ナク關東海務局長ニ申告スヘシ  
組合長ハ毎年一月其ノ前年中ニ於ケル組合ノ狀況ヲ關東海務局長ニ報告スヘシ

第十九條

水先人ヲ要招セントスル船舶ハ晝間ニ在リテハ國際PT又ハGヲ掲ケ、夜間ニ在リテハ一分毎ニ一閃光ヲ發スルカ又ハ汽笛長聲ヲ四發スヘシ  
水先人前項ノ信號ヲ認知シタルトキハ直ニ之ニ應シ水路ノ嚮導ヲ爲スヘシ

第二十條

水先人ヲ要招シタル船長ハ豫メ運航及操縦ニ關スル準備ヲ整ヘ之ニ要スル一切ノ努力ヲ水先人ニ提供スヘシ  
水先人ヲ要招シタル船長ハ水先業務練習者ノ乗船ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條

水先人ハ同時ニ二隻以上ノ船舶ノ水先嚮導ヲ爲スコトヲ得ス  
二隻以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先人要招ノ信號ヲ掲ケタルトキハ投錨ノ早キ船舶ノ要招ニ應スヘシ但シ危難ニ罹リタル船舶アリタルトキハ其ノ順序ニ拘ラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

記シタル報告書ヲ翌月五日迄ニ關東海務局長ニ提出スヘシ  
水先人水先業務練習者ヲ隨伴シタルトキハ其ノ狀況ヲ前項報告書中ニ記載スヘシ

第二十八條

水先人他ノ業務ニ從事セントスルトキ又ハ引續キ七日以上水先業務ヲ休止セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ關東海務局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十九條

水先人其ノ業務ニ從事中海難ニ罹リタルトキハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ關東海務局長ニ届出ツヘシ

第三十條

水先人水先區内ニ於テ左ノ事項ヲ認知シタルトキハ遲滞ナク其ノ狀況ヲ關東海務局長ニ報告スヘシ  
一 航路及航路標識ノ異狀  
二 航路ノ防害トナルヘキモノノ存在  
三 航行上危險ノ虞アリト認ムルモノノ存在

第三十一條

水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ關東海員審判所ノ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス水先人第十七條第三項ノ規定ニ依リ組合規約ノ規定シタル事項ニ違反シタルトキ亦同シ  
一 過失懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメ又ハ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損

第二十二條

水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗船シタルトキハ直ニ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船舶ニ告知スヘシ  
水先業務練習ヲ隨伴シタルトキ亦同シ  
水先人水路ヲ嚮導スヘキ船舶ニ乗船シ水先業務執行中ハ國際信號日旗ヲ掲ケ下船ノ際之ヲ撤去スヘシ

第二十三條

水先人乗船シタルトキハ船長ハ直ニ水先人ニ對シ船名、所有者氏名、船籍港、積量及吃水並ニ代理店名ヲ通告シ且水先人下船ノ際前各項及水先業務開始並ニ終了日時ヲ記シタル書面ニ記名調印シテ之ヲ水先人ニ交付スヘシ

第二十四條

水先人ヲ要招シタル船長ハ水先人業務規程ニ定ムル所ニ依リ水路嚮導料ヲ支拂フヘシ

第二十五條

水先業務ノ練習ヲ爲サントスル者ハ關東海務局長ニ願出ツヘシ

第二十六條

水先人ハ水先業務練習者ニ付關東海務局長ノ指示ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條

水先人ハ毎月水路嚮導ヲ爲シタル日時、船舶ノ名稱、國籍、總噸數、所有者氏名、代理店名及吃水ヲ

シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタルトキ

三 業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ

四 亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人ノ懲戒ニ關シ本令ニ規定ナキモノニ付テハ關東州海員懲戒令ヲ準用ス

第三十二條

削除

第三十三條

船長其ノ要招シタル水先人第三十一條第一項各號ノ一ニ該當スト認ムルトキハ航海日誌及機關室日誌ノ寫ヲ添ヘ關東海務局長ニ其ノ事實ヲ報告スヘシ

第三十四條

水先人業務ヲ怠リ因テ航路標識其ノ他ノ營造物ヲ毀損シタルトキハ百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス水先人ニ非サル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦前項ニ同シ

第三十五條

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 水先人ニ非スシテ水路ノ嚮導ヲ爲シタル者  
二 水先免狀行使ノ停止中水路ノ嚮導ヲ爲シタル者  
三 水先免狀ヲ貸與シテ之ヲ行使セシメタル者



四 正當ノ事由ナクシテ水先要招ニ應セザリシ者又ハ水先要招ニ應スルモ正當ノ事由ナクシテ水路ノ嚮導ヲ爲サザリシ者

五 船舶ノ吃水又ハ積量ニ付水先人ニ對シ虚偽ノ告知ヲ爲シタル者

**第三十六條** 第六條第一項、第八條第一項、第十六條、第十七條第二項、同條第三項、第十八條、第二十條乃至第二十三條、第二十六條乃至第三十條及第三十三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第十七條第五項ノ命令ニ違ハサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第三十七條** 本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

大連港水先規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行ノ際大連港ノ水先業務ニ従事スル水先人ノ水先免狀ハ仍一年間其ノ效力ヲ有ス

本令施行ノ際關東州ノ水先業務ニ従事スル者ニシテ第五條各號ノ一ニ該當セサル者ニ對シテハ本令施行ノ日ヨリ一年內ニ限り試験ヲ行ハスシテ現ニ従事スル水先區ノ水先

免狀ヲ下付ス

昭和八年廳令第六十二號附則

本令ハ昭和九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際普蘭店港ニ於テ一年以上船舶ノ水路嚮導ニ従事シ第五條各號ノ一ニ該當セス且二年以上ノ總噸數二千噸以上ノ船舶ノ船長ノ經驗ヲ有スル者ニ對シテハ試験ヲ行ハスシテ普蘭店港水先區ノ水先免狀ヲ下付スルコトアルヘシ

(様式)

第 號	水先免狀	氏 名
水先區		生年月日
昭和四年關東廳令第二十一號關東州水先規則ニ依リ之ヲ下付ス		昭和 年 月 日
		滿洲國駐劄特命全權大使 氏 名 印

備考 輪廓四寸横六寸トシ裏面ニ英譯文ヲ附記ス

### 第七章 海員懲戒

#### 海員懲戒法

(明治二十九年四月 法律第六十九號)

##### 第一章 總 則

**第一條** 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ

二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ

##### 海員懲戒法

#### 懲 戒

六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

**第二條** 懲戒ハ左ノ三種トス

一 免狀行使ノ禁止

二 免狀行使ノ停止

三 譴責

**第三條** 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

**第四條** 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

**第五條** 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

**第六條** 時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

**第七條** 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス



第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ選信省ニ置ク

第九條 海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

リタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證據ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルトヲ得

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證據其ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトサハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ  
受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通知シ若ハ臨檢

海員懲戒法

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二 二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定被決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實ア

ヲ爲スコトヲ得

二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ拘引狀執行ノ手續ヲ準生シテ之ヲ執行ス

二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ



審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開延中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス  
審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用フルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス  
闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ヲ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開如スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判  
第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海海審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船船長運轉手機關手免



狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄  
權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判  
定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所  
ニ控告スルコトヲ得

### 海技免狀ヲ受有スル者及 水先人ノ懲戒免除ニ關ス ル件

(昭和十三年二月  
勅令第八十號)

海員免狀ヲ受有スル者又ハ水先人ニシテ昭和十三年二月十  
一日前ノ所爲ニ付海員審判所又ハ懲戒委員會ノ裁決ヲ以テ  
懲戒ノ處分ニ受ケタルモノニ對シテハ將來ニ向テ其ノ懲戒  
ヲ免除ス未タ處分ヲ受ケサル者ニ對シテハ懲戒ヲ行ハス  
懲戒ニ基ク既成ノ效果ハ免除ニ因リ變更セラルルコトナシ

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海難其ノ他ノ事實届出方

(昭和八年五月  
遞信省令第二十三號)

改正 昭和十三年三月  
遞信省令第二十一號

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ  
事項ニ該當シタルトキハ當該船舶ノ船長、船長不在ナル  
トキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ地若シ其  
ノ地ニ當該官公署ナキトキハ其ノ後最初ニ到着シタル地  
ノ管海官廳、警察官署又ハ市町村役場、外國ニ在リテハ  
領事館又ハ貿易事務館ニ其ノ旨届出ツヘシ但シ船員法第  
十五條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラ  
ス

- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セ  
シメタルトキ
- 三 人ヲ傷殺シタルトキ
- 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條 前條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ又  
ハ其ノ事實アリト思料スル者ハ其ノ所在地ニ於テ前條ニ  
掲クル官公署ニ其ノ旨届出ツヘシ

第三條 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金  
又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十年遞信省令第十九號ハ之ヲ廢止ス

### 遭難船舶ノ通報並海難其 ノ他ノ取調ニ關スル件

(昭和十一年八月  
遞信省訓令第一號)

第一 管海官廳、警察官署、市役所又ハ町村役場ニ於テ船  
舶カ遭難ニ依リ沈没シ、破壊シ若ハ行衛不明トナリ又ハ  
死傷者若ハ行衛不明者ヲ生シタルコトヲ認知シタルトキ  
ハ當該船舶ノ種類、名稱、所有者、遭難ノ原因、日時、  
海技免狀ヲ受有スル者及水先人ノ懲戒免除ニ關スル件・海難其ノ  
他ノ事實届出方・遭難船舶ノ通報並海難其ノ他ノ取調ニ關スル件

場所、死傷者、行衛不明者ノ員數ヲ電報等ニ依リ直ニ管  
轄地方海員審判所理事官ニ通報スヘシ

第二 管海官廳、警察官署、市役所又ハ町村役場ニ於テ船  
員法ニ依ル報告昭和八年遞信省第二十三號海難其ノ他ノ  
事實届出、方ニ依ル届出其ノ他ニ依リ海員懲戒法及水先  
法ニ定ムル審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタ  
ルトキハ當該海技免狀又ハ水先免狀受有者及必要ト認ム  
ル關係者ニ對シ海難事件ニ在リテハ左記ノ各事項、其ノ  
他ノ事件ニ在リテハ左記第一號乃至第四號、第十五號及  
第十六號ノ事項ヲ取調ヘ調査ヲ作成シ遲滞ナク之ヲ管轄  
地方海員審判所理事官ニ送付スヘシ

- 一 取調ヲ受ケタル者ノ本籍、住所、氏名、出生ノ年月  
日、職名(海員ニ非サル者ニ付テハ其ノ職業)、受有  
海技免狀又ハ水先免狀ノ種類及番號
- 二 船舶ノ種類、名稱、總噸數、船籍港、機關ノ種類及  
公稱馬力並ニ所有者ノ住所及氏名
- 三 發航港、事件發生直前ノ寄港地、到達港並ニ事件發  
生ノ地點及年月日時
- 四 事件ノ顛末
- 五 事件發生當時ノ天候、船舶ノ速力、針路及其ノ自差



竝ニ針路ヲ定メタル地點

六 事件發生當時當直ノ船舶職員、舵取、見張人及油差等事件ニ關係アリト認ムル者ニシテ取調ヲ爲スコト能ハサルモノノ住所氏名及職名

七 事件發生當時使用シタル海圖ノ名稱及番號  
八 船舶損傷ノ箇所及狀態

九 旅客及船員ノ員數竝ニ死傷者ノ有無  
十 搭載貨物ノ種類及數量竝ニ其ノ損害ノ有無

十一 人命、船舶及貨物救助ノ方法  
十二 航海日誌及機關日誌ノ存否

十三 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ全速力、半速力及微速力ノ速度  
十四 夜間ニ於ケル衝突事件ニ在リテハ衝突當時掲揚シ

居タル橋燈、増揚橋燈、舷燈、船尾燈又ハ碇泊燈等ノ燈火ノ現狀、掲揚ノ場所及方法竝ニ油船燈、電氣船燈ノ別

十五 取調ヲ受ケタル者ノ出發豫定日時及目的地  
十六 其ノ他參考トナルヘキ事項

調書ニハ取調ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ之ヲ讀開カセ取調ヲ受ケタル者ヲシテ署名捺印セシメ取調ヲ爲シタル

之ニ署名捺印シ其ノ所屬官廳又ハ公署ノ印ヲ押捺シ且毎葉綴目契印スヘシ

### 海員審判所裁決ノ正本、 謄本、抄本及被審人陳述 書ノ謄本下付手数料ノ件

(明治四十三年三月  
逓信省令第四號)

被審判人又ハ審判利害關係人ニ於テ裁決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキハ其ノ用紙一枚ニ付五錢ノ手数料ヲ納ムヘシ被審判人カ其ノ陳述書ノ謄本ヲ求ムルトキ亦同シ前項ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ納ムヘシ

### 海員審判所事務章程

(明治三十年六月  
勅令第百八十九號)

第一條 審判所長ハ海員審判所ノ事務ヲ總理ス

審判所長故障アルトキハ審判官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ先ナル者之ヲ代理ス

第二條 審判所長ハ自ら審判長ト爲リ若ハ審判官ニ審判長ヲ命スルコトヲ得

第三條 各審判事件ノ掛審判官ハ審判所長ノ指定ニ依ル

第四條 四日以上引續クヘキ見込アル審判ニ於テ審判所長ハ補充審判官一人ヲ命シ之ニ立會ハシムルコトヲ得此ノ補充審判官ハ其ノ審判中或ル審判官ノ疾病其ノ他ノ事故ニ依リ引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テ之ニ代リ審判ヲ完結スルノ權ヲ有ス

第五條 審判官若ハ理事官差支アリテ同一審判所ノ審判官若ハ理事官中其ノ職務ヲ行フヘキ者ナキ場合ニ逓信大臣ニ於テ其ノ事件緊急ヲ要スト認ムルトキハ他ノ審判所ノ審判官若ハ理事官ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

第六條 審判ノ公開ヲ停止スルノ決定ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入延セシムヘシ

第七條 審判ハ定數ノ審判官ヲ評議シ及之ヲ言渡ス  
評議ハ其審判長之ヲ開キ且之ヲ整理ス其ノ評議ノ顛末竝  
海員審判所裁決ノ正本、謄本、抄本及被審人陳述  
書ノ謄本下付手数料ノ件・海員審判所事務章程

各審判官ノ意見及多少ノ數ニ付テハ嚴ニ秘密ヲ守ルコトヲ要ス評議ノ際各審判官意見ヲ述フルノ順序ハ官等最モ低キ者ヲ始トシ審判長ヲ終リトス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其ノ後ナルモノヲ始トシ受命ノ事件ニ付テハ受命審判官ヲ始トス

第八條 審判官ハ審判スヘキ問題ニ付自己ノ意見ヲ表スルコトヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 裁決及決定ハ過半數ノ意見ニ依ル其ノ意見三説以上ニ別レ各過半數ニ至ラサルトキハ過半數ニ至ル迄被審人ニ不利ナル意見ヨリ順次利益ナル意見ニ合算ス

第十條 裁決ヲ言渡シタルトキハ審判所長ハ直ニ逓信大臣ニ裁決ノ謄本ヲ差出スヘシ

第十一條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シ取調ヲ爲シタル後審判ヲ要セスト思料スルトキハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經由シテ逓信大臣ニ報告スヘシ

第十二條 審判所ニ於テ或ル事件ニ付審判ヲ開始セス若ハ繼續セスト決定シタルトキハ審判所長ハ之ヲ逓信大臣ニ報告スヘシ

第十三條 審判所長ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ事務取扱ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得



**第十四條** 事務ノ執行ニ關シ遞信大臣ハ各審判所長ヲ監督シ高等海員審判所長ハ各地方海員審判所長ヲ監督ス職務ノ執行ニ關シ高等海員審判所理事官ハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ地方海員審判所理事官ハ遞信大臣及高等海員審判所理事官ノ命令ニ從フ

**地方海員審判所名稱、位置及管轄區域ニ關スル件**

(明治四十三年三月) 勅令第九十四號

地方海員審判所ノ名稱位置、及管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十二年勅令第二百六十四號ハ之ヲ廢止ス

**朝鮮海員懲戒令**

(昭和十一年九月) 朝鮮總督府令第十五號

朝鮮ニ於ケル海員ノ懲戒ニ關シテハ海員懲戒法第八條乃至第十四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中海員審判

所トアルハ朝鮮總督府海員審判所、高等海員審判所トアルハ朝鮮總督府高等海員審判所、地方海員審判所トアルハ朝鮮總督府地方海員審判所、遞信省トアルハ朝鮮總督府、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令、官報トアルハ朝鮮總督府官報トシ同法第十五條ノ報告ヲ爲スヘキ官吏及吏員ハ遞信官吏及警察官吏トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リテ朝鮮總督府海員審判所ニ繫屬中ノ事件ハ朝鮮總督府地方海員審判所ニ繫屬ス前項ノ事件ニ付從前ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ之ヲ本令ニ依リテ爲シタルモノト看做ス

**海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件**

(昭和十年十二月) 朝鮮總督府令第五十三號

改正 昭和十三年三月 朝鮮總督府令第三十四號

**第一條** 海技免狀ヲ受有スル者ヲ乗組マシメタル朝鮮船舶

十一 海技免狀ヲ受有スル者カ職務上ノ義務ニ違反シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

十二 海技免狀ヲ受有スル者ニ亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

**第二條** 前條各號ノ一ニ該當スル事實ヲ認知シタル者ハ遲滞ナク前條ノ官署ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

**第三條** 船舶所有者、船舶管理人又ハ船舶借入人ハ海技免狀ヲ受有スル者ヲ乗組マシメタル朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ノ存否カ六月間分明ナラサルトキハ遲滞ナク當該船舶ノ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其ノ顛末ヲ届出スヘシ

**第四條** 第一條ノ規定ニ依ル届出ハ左ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ届出人ノ署名捺印シ且毎葉ニ契印スヘシ但シ書面ヲ提出スルコト能ハサル事由アルトキハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得

一 船舶ノ番號、種類、名稱及總噸數

二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 船舶ノ最大搭載人員(旅客、船員又ハ其ノ他ノ者

ニ區別シテ記載スヘシ) 航行區域(漁船ニ在リテハ從業制限)、船舶機關ノ種類及公稱馬力、船舶檢

地方海員審判所名稱、位置及管轄區域ニ關スル件・朝鮮海員懲戒令・海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(臺灣)

令ニ依ル日本船舶ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事實アリタルトキハ當該船舶ノ船長若シ船長不在ナルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ港又ハ其ノ後最初ニ到著シタル港ヲ管轄スル管海官廳(朝鮮船員令ノ規定ニ依ル管海官廳ノ事務ヲ行フ郵便局ヲ含ム)又ハ警察官署外國ニ在リテハ領事館又ハ貿易事務館)ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ但シ朝鮮船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法第十五條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 船舶カ沈没又ハ顛覆シタルトキ
- 三 船舶カ乗揚、接觸又ハ衝突シタルトキ
- 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
- 五 船内ニ於テ火災アリタルトキ
- 六 海難救助ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキ又ハ他ノ船舶若ハ人命ヲ救助シタルトキ
- 七 船舶機關ノ要部ヲ毀損シタルトキ
- 八 船舶搭載貨ニ著シキ損害ヲ生シタルトキ
- 九 船舶カ海難ニ罹リ其ノ他著シキ事故アリタルトキ
- 十 人ノ死傷アリタルトキ



查證書ノ有効期間並ニ船舶検査證書ヲ交付シタル管海官廳名

五 船長、機關長並ニ事實發生ノ當時當直シタル海員ノ本籍、住所、氏名及出生ノ年月日、海技免狀ノ種類及番號並ニ當該當直海員ノ職名

六 船舶ノ發航地寄港地及到達地

七 事實發生ノ場所及日時並ニ當時ノ天候、風位風力及潮流

八 事實ノ顛末

前項ニ掲クル事項中、届出ノ事實ニ關係ナキモノハ適宜記載ヲ省略スルコトヲ得

第五條 第一條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和十一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正三年朝鮮總督府令第八十二號ハ之ヲ廢止ス

### 海員審判所裁決謄本、抄本及被審人陳述書謄本下付手数料ニ關スル件

(昭和八年二月) 臺灣總督府令第二十一號

被審人又ハ審判利害關係人ニ於テ裁決ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ求ムルトキハ其ノ用紙一枚ニ付金十錢ノ手数料ヲ納ムヘシ被審人カ其ノ陳述書ノ謄本ノ下付ヲ求ムルトキ亦同シ前項ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附 則

本令ハ昭和六年勅令第三百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件

(昭和八年三月) 臺灣總督府令第四十四號

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ當該船長、船長不在ナルトキ

ハ代理者ニ於テ其ノ地若ハ爾後始メテ到着シタル地ノ管海官廳、警察官署、市街庄役場若クハ區役場、外國ニ在

リテハ領事官若ハ貿易事務官ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出スヘシ

一 船舶ヲ放棄シタルトキ

二 船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没セシメタルトキ

三 人ヲ殺傷シタルトキ

四 海難ニ罹リタル船舶ヲ認メタルトキ

五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

六 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條

第一條各號ノ一ニ該當スル事實アリタルコトヲ認海員審判所裁決謄本、抄本及被審人陳述書謄本下付手数料ニ關スル件・海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(臺灣)・關東州海員懲戒令・海難其ノ他ノ事實届出ニ關スル件(關東州)

知シ若ハ其ノ事實アリト思料シタル者ハ其ノ所在地ニ於テ第一條ニ掲クル官署若ハ公署ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三條 船長又ハ船長不在ナル場合ニ於ケル船長ノ代理者

第一條ノ規定ニ違背シタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 關東州海員懲戒令

(昭和十一年九月) 勅令第三百十二號

關東州ニ於ケル海員ノ懲戒ニ關シテハ海員懲戒法第八條乃至第十四條、第三十六條及第三十九條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中遞信省トアルハ關東州地方海員審判所又ハ海員審判所トアルハ關東海員審判所、刑事訴訟法トアルハ關東州裁判事務取扱令、官報トアルハ關東局局報トシ同法第十五條ノ報告ヲ爲スヘキ官吏及吏員



ハ海務局官吏及警察官吏トス

附 則

本令ハ昭和十一年九月十日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ本令施行前ニ生シタル事件ニ付亦之ヲ適用ス但シ從  
前ノ規定ニ依リ審理ヲ完了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在  
ラス

### 海難其ノ他ノ事實届出ニ

### 關スル件

(昭和十一年九月  
關東州局令第五十七號)

**第一條** 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ  
事項ニ該當シタルトキハ當該船舶ノ船長、船長不在ナル  
トキハ之ニ代リテ其職務ヲ行フ者ニ於テ其ノ地又ハ其ノ  
後最初ニ到着シタル地ノ海務局若ハ警察署(外國ニ在リ  
テハ領事官又ハ貿易事務官)ニ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツ  
ヘシ但シ關東州船員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員法  
第十七條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在

ラス

- 一 船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二 自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈没  
セシメタルトキ
- 三 人ヲ殺傷シタルトキ
- 四 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メタルトキ
- 五 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 六 亂醉粗暴其他ノ失行アリタルトキ

**第二條** 前條各號ニ該當スル事實アリタルコトヲ認知シ又  
ハ其ノ事實アリト思料スル者ハ前條ニ掲クル官署ニ其ノ  
旨ヲ届出ツヘシ

**第三條** 第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金  
又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 第八章 船員給與統制

### 船員給與統制令

(昭和十五年十月  
勅令第六百七十六號)

**第一條** 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於  
テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第六條ノ規定ニ基ク船員ノ  
給與ニ關スル命令及同法第十一條ノ規定ニ基ク會社ノ經  
理ニ關スル命令中船員ノ給與ニ關スルモノハ本令ノ定ム  
ル所ニ依ル

**第二條** 本令ニ於テ給與ト稱スルハ給料、手當、賞與其ノ  
他名稱ノ如何ヲ問ハス船員カ職務ノ對價トシテ船舶所有  
者ヨリ受クル金錢、物其ノ他ノ利益ヲ謂フ

**第三條** 船舶所有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國家總動員法  
第三十一條ノ規定ニ基キ本令施行ノ際現ニ存スル給與ノ  
準則ヲ遞信大臣ニ報告スヘシ  
遞信大臣前項ノ給與ノ準則カ給與ノ統制上不適當ナリト  
認ムルトキハ其ノ變更ヲ命スルコトヲ得

船員給料統制令

**第四條** 船舶所有者給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢  
止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ許  
可ヲ受クヘシ

**第五條** 船舶所有者給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セ  
ントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ノ許可ヲ  
受クヘシ

**第六條** 船舶所有者相互間ニ於テ又ハ船舶所有者ノ組合其  
ノ他之ニ準スルモノニ於テ給與ニ關シ協定ヲ爲シ遞信大  
臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ  
他之ニ準スルモノノ構成員タル船舶所有者ニ對シテハ前  
條ノ規定ノ適用ニ付テハ協定ニ定メタル事項ニ關スル限  
リ其ノ協定ヲ以テ給與ノ準則ト看做ス

**第七條** 船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノ前  
條ノ協定ヲ變更又ハ廢止セントスルトキハ遞信大臣ノ許  
可ヲ受クヘシ

**第八條** 遞信大臣給與ノ協定ヲ許可シタル場合ニ於テ必要  
アリト認ムルトキハ協定ニ加ハラサル船舶所有者ニ對シ



其ノ協定ニ依ルヘキコトヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ノ適用ニ付テハ協定ニ定メタル事項ニ關スル限リ其ノ協定ヲ以テ給與ノ準則ト看做ス

**第九條** 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ對シ給與ノ協定ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ協定ヲ爲シタルトキハ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

**第十條** 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ初任給、昇給、手當、賞與其ノ他給與ニ關シ定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ遞信大臣ノ定メタル事項ニ付テハ船舶所有者ハ給與ノ準則又ハ協定ニ依ラス前項ノ定ニ依ルコトヲ要ス但シ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第十一條** 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ給與ノ支給方法ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第十二條** 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ給與ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類

トス

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年勅令第七百五號貸金臨時措置令ハ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ船員ニ關スルモノニ限リ昭和十五年十一月四日迄其ノ效力ヲ有ス但シ同日以前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ同日後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

船員給與統制令施行規則

(昭和十五年十月 遞信省令第五十四號)

**第一條** 船舶所有者ノ所有船舶(借入船舶ヲ含ム)ノ合計總噸數カ五十噸未滿ニシテ且其ノ船舶(漁船ニ在リテハ總噸數五噸以上ノ船舶)カ五隻未滿ナル場合ニハ船員給與統制令(以下令ト稱ス)第三條乃至第五條ノ規定ハ之ヲ適用セス

船員給與統制令施行規則

ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

**第十三條** 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セス

本令ハ國際條約又ハ之ニ基ク協定中給與ニ關スル定アルトキ其ノ制限ニ抵觸スル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

**第十四條** 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

**第十五條** 遞信大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ遞信局長又ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ委任スルコトヲ得

**第十六條** 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各朝鮮總督府遞信局長又ハ臺灣總督府交通局總長トシ地方長官トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各道知事又ハ州知事若ハ廳長トシ道府縣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳又ハ南洋群島地方廳

**第二條** 令第三條第一項ノ規定ニ依ル給與ノ準則ノ報告ハ本令施行後一月以内ニ遞信大臣ニ之ヲ爲スヘシ

**第三條** 給與ノ準則ヲ定メ又ハ之ヲ變更若ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スヘシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

**第四條** 船員ノ全部若ハ一部ニ對シ給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

- 一 支給セントスル給與ノ種類、額及率
  - 二 支給ヲ受クル船員ノ職務別員數
  - 三 支給期
  - 四 支給セントスル事由
  - 五 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 第五條** 船員ノ箇箇ニ對シ給與ノ準則ニ依ラスシテ給與ヲ支給セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ
- 一 船員ノ氏名及年齡
  - 二 履歷及海技免狀其ノ他ノ資格證明書ノ種類
  - 三 職務及雇入期間



- 四 乗組船舶ノ種類、名稱及總噸數
  - 五 航行區域及就航航路
  - 六 支給セントスル給與ノ種類、額及率
  - 七 支給期
  - 八 支給セントスル事由
  - 九 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 第六條** 給與ニ關スル協定ヲ爲シ許可ヲ受ケントスル者ハ協定ヲ爲シタル者ノ代表者名ヲ以テ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
- 一 協定ヲ爲シタル者ノ氏名又ハ名稱及其ノ住所又ハ主タル事務所所在地
  - 二 協定ノ内容
  - 三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 第七條** 給與ニ關スル協定ヲ變更又ハ廢止セントスル者ハ其ノ内容(變更ノ場合ニ在リテハ新舊對照ヲ附スヘシ)及事由ヲ記載シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
- 第八條** 令第十條ノ規定ニ依ル給與ノ額其ノ他ノ條件ニ關スル遞信大臣ノ指定ハ告示シテ之ヲ爲ス
- 令第十條ノ規定ニ依ル特定ノ船舶所有者ニ對スル危險手當、遭難手當其ノ他ノ給與ノ支給ニ關スル命令ハ告知シ

- テ之ヲ爲ス
- 第九條** 令第十條第二項但書ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス
- 第十條** 常時百人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者ハ三月六月、九月及十二月ノ各月ニ支給シタル給與ノ報告書ヲ第一號書式ニ依リ各翌月末日迄ニ遞信大臣ニ提出スヘシ
- 第十一條** 令第十二條第二項ノ證書ハ第二號書式ニ依ル
- 第十二條** 第二條乃至第四條(第九條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告書及許可申請書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ
- 一 會社ニ在リテハ資本金額及拂込資本金額
  - 二 航行區域別船舶ノ隻數及合計總噸數
  - 三 船員ノ職務別員數
- 第十三條** 本令ニ依ル報告書及許可申請書ニシテ遞信大臣ニ提出スルモノハ各正副二通ヲ作成シ所轄遞信局長ヲ經由スヘシ但シ第十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四條** 令及本令申請遞信大臣トアルハ沿海區域ヲ航行スル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ遞信局長トシ遞信大臣又ハ遞信局長トアルハ船員法第一條第一項各號ニ掲ケル船舶ノ船員ノ給與ニ付テハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總

監)トス但シ第十條及前條ノ場合並ニ二以上ノ遞信局ノ管轄區域又ハ府縣ニ亘ル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ船員給與統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

本令施行ノ際既ニ船員給料臨時措置規則ニ基キ給料手當ノ準則又ハ内規ヲ報告シ又ハ其ノ許可ヲ受ケタルモノハ第二條ノ規定ニ依リ給與ノ準則ヲ報告シタルモノト看做ス

遞信大臣宛	年	月	日	住所	報告者	名	給與支給報告書( )		備考
							年	月分	
資本金額							拂込資本金額		
給與ノ種類	高級船員						給與		
	普通船員						支給		
	高級船員						合計		
	普通船員						額		
總計									



記載心得

- 一 給與ノ種類欄ニハ給料、手當、賞與等ノ別ヲ記載スルコト
  - 二 現物給與ノ場合ニ於テハ金錢ニ換算シ其ノ金額ヲ備考欄ニ記載スルコト
- 第二號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B8)

第 號  
官 氏 名

(表)  
國家總動員法(船員關係)ニ基ク  
當該官廳印  
官吏臨檢證票

遞信局又ハ廳府縣

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第九章 船舶運航技能者養成

#### 船舶運航技能者養成令

(昭和十四年十一月  
勅令第七百八十號)

- 第一條 國家總動員法第二十二條ノ規定ニ基ク船舶ノ運航ニ從事スヘキ技能者ノ養成ハ學校技能者養成令ニ依ルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 遞信大臣ハ船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者ニ對シ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數ヲ定メ技能者ノ養成ヲ命スルコトヲ得
- 遞信大臣ハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ニ對シ養成ノ爲必要ナル施設ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ養成セラルヘキ者ハ命令ノ定ムル資格ヲ具フル者ナルコトヲ要ス
- 養成期間及養成方法ハ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ履歷ニ應シ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラ

船舶運航技能者養成令

- レタル者ハ養成計畫ヲ定メ遞信局長ノ認可ヲ受クヘシ其ノ計畫ヲ變更セントスルトキ亦同シ
- 遞信局長必要アリト認ムルトキハ養成計畫ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第五條 第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ養成セラルヘキ者ヲシテ授業料其ノ他養成ノ爲必要ナル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信局長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 遞信局長ハ船舶運航技能者養成施設ノ管理者ニ對シ左ニ掲クル事項ニ關シ必要ナル變更ヲ命スルコトヲ得
- 一 講習ノ科目及時間
  - 二 養成スヘキ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數
  - 三 養成セラルヘキ者ノ資格
  - 四 養成期間
  - 五 其ノ他養成ニ關シ必要ナル事項
- 第七條 遞信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ



船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者若ハ船舶運航業者ヨリ技能者ノ養成ニ關シ必要ナル報告ヲ徵スルコトヲ得

第八條 遞信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶運航技能者養成施設ニ又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者若ハ船舶運航業者ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢セシメ技能者ノ養成ノ狀況又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムヘシ

第九條 遞信大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ依ル命令ヲ受ケタル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス遞信大臣ハ本令ニ依ル技能者養成ニ因リ損失ヲ生シタル場合ニ於テハ通常生スヘキ損失ヲ補償ス

第十條 本令ハ農林大臣ヨリ漁船運航技能者養成ノ爲補助金其ノ他ノ交付金ヲ受クル公共團體其ノ他ノ營利ヲ目的トセサル法人ニ對シ專ラ漁船ニ乗組ムヘキ船舶運航技能者ノ請求スルコトヲ得

請求スヘシ但シ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ別段ノ時期ニ之ヲ請求スルコトヲ得

### 船舶運航技能者養成

#### 令施行規則

(昭和十四年十一月)  
遞信省令第五十五號

第一條 船舶運航技能者養成令(以下養成令ト稱ス)第一條ニ於テ船舶ノ運航ニ從事スヘキ技能者トハ船舶ニ乗組ミ船舶ノ運航、機關ノ運轉又ハ無線電信若ハ無線電話ノ通信ニ從事スル者ヲ謂フ

第二條 養成令第三條第一項ニ規定スル資格ヲ具フル者ハ養成終了ノ際ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有シ其ノ體格カ船員トシテノ職務ニ適スト認メラルル者トス

- 一 技能ノ種類カ海技免狀ノ受有ヲ必要トスル場合ハ船舶職員試驗規程ニ依リ試驗ヲ受クルニ必要ナル資格
- 二 技能ノ種類カ無線通信士資格檢定合格證書ノ受有ヲ必要トスル場合ハ無線通信士資格檢定規則ニ依リ檢定ヲ受クルニ必要ナル資格
- 三 前二號ニ掲クル以外ノ場合ハ船員法第四條ノ規定ニ

船舶運航技能者養成令施行規則

者ノ養成ヲ命スルコトニ關シテハ之ヲ適用セス

第十一條 遞信大臣カ漁業者タル漁船所有者ニ對シ第二條ノ命令ヲ爲サントスル場合及前條ノ公共團體其ノ他ノ法人ニ對シ前條ニ掲クル以外ノ船舶運航技能者ノ養成又ハ養成施設ニ關シ第二條ノ命令ヲ爲サントスル場合ニハ豫メ農林大臣ニ議スヘシ

第十二條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府遞信局長、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

基キ船員トシテ又ハ石炭夫若ハ火夫トシテ使用スルコトヲ得ル年齢

第三條 養成令第三條第二項ニ規定スル養成期間ハ別表ニ依ル

第四條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命セラレタル者ハ遞信大臣ヨリ他ノ船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スヘキコトヲ命セラレタル場合ヲ除クノ外自己ノ養成施設ニ於テ養成ヲ爲スヘシ但シ船舶所有者又ハ船舶運航業者ハ遞信大臣ノ指定スル船舶運航技能者養成施設ニ委託シテ養成ヲ爲スコトヲ得

第五條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ養成ニ關スル事務ヲ行フ事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ提出スヘシ

- 一 養成施設ノ名稱及位置
- 二 教室、實習設備、教授用備品其ノ他養成ニ關スル設備ノ概要
- 三 養成スヘキ技能ノ種類及養成セラルヘキ者ノ員數
- 四 養成セラルヘキ者ノ資格及銓衡方法
- 五 養成期間及養成開始ノ豫定年月日



- 六 講習ノ科目及時間
  - 七 講師ノ氏名及履歴
  - 八 養成ニ關スル規則
  - 九 養成ニ關シ養成セラルヘキ者ト爲ス契約ノ内容
  - 十 養成ニ要スル經費ノ概算
  - 十一 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 前項第二號及第六號乃至第八號ニ掲クル事項ハ前條ノ規定ニ依リ委託養成ヲ爲ス場合ニ於テハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第六條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者養成令第四條第一項ノ規定ニ依リ養成計畫ノ認可ヲ受ケントスルトキハ

- 一 前條第一項第一號乃至第八號ニ掲クル事項
- 二 養成ニ關スル收支概算(内譯ニ養成令第二條ノ規定ニ依ル養成ニ關スル收支概算ト其ノ他ノモノトノ區別ヲ明カナラシムルコト)
- 三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第七條 船舶運航技能者養成施設ノ管理者又ハ船舶所有者

若ハ船舶運航業者養成令第四條第一項ニ規定スル養成計

畫變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ變更セントスル事項

及事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第八條 船舶所有者又ハ船舶運航業者養成令第五條但書ノ

許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ養成ニ關スル事務ヲ行フ事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局長ニ提出スヘシ

一 養成施設ノ名稱及位置

二 負擔セシメントスル費用ノ種目

三 費用ヲ負擔セシメントスル事由

四 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

第九條 船舶運航技能者ノ養成ヲ命セラレタル者養成ヲ終

了シタルトキハ其ノ都度養成令第七條ノ規定ニ基キ養成

ニ關スル概況ヲ遲滯ナク所轄遞信局長ニ報告スヘシ

第十條 養成令第八條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別表

技能ノ種類	養成期間
甲種船長、汽船甲種船長、漁船甲種船長、漁汽船甲種船長、甲種一等運轉士、汽船甲種一等運轉士、漁船甲種一等運轉士、漁汽船甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、汽船甲種二等運轉士、漁船甲種二等運轉士、汽船甲種二等運轉士、漁船甲種二等運轉士	一年以上
乙種船長	八月以上
乙種一等運轉士又ハ漁船乙種一等運轉士	四月以上
乙種二等運轉士又ハ丙種運轉士	六月以上
沿岸乙種二等運轉士、湖川港乙種二等運轉士又ハ沿岸丙種運轉士	一月以上
小形船乙種二等運轉士又ハ小形船丙種運轉士	三週間以上
機關長、發動機船機關長、一等機關士、發動機船一等機關士、二等機關士又ハ發動機船二等機關士	一年以上

船舶運航技能者養成令施行規則



近海汽船二等機關士又ハ近海發動機船二等機關士	汽船三等機關士免狀(發動機船三等機關士免狀)以上ノ航海技術ヲ受シ公稱馬力百馬力以上ノ汽船(汽船ノ航海技術ヲ受シ公稱馬力五十馬力以上ノ汽船)ヲ執行タル者	四月以上
三等機關士、汽船三等機關士又ハ發動機船三等機關士	右ニ該當セサル者	六月以上
湖川港汽船三等機關士又ハ沿岸發動機船三等機關士	湖川港汽船三等機關士免狀(沿岸發動機船三等機關士免狀)ヲ受シ公稱馬力五十馬力以上ノ汽船(汽船ノ航海技術ヲ受シ公稱馬力五十馬力以上ノ汽船)ヲ執行タル者	一月以上
小形發動機船三等機關士	右ニ該當セサル者	二月以上
第一級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第一級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者	三週間以上
第二級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第二級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者	六月以上
第三級無線通信士	無線通信士資格檢定規則第三條ニ依リ第三級ノ詮衡檢定申請資格ヲ有スル者	一年以上
電話級無線通信士	高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者	七月以上
聽守員級無線通信士	高等小學校卒業程度ノ學力ヲ有スル者	一月以上
其ノ他ノモノ	三月ノ範圍内ニ於テ遞信大臣ノ定ムル所ニ依ル	四月以上

(別記様式)  
(縦八・五糎)  
(横六)

第 號	官 氏 名
船 船 運 航 技 能 者 養 成 ニ 關 ス ル 臨 檢 證 票	遞 信 省

(表)

船舶運航技能者養成令施行規則



(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

船舶運航技能者養成令第八條 遞信局長ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶運航技能者養成施設ニ又ハ第二條第一項ノ規定ニ依リ技能者ノ養成ヲ命セラレタル船舶所有者若ハ船舶運航業者ノ事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢セシメ技能者ノ養成ノ狀況又ハ之ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第十章 船員使用等統制令

#### 船員使用等統制令

(昭和十五年十一月 勅令第七百四十九號)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第六條ノ規定ニ基キ船員ノ使用、雇入及解雇ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者ニ對シ命令ノ定ムル船舶ノ乗組員數ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ對シ豫備員タル船員ノ保有ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第四條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ對シ其ノ雇傭スル船員ヲ期間ヲ限リテ他ノ船舶所有者ヲシテ使用セシムヘキコトヲ命スルコトヲ得

船員使用等統制令

前項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ之ニ伴フ費用ノ負擔其ノ他必要ナル事項ニ關シ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ於テ協議スヘシ協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ遞信大臣ノ裁定スル所ニ依ルヘシ

第一項ノ船員ニ對スル給與ハ當該船員ヲ使用スル船舶所有者從前ノ給與ヲ斟酌シテ之ヲ支給スルモノトス

第五條 何人ト雖モ船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノニ雇傭セララルル船員ニシテ遞信大臣ノ指定スルモノニ對シ船員以外ノ者トシテ雇傭セララルルコトヲ勸誘シ又ハ他人ヲシテ勸誘セシムルコトヲ得ス

第六條 遞信局長必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ違反シ船員ヲ雇傭シタル者ニ對シ其ノ者ノ解雇ヲ命スルコトヲ得

第七條 遞信大臣船員ノ移動ヲ防止スル爲必要アリト認ムルトキハ船舶所有者ニ對シ船員ノ雇入又ハ解雇ノ制限ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

六八五



第八條 遞信大臣ノ指定スル船員養成施設ニ於テ本令施行後其ノ課程ヲ修了スル者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ使用員數ニ付遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依ル認可ノ申請ニ付不正又ハ虛偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトヲ得

第十條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ船員ノ使用、雇入及解雇ニ關シ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第十一條 本令ハ國又ハ道府縣ニハ之ヲ適用セス

第十二條 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第十三條 遞信大臣ハ本令ノ定ムル職權ノ一部ヲ遞信局長

爲ス

第三條 令第四條第一項ノ命令ニ依リ船員ヲ使用セシムル場合ニ於テハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノハ當該船員ノ處遇ニ關シ從來ノ利益ヲ害スルコトヲ得ス

第四條 令第四條第一項ノ命令アリタル場合ニ於テ使用セシムヘキ船員決定シタルトキ又ハ同條第二項ニ規定スル協議調ヒタルトキハ當事者タル船舶所有者又ハ其ノ組合其ノ他之ニ準スルモノ連署ノ上遲滞ナク第一號書式ニ依リ報告書又ハ契約書ノ謄本ヲ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第五條 令第四條第二項ノ裁定ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ副本二通ヲ添へ所轄遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ  
遞信大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ副本ヲ申請者ノ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ遞信大臣ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得  
遞信大臣裁定ヲ爲シタルトキハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ

船員使用等統制令施行規則

ニ委任スルコトヲ得

第十四條 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮又ハ臺灣ニ在リテハ各朝鮮總督府遞信局長又ハ臺灣總督府交通局總長トシ道府縣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳又ハ南洋群島地方廳トス

附 則

本令ハ昭和十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

### 船員使用等統制令施行規則

(昭和十五年十一月 遞信省令第六十六號)

第一條 船員使用等統制令(以下令ト稱ス)第二條ノ船舶ハ總噸數百噸以上ノ汽船トス

第二條 令第四條第一項ノ命令ハ船員ノ資格又ハ職務別員數、使用期間、使用スヘキ船舶所有者等ヲ指定シテ之ヲ

當事者雙方ニ送付スヘシ

第六條 令第八條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ遞信大臣ノ指定スル期日迄ニ第二號書式ニ依リ申請書ニ副本ヲ添へ所轄遞信局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ申請ニ對スル認可ヲ爲シタル後ニ於テ特別ノ必要アリ且使用シ得ヘキ修了者アルトキハ前項ノ期日ニ拘ラズ申請書ヲ受理スルコトアルヘシ

第七條 令第八條ノ認可アリタル後一年以内ニ修了者ヲ雇入レサルトキハ其ノ範圍ニ於テ效力ヲ失フ

第八條 令第八條ノ認可ヲ受ケタル者修了者ヲ雇入レタルトキ又ハ解雇シタルトキハ遲滞ナク第三號書式ニ依リ報告書ヲ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

第九條 常時五十人以上ノ船員ヲ使用スル船舶所有者及總噸數百噸以上ノ汽船ノ船舶所有者ハ船員ノ使用狀況ニ關シ第四號書式ニ依リ報告書ヲ各一月、四月、七月及十月ノ末日迄ニ遞信大臣及所轄遞信局長ニ提出スヘシ

附 則

第十條 令第十條第二項ノ證票ハ第五號書式ニ依リ本令ハ船員使用等統制令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



































(表)

第 號	官 氏 名
國家總動員法(船員關係)ニ基ク 當該官廳印	
官 吏 臨 檢 證 票	
(遞 遞 信 信 局 省)	

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場合ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第十一章 船員職業能力申告

#### 船員職業能力申告令

(昭和十四年一月 勅令第二十三號)

第一條 國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告及其ノ職業能力ニ關スル檢査ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ船員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 船員法第一條(朝鮮船員令及關東州船員令ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)ニ規定スル船員
- 二 海技免狀ヲ有スル者
- 三 遞信大臣ノ指定スル船員養成施設ニ於テ其ノ課程ヲ修了シタル者ニシテ修了後三年ヲ經過セサルモノ及該期間内ニ船員法第一條ニ規定スル船員トシテ船舶ニ乗組ミ最後ノ雇止ノ公認後三年ヲ經過セサルモノ
- 四 船員法第一條ニ規定スル船員トシテ一年以上船舶ニ乗組ミタル者ニシテ最後ノ雇止ノ公認後三年ヲ經過セサルモノ

船員職業能力申告令

#### 船員職業能力申告

第三條 船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ申告ハ毎年一回之ヲ爲サシムルモノトス

前項ノ申告ハ七月一日現在ニ依リ同月十五日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第四條 船員ハ左ニ掲クル事項ヲ居住地ヲ管轄スル管海官廳ニ申告スヘシ

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 出生ノ年月日
- 四 本籍
- 五 居住ノ場所
- 六 兵役關係
- 七 學歷
- 八 船員手帳ヲ有スルトキハ其ノ管海官廳略號及番號
- 九 海技免狀ヲ有スルトキハ其ノ種類及番號
- 十 無線通信士資格檢定合格證書ヲ有スルトキハ其ノ等級及番號
- 十一 救命艇手適任證書其ノ他ノ海技ニ關スル資格證明

七〇五



- 書ヲ有スルトキハ其ノ旨
  - 十二 乗船履歷
  - 十三 現ニ從事スル業務
  - 十四 俸給、給料等ヲ受クル者ナルトキハ其ノ額
  - 十五 健康狀況殊ニ船内勤務ニ關スル支障ノ有無
  - 十六 配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數
  - 十七 船内勤務ニ關スル希望
  - 十八 其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項
- 船員手帳ヲ有スル者ハ前項第十二號ノ申告ヲ爲スコトヲ要セス

船員第一項ノ申告ヲ爲シタル後同項第一號、第四號乃至第六號及第十三號ニ掲クル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ第六條ノ規定ニ該當スル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ居住地ヲ管轄スル管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

**第五條** 船員法第一條ニ規定スル船員ハ本令ニ依リ申告ヲ爲スコトヲ要セス但シ遞信大臣必要アリト認ムルトキハ船員法第一條ニ規定スル船員ノ全部又ハ一部ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條第一項ニ掲クル事項ノ一部ヲ申告セシムルコトヲ得

**第六條** 船員第三條及第四條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ申告期限ヲ延長スルコトヲ得

- 一 陸海軍軍人ニシテ召集中ノモノ（前條ニ規定スル召集中ノ者ヲ除ク）
- 二 外國旅行中ノ者
- 三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル者

**第十一條** 本令中遞信大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ管海官廳トアルハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官ノ指定スル行政官廳、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官ノ指定スル行政官廳トス

**第十二條** 本令ニ規定スルモノノ外申告ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十四年ニ限リ第三條第二項中七月一日現在ニ依リ同月十五日迄トアルハ四月一日現在ニ依リ同月十五日迄トス

後左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滞ナク前ニ申告ヲ爲シタル管海官廳ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

**第九條** 規定ニ該當スルニ至リタルトキ

- 一 本令施行地外ニ居住ノ場所ヲ移シタルトキ
- 二 本令施行地外ニ居住ノ場所ヲ移シタルトキ

**第七條** 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

**第八條** 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令ノ申告ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基ク報告ヲ徵スルコトヲ得

**第九條** 本令ハ第六條第一號ノ規定ニ依リ申告ニ關スル規定ヲ除クノ外陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（歸休下士官兵ヲ除ク）及戰時若ハ事變ニ際シ又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規定（志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム）ニ依リ召集中ノモノ、兵籍ニ編入セラレタル陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム）、陸海軍軍屬、國家總動員法第四條ノ規定ニ依リ徵用中ノ者竝ニ醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者ニ對シテ之ヲ適用セス

**第十條** 船員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノノ申告ニ

### 船員職業能力申告令施行規則

（昭和十四年一月）  
遞信省令第二號

**第一條** 船員職業能力申告令（以下申告令ト稱ス）第三條ノ規定ニ依リ申告ハ第一號書式ニ依リ船員職業能力申告書用紙ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ船員職業能力申告書用紙ハ管海官廳其ノ他遞信大臣ノ告示ヲ以テ指定スル者ニ申出テ其ノ交付ヲ受クヘシ

**第二條** 申告令第四條第三項ノ規定ニ依リ申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニハ變更ニ係ル新舊事項及變更ヲ生シタル年月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

**第三條** 申告令第六條ノ規定ニ依リ申告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

前項ノ書面ニハ申告令第六條各號ニ該當スル事項及其ノ該當スルニ至リタル年月日ヲ記載シ記名捺印スヘシ

**第四條** 申告令第五條ノ規定ニ依リ船員法第一條ニ規定ス







(七) 船内勤務に希望する	(八) 船種	(九) 船名	(一〇) 船種	(一一) 船内勤務	(一二) 強健	(一三) 普通	(一四) 病弱	(一五) 配偶者	(一六) 現に扶養する者の数	人	
											支障
(一七) 船種	(一八) 航行区域	(一九) 公稱馬力	(二〇) 噸數	(二一) 職務	(二二) 給料	(二三) 乗船年月日	(二四) 下船年月日	省			
(二五) 要申告者なり	(二六) 要申告者に非ず	(二七) 馬力	(二八) 噸	(二九) 考	(三〇) 手當	(三一) 年月日	(三二) 年月日				

右之通相違無之候也

年 月 日

御中 申告者 氏名印

(裏)

記載心得

一 一般の注意事項

(イ) 文字は明瞭に墨又は青インクを以て記載すること

(ロ) 誤記した事項は其の上に線を引いて之を抹消し其の傍に正しい文字を記載すること

(ハ) 該当しない事項及不要な箇所は其の上に線を引いて之を抹消すること

二 各項目の記載方

(一) 氏名

氏名には其の右側に振假名を附けること

(二) 居住の場所

平常居住する場所を記載すること

(三) 海技免状の種類及番號

效力に制限を加へた海技免状は其の種類及番號を記載すること

(四) 海技免状を併有する者は其の種類及番號を全部併記すること

(五) 學歴

船員としての學歴には商船學校、水産學校其の他養成所等を記載すること

其の他の學歴には右以外の最高學歴を記載し、尙試験に依り資格を得たる者は夫れに相當する學校(例へば專檢、實檢、高檢合格者は甲種中等學校卒業とするが如し)を記載すること

(六) 現に従事する業務

(イ) 種類

勤務者に付ては勤務先及職務名又獨立して業務を営む者に付ては其の種類を記載し、尙無職の者は無職と記載し又汽船會社の豫備員は何々會社豫備員と記載すること

(ロ) 報酬

獨立して業務を営む者は其の平均月收額を記載すること

船員職業能力申告令施行規則



手當は職務手當、勤續手當等の如く支給額が確定せるものゝ合金額を記載し、尙俸給又は給料の何割と記載するも妨げないこと

(十五) 健 康 状 況

急性傳染病等の如き一時的疾患に因る故障は船内勤務支障の理由とならないこと  
船内勤務支障の理由ある場合は疾病に在りては其の病名を、不具又は精神身體の障害に在りては其の不具又は障害の箇所を記載すること

(十六) 配偶者の有無及現に扶養する者の數

配偶者は内縁關係をも含み、「現に扶養する者の數」には自己の家計に依存して生活を營む者の數を記載すること

(十七) 船内勤務に關する希望

船種は汽船、發動機船、旅客船、貨物船等を記載すること  
特に希望する事項(例へば北米航路、上海航路等)又は特に希望しない事項があれば「其他」に記載すること

(十八) 乗 船 履 歴

海技免狀を有し船員法の適用を受けない船舶に乗船した者は最後に乗船した船舶に付又海技免狀を有し船員法の適用を受けない船舶に乗船中の者は現に乗船し居る船舶に付記載すること

船員手帳受有者は下船後三年間は乗船履歴を記載することを要しないこと

(十九) 備 考

特に熟知して居る外國航路又は外國港灣あるときは之を本欄に記載すること  
特殊技能ある者は之を本欄に記載して差支ないこと  
本申告を怠りたる者は國家總動員法に依り處罰されることがあるから注意すること

第二號書式 (横 八・五 厘) (表)

第 號	船 員 職 業 能 力 檢 査 證 票	
	官 職	名
	氏	
	遞 信 省 印	

(裏)

國家總動員法第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ檢査スルコトヲ得

國家總動員法第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ怠避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

船員職業能力申告令第七條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

船員職業能力申告令施行規則第五條 管海官廳ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シタル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證票ヲ携帯スヘシ



### 船員職業能力申告令第二條第三號ノ規定ニ依ル船員養成施設指定ノ件

(昭和十四年二月 遞信省告示第五百四十號)

船員職業能力申告令第二條第三號ノ規定ニ依ル船員養成施設左ノ如ク指定シ本日ヨリ之ヲ施行ス

名 稱	位 置
一 社団法人日本海員救濟會	橫濱市中區吉濱町十四番地ノ一
二 社団法人日本海員救濟會	大阪市港區出崎町一丁目八番地
三 社団法人日本海員救濟會	福岡縣若松市北湊町三丁目地先
四 社団法人電信協會管理無線電信講習所	東京市目黒區下目黒一丁目五番地

### 船員職業能力申告令事務取扱ニ關スル件

(昭和十四年二月 海第五百一號通牒)

船員職業能力申告令(以下申告令ト稱ス)事務ハ左記ニ依リ取扱相成度此段及通牒候

記

- 一 申告令事務ノ取扱ニ付テハ懇切丁寧ヲ旨トシ、特ニ申告義務者ヲシテ申告ノ重要性ヲ充分了解セシメ、進ンテ申告ヲ勵行スル様ニ指導ニ萬全ヲ期スルコト
- 二 船員職業能力申告書用紙ニ付テハ單ニ申告義務者ノ請求ヲ俟ツテ之ヲ交付スルノミナラス、可成申告義務者ノ探知ニ努メ、進ンテ之ヲ交付ノ方途ヲ講スルコト
- 三 申告書ノ提出方法ハ使者又ハ郵便等申告者ノ便宜ニ依ラシメテ可ナルコト
- 四 申告書提出アリタルトキハ直ニ其ノ内容ヲ檢シ、不備ノ箇所アルトキハ之ヲ補正スル爲適宜ノ方法ヲ講スルコト

五 申告令施行規則第一條ノ船員職業能力申告書ハ「海技免狀ヲ有スル者」ト「其ノ他ノ者」トノ二種ニ分別シテ取纏メ、其ノ各々ニ其ノ種類及葉數ヲ記載シタル表紙ヲ附シテ、昭和十四年八月二十五日迄ニ、昭和十五年以後ハ毎年七月二十五日迄ニ之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト

前項ノ期限後ニ到着シタル申告書ハ一月毎ニ取纏メ、翌月七日迄ニ之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト  
申告令施行規則第十條ニ該當スル者ヨリ提出シタル申告書ハ遲滞ナク之ヲ書留便ニテ管船局ニ送付スルコト

六 申告令施行規則第二條及第三條ノ申告書ハ提出アリタル都度遲滞ナク之ヲ管船局ニ送付スルコト  
七 申告令施行規則第七條ノ報告ヲ除クノ外同第八條及第九條ノ報告ハ書面ニ依ラシムルコトヲ要セサルコト

八 申告令施行規則第七條乃至第九條ノ報告アリタルトキハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ管船局ニ報告スルコト  
九 申告令第四條第二項ニ「船員手帳ヲ有スル者」トアルハ船員法施行規則第十九條ニ依リ期間經過無効ニ非サル船員手帳ヲ受有スル者及該船員手帳ヲ滅失又ハ毀損シテ未タ再交付ヲ受ケサル者ヲ指稱スルモノナルコト

船員職業能力申告令第二條第三號ノ規定ニ依ル船員養成施設指定ノ件・船員職業能力申告令第七條ニ依ル管海官廳ノ検査ニ關スル件・關東州船員職業能力申告規則

十 船員法施行令第一條第二號ニ掲クル者ニシテ申告令施行規則ノ適用區域外ニ在ルモノハ、同規則第十條第二號ニ該當スル者トシテ之ヲ處理スルコト

### 船員職業能力申告令第七條ニ依ル管海官廳ノ検査ニ關スル件

(昭和十四年四月 海第五百四十三號通牒)

船員職業能力申告令第七條ニ依ル管海官廳ノ検査ハ追テ當局ヨリ指示スル迄之ヲ行フノ要無之候條了知相成度

### 關東州船員職業能力申告規則

(昭和十四年十二月 關東局令第九號)

關東州國家總動員令ニ於テ依ルコトヲ定メタル國家總動員法第二十一條ノ規定ニ基ク船員ノ職業能力ニ關スル事項ノ







(九)國民職業能力申告令に依る要申告者なりや否

要申告者なり  
要申告者に非ず

(三)備

考

右之通相違無之候也

年 月 日

御 中

申 告 者 氏 名

印

(裏)

記 載 心 得

一 一般ノ注意事項

(イ) 文字ハ明瞭ニ墨又ハ青インクヲ以テ記載スルコト

(ロ) 誤記シタ事項ハ其ノ上ニ線ヲ引イテ之ヲ抹消シ其ノ傍ニ正シイ文字ヲ記載スルコト

(ハ) 該當シナイ事項及不要ノ箇所ハ其ノ上ニ線ヲ引イテ之ヲ抹消スルコト

二 各項目ノ記載方

(一) 氏 名

氏名ニハ其ノ右側ニ振假名ヲ附ケルコト

(四) 帝國臣民ニ非サルモノニ於テハ民籍又ハ國籍ヲ記入スルコト

(五) 居住ノ場所

平常居住スル場所ヲ記載スルコト

(七) 海技免狀ノ種類及番號

效力ノ制限ヲ加ヘタ海技免狀ハ其ノ種類及番號ヲ記載スルコト

海技免狀ヲ併有スル者ハ其ノ種類及番號ヲ全部併記スルコト

(十三) 學 歴

船員トシテノ學歷ニハ商船學校、水産學校其ノ他養成所等ヲ記載スルコト

其ノ他ノ學歷ニハ右以外ノ最高學歷ヲ記載シ尙試験ニ依リ資格ヲ得タル者ハ夫レニ相當スル學校(例ヘハ專檢、實檢、高檢合格者ハ甲種中等學校卒業トスルカ如シ)ヲ記載スルコト

(十四) 現ニ從業スル業務

(イ) 種 類

勤務者ニ付テハ勤務先及職務名又獨立シテ業務ヲ營ム者ニ付テハ其ノ種類ヲ記載シ尙無職ノ者ハ無職ト記載シ又汽船會社ノ豫備員ハ何々會社豫備員ト記載スルコト

(ロ) 報 酬

獨立シテ業務ヲ營ム者ハ其ノ平均月收額ヲ記載スルコト

手當ハ職務手當、勤続手當ノ如ク支給額ヲ確定セルモノノ合計金額ヲ記載シ尙俸給又ハ給料ノ何割ト記載スルモ妨ケナイコト

(十五) 健 康 狀 況

急性傳染病等ノ如キ一時的疾患ニ因ル故障ハ船内勤務支障ノ理由トナラナイコト

船内勤務支障ノ理由アル場合ハ疾病ニ在リテハ其ノ病名ヲ、不具又ハ精神身體ノ障害ニ在リテハ其ノ不具又ハ障害ノ箇所ヲ記載スルコト

(十六) 配偶者ノ有無及現ニ扶養スル者ノ數

配偶者ハ内縁關係ヲモ含ミ、現ニ扶養スル者ノ數ニハ自己ノ家計ニ依存シテ生活ヲ營ム者ノ數ヲ記載スルコト

(十七) 船内勤務ニ關スル希望

船種ハ汽船、發動機船、旅客船、貨物船等ヲ記載スルコト

特ニ希望スル事項(例ヘハ北米航路、上海航路等)又ハ特ニ希望シナイ事項カアレハ「其ノ他」ニ記載スルコト

(十八) 乘 船 履 歷

海技免狀ヲ有シ船員法ノ適用ヲ受ケナイ船舶ニ乗船シタ者ハ最後ニ乗船シタ船舶ニ付又海技免狀ヲ有シ船員法ノ適用ヲ受ケナイ船舶ニ乗船中ノ者ハ現ニ乗船シ居ル船舶ニ付記載スルコト

關東州船員職業能力申告規則(關東州)



船員手帳受有者ハ下船後三年間ハ乗船履歴ヲ記載スルコトヲ要シナイコト

(三) 備考

特ニ熟知シテ居ル外國航路又ハ外國港灣アルトキハ之ヲ本欄ニ記載スルコト特殊技能アル者ハ之ヲ本欄ニ記載シテ差支ナイコト

三 本申告ヲ怠リタル者ハ國家總動員法ニ依リ處罰サレルコトカアルカラ注意スルコト

第二號書式 (豎八・五種) (横六)

第 號

(表)

船員職業能力検査證票

官職

關東局印  
氏

名

(裏)

關東州國家總動員令第一條 關東州ニ於ケル國家總動員ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ

除クノ外國家總動員法ニ依ル但シ同法第五十條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

國家總動員法第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國

臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セ

シメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

國家總動員法第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ

若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

(關東州船員職業能力申告規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船員職業能力申告令及同施行

規則抄)

船員職業能力申告令第七條 管海官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ本令ノ申告

ヲ爲シタル者ニ就キ其ノ職業能力ニ關シ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

船員職業能力申告令施行規則第五條 管海官廳ハ當該官吏ヲシテ申告令ニ依ル申告ヲ爲シ

タル者ニ就キ身體、技能其ノ他必要ト認ムル事項ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ當該官吏ハ第二號書式ニ依ル證票ヲ携帯スヘシ



第十二章 船員徵用

船員徵用令

(昭和十五年十月  
勅令第六百八十七號)

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號)於  
テ依ル場合ヲ含ム以下同シ)第四條ノ規定ニ基キ船員職  
業能力申告令第二條ニ掲クル者(醫療關係者職業能力申  
告令ニ依リ申告ヲ爲スヘキ者ヲ除ク)ヲ船員トシテ總動  
員業務タル船舶ノ運航ニ從事セシムル爲ニ徵用シ及國家  
總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徵用者ノ使用又ハ給與其  
ノ他ノ勞働條件ニ付命令ヲ爲スハ本令ノ定ムル所ニ依ル  
第二條 徵用ハ特別ノ事由アル場合ノ外船員職業紹介所ノ  
職業紹介其ノ他募集ノ方法ニ依リ所要ノ人員ヲ得ラレサ  
ル場合ニ限り之ヲ行フモノトス  
第三條 本令ニ依リ徵用スル者ハ命令ヲ以テ定ムル船舶ニ  
配置セラルルモノトス  
第四條 徵用及徵用ノ解除ハ遞信大臣之ヲ行フ

船員徵用令

第五條 船舶所有者ハ徵用ニ依ル船員ノ配置ヲ必要トスル  
トキハ遞信大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スヘシ

第六條 遞信大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル  
場合ニ於テ徵用ノ必要アリト認ムルトキハ徵用令書ヲ發  
シ徵用セラルヘキ者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條 徵用令書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ但シ軍  
機保護上特ニ必要アルトキハ第二號又ハ第三號ニ掲クル  
事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 徵用セラルヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍及居  
住ノ場所(現ニ乗組中ノ者ニ付テハ居住ノ場所ニ代ヘ  
乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)

二 配置セラルル船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名  
稱

三 從事スヘキ職務

四 徵用ノ期間

五 出頭スヘキ日時及場所

六 其ノ他必要ト認ムル事項



第八條 遞信大臣ハ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アルトキハ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第九條 徵用令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スルコト能ハサル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ遞信大臣必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ又ハ其ノ者徵用ニ適セスト認ムルトキハ徵用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更令書又ハ徵用取消令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第十條 被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者被徵用者ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ヲ必要トスルトキハ遞信大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スヘシ

第十一條 遞信大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ被徵用者ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ノ必要アリト認ムルトキハ徵用ノ變更令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ同條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ遞信大臣被徵用者

ノ配置セラルル船舶、從事スル職務又ハ徵用ノ期間ニ付變更ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

前項後段ノ規定ニ依リ遞信大臣官衙ニ使用セラルル者ニ付徵用變更令書ヲ發セントスルトキハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議スヘシ

第十二條 被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者被徵用者カ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ニ從事スルニ適セスト認ムルトキ又ハ其ノ者ノ配置ヲ必要トセサルニ至リタルトキハ遞信大臣ニ徵用ノ解除ヲ請求又ハ申請スヘシ

被徵用者疾病其ノ他ノ事由ニ因リ職務ニ從事シ難キ場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ、其ノ他ノ者ニ在リテハ遞信大臣ニ、其ノ旨ヲ申出ツルコトヲ得

第十三條 遞信大臣前條第一項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ徵用ノ解除ノ必要アリト認ムルトキハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スヘシ同項ノ規定ニ依ル請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ遞信大臣徵用ノ解除ノ必要アリト認ムルトキ亦同シ

第十一條第二項ノ規定ハ前項後段ノ規定ニ依リ遞信大臣カ官衙ニ使用セラルル者ニ付徵用解除令書ヲ發セントス

ル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 被徵用者總動員業務タル船舶ノ運航ニ從事スル場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長ノ指揮ヲ受ケ其ノ他ノ者ニ在リテハ船舶所有者ノ指示ニ從フヘシ

第十五條 被徵用者ニ對スル給與ハ其ノ者ノ乗船履歴、技能及職務並ニ配置セラルル船舶ノ航路又ハ就航區域ノ狀況等ニ應シ且從前ノ給料其ノ他ノ之準スヘキ收入ヲ斟酌シテ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者之ヲ支給スルモノトス

被徵用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣遞信大臣ニ協議シテ之ヲ定メ其ノ者ニ關シテハ船舶所有者遞信大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第十六條 徵用セラルヘキ者第八條ノ規定ニ依リ出頭スル場合、被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合又ハ徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合ニ於ケル旅費ハ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者之ヲ支給スルモノトス

前項ノ旅費ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者

船員徵用令

ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣遞信大臣ニ協議シテ之ヲ定メ其ノ他ノ者ニ關シテハ遞信大臣之ヲ定ム

第十七條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ被徵用者カ官衙ニ使用セラルル場合ヲ除クノ外國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徵用者ヲ使用スル船舶所有者ニ對シ被徵用者ノ使用又ハ給與其ノ他ノ勞働條件ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 遞信大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ報告ヲ徵スルコトヲ得

遞信大臣徵用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ船舶、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムヘシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徵用セス  
一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ（未タ入營セサル者ヲ除ク）及召集中ノモノ（召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム）  
二 陸海軍學生生徒（海軍豫備練習生及海軍豫備補習生



ヲ含ム)

三 陸海軍軍屬(被徵用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク)

四 法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セス

一 餘人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ル官吏、待遇官吏又ハ公吏

二 帝國議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準スヘキモノノ議員

三 總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサルモノ

第二十一條 本令及本令ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第二十二條 遞信大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遞信局長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十三條 遞信大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付内閣總理大臣ニ協議スヘシ

### 船員徵用令施行規則

(昭和十五年十月) 遞信省令第五十五號

第一條 船員徵用令(以下令ト稱ス)第三條ノ船舶ハ總噸數五百噸以上ノ船舶トス

第二條 令第五條、令第十條又ハ令第十二條ノ規定ニ依リ國以外ノ船舶所有者ノ爲ス申請ハ第一號書式ニ依ル申請書ヲ遞信大臣ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ遞信局長ヲシテ徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求メシメ徵用ノ適否其ノ他ヲ判定セシムルコトヲ得

第四條 遞信大臣又ハ遞信局長徵用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求ムル場合ハ第二號書式ニ依ル出頭要求書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スヘシ

第五條 徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用變更令書及徵用解除令書ハ第三號書式ニ依ル

第六條 令第九條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ左ノ書類ヲ添附シ遞信大臣ニ遲滞ナク之ヲ爲スヘシ  
一 疾病傷痕ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診

船員徵用令施行規則

第二十四條 第二十二條ノ規定ハ樺太及南洋群島ニハ之ヲ適用セス

本令中遞信大臣又ハ當該官衙ノ所管大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ遞信局長トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府遞信局長、臺灣ニ在リテハ臺灣總督府交通局總長トス

第二十五條 本令ニ規定スルモノノ外本令ニ依ル徵用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十五年十月二十二日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

斷書(已ムヲ得サル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)

二 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、橫濱市及神戸市ニ在リテハ區長)若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書

第七條 徵用セラルヘキ者又ハ被徵用者出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭要求書、徵用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ

第八條 遞信大臣徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發スル場合ハ被徵用者ノ配置セラルル船舶ノ船舶所有者ニ其ノ旨ヲ通知ス

第九條 令第十五條第二項ノ規定ニ依ル認可ハ第四號書式ニ依ル申請書ヲ遞信大臣ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 遞信大臣又ハ遞信局長必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルヘキ者又ハ其ノ者ヲ使用シ若ハ使用シタル者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十一條 令第十八條第二項ノ證票ハ第五號書式ニ依ル附 則

本令ハ船員徵用令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



第一號書式ノ一(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

遞信大臣宛										申請者住所及氏名	
船員徵用配置申請書										名	
船種番號		第		船丸號		航行區域又ハ從業制限					
總噸數		噸		關機種		公稱馬力		給與ニ關スル事項(豫定)		馬力	
船舶ノ用途		數		配置ヲ必要トスル期間		稱馬力					
職務員		數				馬力					
計		人				備考					
申請事由											

記載心得  
 一 船舶ノ用途欄ニハ旅客船、貨物船、貨客船、油槽船、漁船等ノ區別ヲ記載スルコト  
 二 機關ノ種類欄ニハ汽機又ハ發動機ノ別ヲ記載スルコト  
 三 給與ニ關スル事項(豫定)欄ニハ配置セララル被徵用者ヲ處遇セントスル給與ニ關スル事項ヲ成ル可ク詳細ニ記載スルコト  
 四 申請事由欄ニハ配置ヲ必要トスル事由ヲ具體的ニ詳細ニ記載スルコト

第一號書式ノ二(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

遞信大臣宛										申請者住所及氏名	
船員徵用變更申請書										名	
徵用令書發付番號		第		號		職務					
被徵用者氏名				船種船名		船丸					
變更ノ内容		船種船名		船丸		船種船名		船丸			
總噸數		噸		關機種		公稱馬力		給與ニ關スル事項(豫定)		馬力	
航行區域又ハ從業制限				稱馬力		馬力					
職務員		數				備考					
申請事由											

記載心得  
 申請事由欄ニハ配置變更ヲ必要トスル事由ヲ具體的ニ詳細ニ記載スルコト  
 船員徵用令施行規則



第一號書式ノ三 (用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

昭和 年 月 日

逓信大臣宛

申請者住所及氏

名 印

船員徵用解除申請書

第 第 第 第 第 第 第	船 船 番 號	第	船 員 氏 名	徵 用 年 月 日	號	船 種	船 名	務	申 請 事 由
號 號 號 號 號 號 號									
年 年 年 年 年 年 年									
月 月 月 月 月 月 月									
日 日 日 日 日 日 日									

第二號書式 (用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5) (表面)

出頭要求書發付番號

出頭要求書

本 籍  
居住ノ場所

(乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)

氏

年 月 日 生 名

右ノ者船員徵用令第八條ニ依リ左ノ日時及場所ニ出頭ヲ求ム

第 號

出頭スヘキ日時	
出頭スヘキ場所	
備 考	

昭和 年 月 日

逓信大臣 氏 氏  
(逓信局長)

名 名 印 印

船員徵用令施行規則



(裏面)

出頭要求書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

出頭要求書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該要求書及印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ

(参照)

船員徴用令第八條 遞信大臣ハ徴用ノ適否其ノ他ヲ判定スル爲必要アルトキハ徴用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求めルコトヲ得

船員徴用令施行規則第三條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ遞信局長ヲシテ徴用セラルヘキ者ニ出頭ヲ求めシメ徴用ノ適否其ノ他ヲ判定セシムルコトヲ得

記載心得

- 一 出頭スヘキ場所ハ詳細ニ記載スルモノトス
- 二 備考ハ遞信大臣又ハ遞信局長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 三 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ一 (用紙ノ白色、大サハ日本標準規格B5) (表面)

號 第		號番付發書令用徴				
昭和	年	月	日	備考	徵用令書	右ノ者左ノ通徴用ス 本籍 居住ノ場所 (乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱) 氏 年 月 日 生 名
				從事スヘキ職務	配置セララル船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	
				徵用ノ期間		
				出頭スヘキ日時		
				出頭スヘキ場所		

船員徴用令施行規則

遞信大臣 氏

名 印



(裏面)

徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

- 一 徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ本令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツヘシ
- 二 徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者傷痕疾病ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診断書(已ムヲ得サル事情ニ因リ醫師ノ診断書ヲ得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ遞信大臣ニ遲滞ナク届出ツヘシ
- 三 徴用令書ノ交付ヲ受ケタル者天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長(東京市、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長)若ハ之ニ準スヘキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ遞信大臣ニ遲滞ナク届出ツヘシ

記載心得

- 一 出頭スヘキ場所ハ詳細ニ記載スルモノトス
- 二 備考ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 三 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ二(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)  
(表面)

日 月 年	書 令 用 徴 日 月 年 付 發	號 第	出 頭 變 更 令 書 號 番 付 發 書
昭和 年 月 日	備 考	右ノ者其ノ出頭スヘキ日時及場所ヲ左ノ通變更ス	出 頭 變 更 令 書 本 籍 居住ノ場所 (乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱) 氏 年 月 日 生 名
遞信大臣 氏			名 印

船員徴用令施行規則



(裏面)

出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ徵用令書ト共ニ本令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツ  
ヘシ

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ徵用令書ニ記載シタル本籍及居住ノ場所ヲ記載スルモノトス
- 二 出頭スヘキ場所ハ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノトス
- 三 備考ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 四 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第三號書式ノ三(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)

徵消發 用令付 取書號	第 號	本籍 居住ノ場所 (乗組船舶ノ船名及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱)	徵用取消令書	氏名	年 月 日 生	右ノ者其ノ徵用ヲ取消ス	昭和 年 月 日	遞信大臣 氏	名 圖
-------------------	--------	---------------------------------------	--------	----	------------------	-------------	-------------------	-----------	--------

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ徵用令書ニ記載シタル本籍及居住ノ場所ヲ記載スルモノトス
- 二 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

船員徵用令施行規則



徵用變更令書

現ニ配置セララルル船舶  
本籍  
居住ノ場所

氏  
年 月 日 生 名

右ノ者其ノ何々ヲ左ノ通變更ス

徵用變更令書 號番付發書	第 號	徵用令書 日 月 年 付發	日 月 年
徵用ノ期間 昭 和 年 月 日		從事スヘキ職務 從 事 員	配置セララルル船舶ノ船名 船 名
遞信大臣 氏 名 印			

記載心得

- 一 本籍及居住ノ場所ハ被徵用者カ指定ノ場所ニ出頭スル前又ハ指定ノ場所ニ出頭シタル場合ニ發スル徵用變更令書ニ  
限リ之ヲ記載スルモノトシ此ノ場合ハ「現ニ配置セララルル船舶」ハ記載ヲ要セサルモノトス
- 二 不要文字ハ抹消スルモノトス
- 三 備考ハ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 四 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス



第三號書式ノ五(用紙ハ白色、大サハ日本標準規格B5)

徵令付 用書番 除發號	第 號	徵書年 用發月 令付日	日 月 年
徵 用 解 除 令 書		右ノ者 年 月 日 日限り徵用ヲ解除ス	昭和 年 月 日
現ニ配置セラルル船舶		氏	氏
		年 月 日	年 月 日
		名 生	名 生
		遞信大臣 氏	遞信大臣 氏
		名 印	名 印

記載心得

文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

第四號書式(用紙ノ大サハ日本標準規格B5)

初任給ニ關スル事項	昇給ニ關スル事項	手當ニ關スル事項	賞與ニ關スル事項	其ノ他給與ニ關スル事項	備 考
船員徵用令第十五條第二項ニ依ル給與認可申請書					
遞 信 大 臣 宛			申 請 者 住 所 及 氏 名 印		
昭和 年 月 日					



第 號

官 氏 名

國家總動員法(船員關係)ニ基ク  
當該官廳印  
官 吏臨檢 證票

遞 信 省  
(遞信局又ハ廳府縣)

(裏)

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必  
要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ  
又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務  
ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查セシム  
ルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依  
ル當該官吏ノ檢查ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者  
ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

### 第十三章 國際條約

#### 海員ニ對スル職業紹介所 設置ニ關スル條約

(大正十一年十一月二十三日  
條約 第七號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ千九百二十年六月十五日

「ゼノア」ニ招集セラレ

右「ゼノア」總會ノ會議事項ノ第二項目タル「雇入契約

ノ監督、海員ニ對スル職業紹介、客年十一月華盛頓ニ於

テ採擇セラレタル失業及失業保險ニ關スル條約及勸告ノ

海員ニ對スル適用」ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決

定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルルカ爲千九百十九  
年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九  
月十日ノ「サン、ジェルマン」條約、千九百十九年十一月

海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約

二十七日ノ「マイイ」條約及千九百二十年六月四日ノ「  
گران、トリアノン」條約ノ勞働編ノ規定ニ從ヒ左ノ條約  
案ヲ採擇ス

#### 第一條 (海員ノ定義)

本條約ニ於テ「海員」ト稱スルハ海洋航行ニ從事スル船舶  
ノ乘組員トシテ使用セラルル一切ノ者ヲ包含ス但シ職員ハ  
之ヲ除ク

#### 第二條 (海員職業紹介)

海員ニ對スル職業紹介業ハ個人、會社其ノ他ノ紹介所ニ依  
リ營利ヲ目的トスル業務トシテ經營セラルルコトヲ得ス又  
個人、會社其ノ他ノ紹介所ハ船舶ノ海員ノ職業紹介ニ付直  
接ニ又ハ間接ニ何等ノ手数料ヲ課スルコトヲ得ス  
各國ハ法令ヲ以テ本條ノ規定ノ違反ニ對スル罰則ヲ定ムヘ  
シ

#### 第三條 (營利目的ノ職業紹介廢止)

營利ヲ目的トスル業務トシテ海員ノ職業紹介業ヲ現ニ經營  
スル個人、會社其ノ他ノ紹介所ハ第二條ノ規定ニ拘ラス政



府ノ免許ノ下ニ其ノ業務ヲ一時繼續スルコトヲ得但シ右ノ事業ハ一切ノ關係人ノ權利ヲ保護スル爲政府ノ監督ノ下ニ經營セラルルモノトス  
本條約ヲ批准スル各締盟國ハ營利ヲ目的トスル業務タル海員職業紹介業ヲ能ク限リ速ニ廢止スル爲實行シ得ヘキ一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第四條 (無料職業紹介所)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ海員ニ對スル公ノ無料職業紹介所ノ有效且適切ナル制度ヲ組織シ且維持スヘキコトヲ約ス右ノ制度ハ

(一) 中央官廳ノ監督ノ下ニ協同スル船舶所有者及海員ノ代表團體ニ依リ又ハ

(二) 右ノ協同行爲ヲキトキハ國自身ニ依リ組織シ且維持セラルルコトヲ得

一切ノ右職業紹介所ノ事業ハ海事ノ實地經驗ヲ有スル者ニ依リ管理セラルヘシ

右ノ各種ノ職業紹介所併存スル場合ニ於テハ國ノ基底ニ於テ之ヲ調整スル爲ノ措置ヲ執ルヘシ

第五條 (職業紹介委員會)

前記紹介所ノ經營ニ關スル事項ニ付助言セシムル爲船舶所

第十條 (統計及情報)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ海員ノ失業及職業紹介所ノ事業ニ關スル統計其ノ他ノ調達シ得ヘキ一切ノ情報ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

國際勞働事務局ハ各國ノ政府又ハ關係團體ト協定ノ上各種ノ各國海員職業紹介所ノ調整ヲ確保スルノ措置ヲ執ルヘシ

第十一條 (殖民地等ニ適用スル場合)

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ適用スルコトヲ約ス

(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第十二條 (批准登錄)

千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九月十日ノ「サンジェルマン」條約、千九百十九

海員ニ對スル職業紹介所設置ニ關スル條約

有者及海員ノ同數ノ代表者ヨリ成ル委員會ヲ組織スヘシ各國政府ハ右委員會ノ權能ヲ明確ニスル爲殊ニ右ノ委員外ヨリノ議長ノ選定、國ノ監督ノ程度及右委員會カ海員ノ幸福ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ得ヘキ助力ニ關シ規定ヲ設クルコトヲ得

第六條 (船舶並乗組員選擇ノ自由)

海員ノ職業紹介ニ關シ海員ハ船舶選擇ノ自由ヲ確保セラルヘク船舶所有者ハ乗組員選擇ノ自由ヲ確保セラルヘシ

第七條 (雇入契約)

雇入契約中ニハ一切ノ關係當事者ヲ保護スルカ爲必要ナル保障ヲ包含スヘク且海員ハ署名ノ前及後ニ於テ右契約ヲ査閱スル爲相當ノ便宜ヲ確保セラルヘシ

第八條 (他國海員)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ本條約ヲ批准シタル一切ノ國ニシテ其ノ産業狀態ノ略同様ナルモノニ屬スル海員ヲシテ本條約所定ノ海員職業紹介施設ヲ(必要アルトキハ官公署ヲ介シテ)利用セシムル爲ノ措置ヲ執ルヘシ

第九條 (職員)

各國ハ甲板部職員及機關部職員ニ關シ本條約ノ規定ト同様ノ規定ヲ採用スルヤ否ヤ各自決定スヘシ

年十一月二十七日ノ「マイイー」條約及千九百二十年六月四日ノ「グラン、トリアノン」條約ノ第十三編ニ定ムル條

件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務局ニ之ヲ通告スヘシ

第十三條 (批准登錄ノ通告)

國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務局總長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ

第十四條 (本條約ノ效力發生期)

本條約ハ國際聯盟事務局總長カ前條ノ通告ヲ發シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘク且該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第十五條 (各締盟國ノ執ルヘキ措置)

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十二年七月一日迄ニ其ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第十四條ノ規定ニ從フモノトス

第十六條 (本條約ノ廢棄)

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日



ヨリ五年ノ期間満了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生セス

第十七條 (本條約實施ニ關スル報告)

國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ否ヤヲ審議スヘシ

第十八條 (用語)

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス

海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定ムル條約

(大正十三年八月 條約第七號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ千九百二十年六月十五日

右「ゼノア」ニ招集セラレ

「ゼノア」總會ノ會議事項ノ第三項目タル「客年十一

月華盛頓ニ於テ採擇セラレタル十四歳未満ノ兒童ノ使用ヲ禁止スル條約案ノ海員ニ對スル適用」ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルカ爲千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九月十日ノ「サン、ジェルマン」條約、千九百十九年十一月二十七日ノ「ヌイイー」條約及千九百二十年六月四日ノ「グラン、トリアノン」條約ノ勞働編ノ規定ニ從ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク

第二條 十四歳未満ノ兒童ハ同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶ヲ除クノ外船舶ニ於テ使用セラレ又ハ勞働スルコトヲ得ス

第三條 第二條ノ規定ハ學校船又ハ練習船ニ於ケル兒童ノ爲ス勞働ニ之ヲ適用セス但シ此ノ種ノ勞働ハ公ノ機關ノ承認ヲ得且其ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第四條 本條約ノ規定ノ實行ヲ容易ナラシムル爲各船長ハ其ノ船舶ニ於テ使用スル十六歳未満ノ一切ノ者及其ノ出生ノ日ヲ記載シタル帳簿又ハ海員名簿ヲ備附クルコトヲ要ス

第五條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト  
(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第六條 千九百十九年六月二十八日ノ「ヴェルサイユ」條約、千九百十九年九月十日ノ「サン、ジェルマン」條約及千九百十九年十一月二十七日ノ「ヌイイー」條約及千九百二十年六月四日ノ「グラン、トリアノン」條約ノ第十九編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定ムル條約

第七條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局ニ本條約ヲ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ

第八條 本條約ハ國際聯盟事務局長カ前條ノ通告ヲ發シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘク且該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第九條 本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十二年七月一日迄ニ其ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第八條ノ規定ニ從フモノトス

第十條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ十年ノ期間満了後ニ於テ國際聯盟事務局長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生セス

第十一條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ



否ヤヲ審議スヘシ  
第十二條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ  
正文トス

### 海上ニ使用セラルル兒童 及年少者ノ強制體格検査 ニ關スル條約

(大正十三年八月  
條約第八號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ  
國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ招集セ  
ラレ千九百二十一年十月二十五日ヲ以テ其ノ第三回會議  
ヲ開催シ  
右會議ノ會議事項ノ第八項目ノ一部タル海上ニ使用セラ  
ルル兒童及年少者ノ強制體格検査ニ關スル提案ノ採擇ヲ  
決議シ且  
該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決  
定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルル爲「ヴェルサイ  
ユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從  
ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス  
第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト  
私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇  
ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク  
第二條 同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使用スル船舶ニ於ケル  
場合ヲ除クノ外兒童又ハ十八歳未満ノ年少者ハ其ノ船舶  
内勞働ニ適スルコトヲ證明シ且權限アル機關ノ承認スル  
醫師ノ署名シタル健康證明書ヲ提出アルニ非サレハ之ヲ  
斯ル勞働ニ使用スルコトヲ得ス  
第三條 右ノ兒童又ハ年少者ハ一年ヲ超エサル期間内ニ右  
體格検査ノ更新アリ且新検査毎ニ其ノ海上勞働ニ適スル  
コトヲ證明スル健康證明書ヲ提出スルニ非サレハ之ヲ斯  
ル勞働ニ繼續使用スルコトヲ得ス健康證明書ノ有効期間  
カ航海中滿了スルトキハ右證明書ハ該航海ノ終了迄效力  
ヲ存スヘシ  
第四條 緊急ナル場合ニ於テハ權限アル機關ハ十八歳未満  
ノ年少者カ第二條及第三條ノ定ムル検査ヲ受ケスシテ乘  
組ムコトヲ許容スルコトヲ得但シ當該船舶ノ寄港スル最

初ノ港ニ於テ右検査ヲ受クルコトヲ要ス  
第五條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條  
約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録  
ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ  
第六條 本條約ハ事務總長カ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二  
國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘシ  
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ  
拘束スヘシ  
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ  
批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス  
第七條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局  
ニ本條約ノ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際  
勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ事務總長  
ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一  
切ノ締盟國ニ同様ニ通告スヘシ  
第八條 本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十四年一月  
一日迄ニ第一條、第二條、第三條及第四條ノ規定ヲ實施  
シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置ヲ執ルコトヲ  
約ス尤モ第六條ノ規定ニ從フモノトス  
第九條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「ヴ  
海上ニ使用セラルル兒童及年少者ノ強制體格検査ニ關スル條約

エルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸  
條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國  
ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス  
第十條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力  
發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務局總長  
宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ  
廢棄ハ該事務局ニ登録アリタリ日以後一年間ハ其ノ效力  
ヲ生セス  
第十一條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回  
本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改  
正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ  
否ヤヲ審議スヘシ  
第十二條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ  
正文トス



# 石炭夫又ハ火夫トシテ使 用シ得ル年少者ノ最低年 齡ヲ定ムル條約

(昭和五年十二月  
條約第十號)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ召集セ  
ラレ千九百二十一年十月二十五日ヲ以テ其ノ第三回會議  
ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第八項目ノ一部タル十八歳未満ノ者  
ノ石炭夫又ハ火夫トシテノ使用ノ禁止ニ關スル提案ノ採  
擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決  
定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルカ爲「ヴェルサ  
イユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ  
從ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條 本條約ニ於テ「船舶」ト稱スルハ其ノ公有タルト

私有タルトヲ問ハス海洋航行ニ從事スル各種ノ船舶舟艇  
ヲ總テ包含ス但シ軍艦ハ之ヲ除ク

第二條 十八歳未満ノ年少者ハ船舶ニ於テ石炭夫又ハ火夫  
トシテ使用セラレ又ハ勞働スルコトヲ得ス

第三條 第二條ノ規定ハ左ニ付之ヲ適用セス

(イ) 學校船又ハ練習船ニ於ケル年少者ノ爲ス勞働但シ  
此ノ種ノ勞働ハ公ノ機關ノ承認ヲ得且其ノ監督ヲ受ク  
ヘキモノトス

(ロ) 蒸汽以外ノモノニ依リ主トシテ推進スル船舶ニ於  
ケル年少者ノ使用

(ハ) 十六歳以上ノ年少者ニシテ體格検査ニ合格シ印度  
及日本ノ沿岸貿易ニ専ラ從事スル船舶ニ石炭夫又ハ火  
夫トシテ使用セララルモノ尤モ右二國ニ於ケル最代表  
的ナル使用者團體及勞働者團體ト協議ノ上定メラルル  
規則ニ從フヘキモノトス

第四條 十八歳未満ノ年少者ニ非サレハ石炭夫又ハ火夫ト  
シテ雇入レ難キ港ニ於テ之ヲ必要トスルトキハ右年少者  
ト雖使用スルコトヲ得ヘク且右ノ場合ニ於テハ必要ナル  
石炭夫又ハ火夫一名ニ代ヘテ年少者二名ヲ雇備スルコト

ヲ要ス右年少者ハ少クトモ十六歳タルヘシ

第五條 本條約ノ規定ノ實行ヲ容易ナラシムル爲各船長ハ  
其ノ船舶ニ於テ使用スル十八歳未満ノ一切ノ者及其ノ出  
生ノ日ヲ記載シタル帳簿又ハ海員名簿ヲ備附クルコトヲ  
要ス

第六條 乗組員ノ雇入契約ニハ本條約ノ規定ノ要綱ヲ記載  
スヘシ

第七條 「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條  
約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登録  
ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

第八條 本條約ハ事務總長カ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二  
國ノ批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スヘシ

本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登録シタル締盟國ノミヲ  
拘束スヘシ

爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ  
批准ヲ登録シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第九條 國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局  
ニ本條約ノ批准ノ登録ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際  
勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ事務總長  
ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一

石炭夫又ハ火夫トシテ使用シ得ル年少者ノ最低年齡ヲ定ムル條約

切ノ締盟國ニ同様ニ通告スヘシ

第十條 本條約ヲ批准スル締盟國ハ千九百二十四年一月一  
日迄ニ第一條、第二條、第三條、第四條、第五條及第六  
條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措  
置ヲ執ルコトヲ約ス尤モ第八條ノ規定ニ從フモノトス

第十一條 本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「  
ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和  
諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護  
國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第十二條 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效  
力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務局  
長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右  
ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日以後一年間ハ其ノ效  
力ヲ生セス

第十三條 國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回  
本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改  
正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲クヘキヤ  
否ヤヲ審議スヘシ

第十四條 本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ  
正文トス